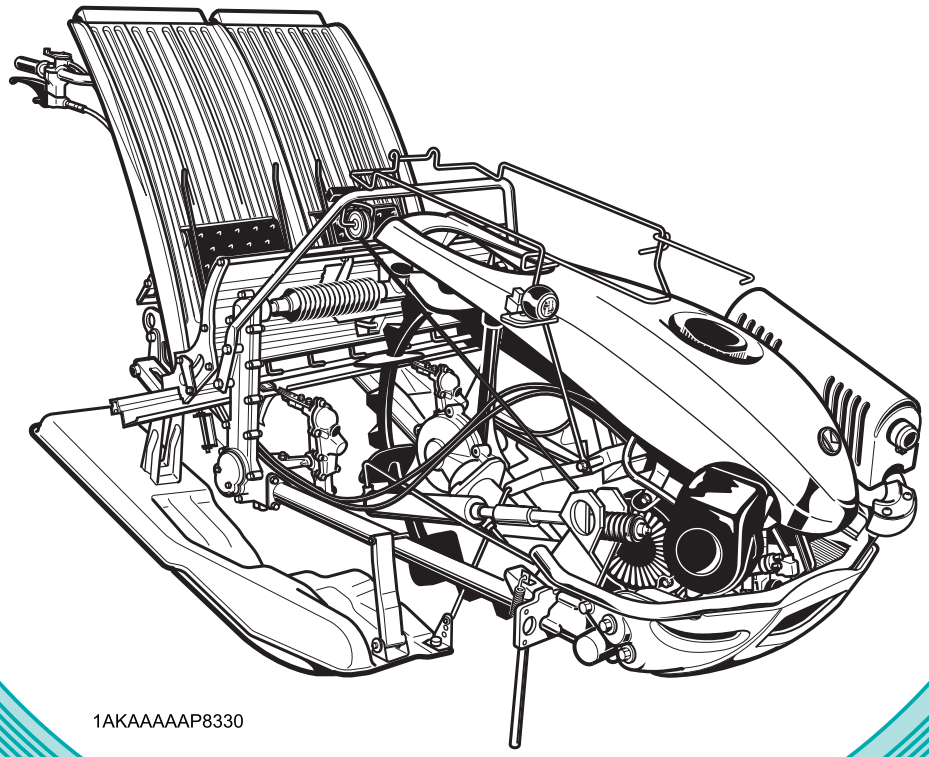
クボタ歩行田植機

取扱説明書

SPW-28c



1AKAAAAAP8330

Operator's manual

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	エンジン回転数**［低回転］** 変速**［低速］**
	エンジン始動
	植付クラッチレバー
	車輪クラッチレバー
	車輪高さ調整

	エンジン回転数**［高回転］** 変速**［高速］**
	エンジン停止
	チョーク
	苗取量
	植付深さ

専門用語の説明

● **車輪クラッチレバー**	レバーを握るとロックされ，機体が停止し，ロックを解除すると走行するレバーです。
● **植付クラッチレバー**	レバーを握るとロックされ，植付部が停止し，ロックを解除すると植付部が作動するレバーです。
● **車輪高さ調節レバー**	車輪高さを調節して機体の「上昇」「下降」「固定」を操作するレバーです。
● **変速切換えレバー**	全ての動力の入切や機体の移動速度を「高速」「低速」どちらかに切換えるレバーです。
● **スロットルレバー**	エンジンの回転を調整するレバーです。
● **フロート**	ほ場表面に浮き，機体を支える部分です。
● **安全クラッチ**	植付爪に障害物が詰まったとき，動力伝達ギヤの破損を防止するために，植付部の動力を断つ装置です。
● **ボンネット**	機体前部にあるエンジンを覆っている樹脂のカバーです。
● **ナエキーパ（オプション）**	苗こぼれによるバラケ・浮苗を防止するための金具です。
● **ナエクリーナ（オプション）**	植付爪の間に苗を詰まりにくくするための金具です。
● **隣接マーカ（オプション）**	適正な隣接条間を保つために，隣接条の苗に合わせるマーカです。

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲の苗の植付け用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

目　次

⚠安全に作業するために

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください 1
2. 表示ラベルと貼付位置 11
3. 表示ラベルの手入れ 12

サービスと保証について

各部の名称と装置の取扱い

各部の名称 **2**
装置の取扱い **4**
車輪クラッチレバー 4
植付クラッチレバー 4
メインスイッチ 4
変速切換えレバー 5
スロットルレバー 5
スタンド 5
チョークノブ 5
車輪高さ調節レバー 6
予備苗のせ台 6
ハンドル高さの調節 7
取扱い作業のポイント **7**
植付作業の手順 7
旋回のしかた 7

運転前の点検について

始動前の給油と注油 **8**
給・注油箇所一覧表 9
ガソリン 10
エンジンオイル 10
トランスミッションオイル 11
グリス又はギヤオイル 11
日常点検項目 **13**

上手な運転のしかた

新車時の扱いかた **15**
ならし運転について 15
エンジンの始動と停止 **15**
始動のしかた 15
停止のしかた 17
移動走行のしかた **17**
発進のしかた 17
停車のしかた 18
トラックなどへの積込み・積降ろし **18**
積込み・積降ろしのしかた 18
ほ場への出入り **19**
ほ場への出入り・あぜごえのしかた 19

上手な植付けのしかた

ほ場と苗の条件 **20**
ほ場条件 20
苗条件 21
田植作業前の準備 **22**
株数の決定と調節 22
苗の使用量 23
横送り量の調節 23
車輪深さの調節 25
植付作業のしかた **25**
植付作業の順序と方法 25
安全クラッチ 27
苗の補給 27
枕地のとり方 28
旋回のしかた 28
あぜぎわの植付け 29
植付作業中の調節 30
苗ステー・苗押さえ棒の調節 32
苗ガイドの取外し方 33

メンテナンス

各部のオープン（開閉）のしかた **34**
ボンネットの開けかた 34
定期点検 **35**
廃棄物の処理について 35
洗車時の注意 36
定期点検一覧表 37
給・注油（水）点検一覧表 38
エンジンオイルの交換 39
トランスミッションオイルの交換 39
植付アームグリースの補給 40
分解時に補給 40
燃料フィルタポットの掃除 40
エアクリーナエレメントの掃除 42
点火プラグの掃除・調整 42
燃料フィルタ・燃料パイプの点検 43
車輪クラッチ・植付クラッチの調整 44
マフラ部の掃除 44
植付爪・押出しロッドの点検・交換 45
車輪のタイヤの点検 47
苗のせ台のしゅう動板とホルダの点検 48
電装部の各配線コードの点検・交換 48
ランプ（電球）の点検・交換 48

長期格納時の手入れ

田植機の不調と処置

欠株が出る **51**
浮苗が出る・植付けが乱れる **53**
浮苗が出る・植付けが悪い **54**

目　次

植付けが乱れる・欠株が出る 55
その他の不具合 55

付表

主要諸元 57
オプション（別売品）（純正品を使いましょう） 58
苗キーパ 58
隣接マーカ 58
クリーナ 58
植付爪（はし爪） 58
主な消耗部品一覧表 59
付属部品 62

⚠ 安全に作業するために　　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠警 告・⚠注 意・重 要・補 足としてそのつど取上げています。

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

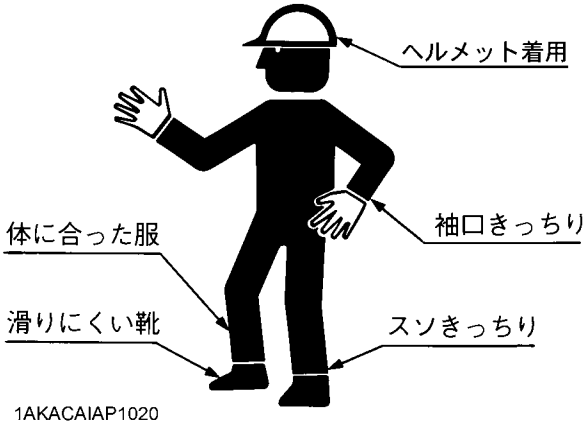
⚠安全指示順序

- 本書及び本機の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。
- 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。また，破損・紛失したときは注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。
- ほかの人に機械を貸すときは，取扱方法や安全のポイントをよく説明し，この取扱説明書をよく読むように指導してください。

1AHACACAP001A

⚠作業に合った服装及び健康状態

- 作業に合ったキチンとした作業着を着用してください。
- だぶついた服装は，回転部に巻込まれやすく危険です。また靴は，すべらないものを使用してください。
- ヘルメット，滑りにくい靴を着用し，必要に応じて安全靴，保護メガネや手袋などを着用してください。



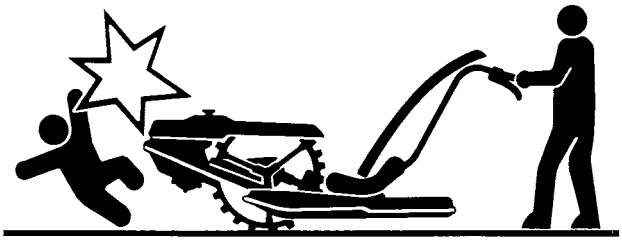
1AKACAIAP1020

- お酒を飲んでいる方，睡眠不足の方，妊娠中のご婦人，過労，病気の人は使用しないでください。
- 初めて運転する人は，操作に慣れるまで低速で運転してください。

1AKAAAAAP6160

⚠子供に注意

- 点検・調整中および機械の移動・田植作業中は，機械に子供を近づけないでください。いきなり駆動部にさわったりするなど，傷害事故の原因になります。



1AKAAAAAP821A

⚠使用前の準備・点検

- 使用前の点検は必ず行なってください。
- 燃料の給油・オイル交換・注油・機械の点検は，各クラッチを切り，エンジンを止めてから行なってください。
- 火気厳禁

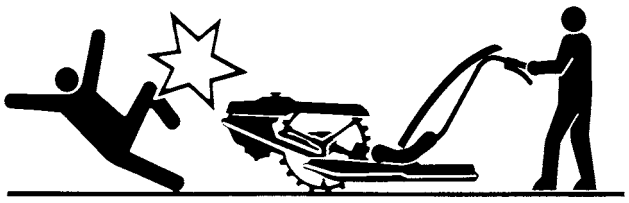
1AKAAAAAP6200

- 燃料の補給は，エンジンを止め，エンジンが冷えてから行なってください。
  火気厳禁です。
- 点検・調整などで取外した部品は，必ず元の位置に取付けてから作業してください。
- 点検・調整などのときは，平坦な場所で機体を下げた状態にして作業してください。

1AKAAAAAP822A

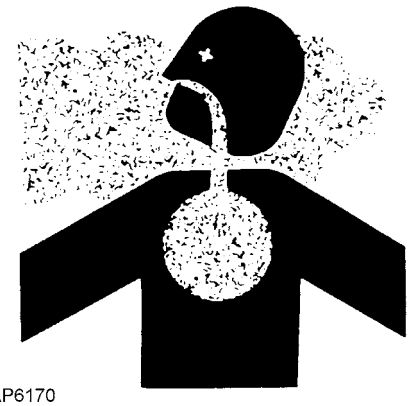
⚠エンジンの始動

- 機械を動かす場合は周囲の安全に気を付けてください。
- エンジンを始動するときは，各クラッチを**［切］**にし，変速切換えレバーを**［エンジン始動］**位置にして行なってください。
- リコイルスタータハンドルを引張るときは，手が人や物に当たらないよう注意してください。
- リコイルスタータを引くときは，片手で機械を支えてバランスを取ってください。



1AKAAAAAP823A

- エンジンの始動や機械の発進のときは，周囲の安全を十分に確認し合図をして，人を機械に近づけないでください。
- エンジンの排気ガスは有毒です。屋内で始動するときは，窓・扉を開け，外気が十分に入るようにしてください。



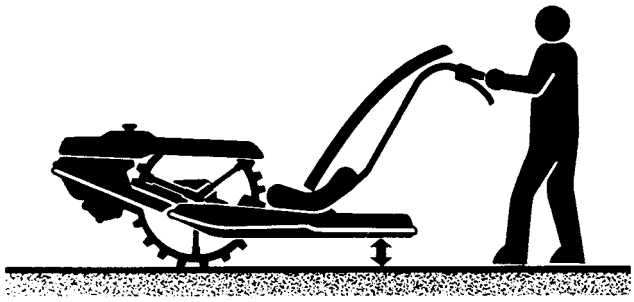
1AKAAAAAP6170

⚠走行運転

- この機械は，一般道路は走れません。
- 一般道路はトラックに積むなど別の運送方法で移動してください。

1AKAAAAAP824A

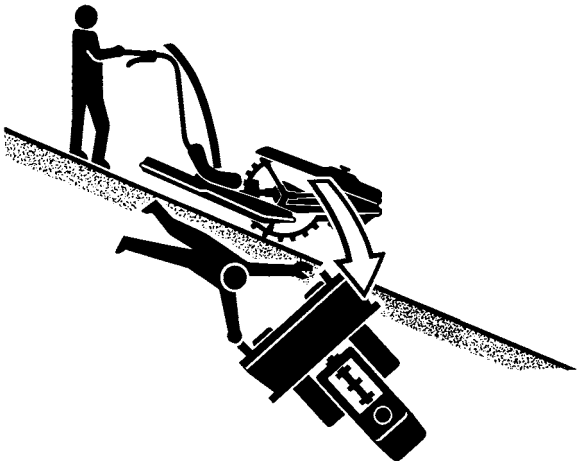
- フロートと地面の間に十分な間隔をとり，機械が地面と接触しないよう走行してください。
- 機械の周囲の人，物に注意して，ゆっくり発進してください。特に苗のせ台の接触には注意してください。
- 初めて運転される方は，操作に慣れるまで低速で運転してください。
- 予備苗のせ台の上などに物を乗せないでください。荷物は，めんどうでも，別の交通手段などで運搬してください。
- わき見・手ばなし運転はしないでください。気のゆるみが大事故につながります。
- 苗のせ台は機体中央の位置にして走行してください。
- 発進する場合は，車輪高さ調節レバーの**［固定］**を確認してください。
- 急発進・急旋回はしないでください。
- 発進するときは,変速切換えレバーを**［低速］**にし，スロットルレバーを**［低］**にし，車輪クラッチレバーを**［入］**にしてください。



1AKAAAAAP825A

⚠ 坂道走行

- 坂道では絶対に車輪クラッチレバーを操作しないでください。動力伝達が切れ，機械が急降下し，大事故につながります。
- 坂道では絶対に変速切換えレバーを操作しないでください。動力伝達が切れ，機械が急降下し，大事故につながります。
- 坂道での駐・停車は行わないでください。やむをえず駐・停車するときは，車輪に車止めをしてください。

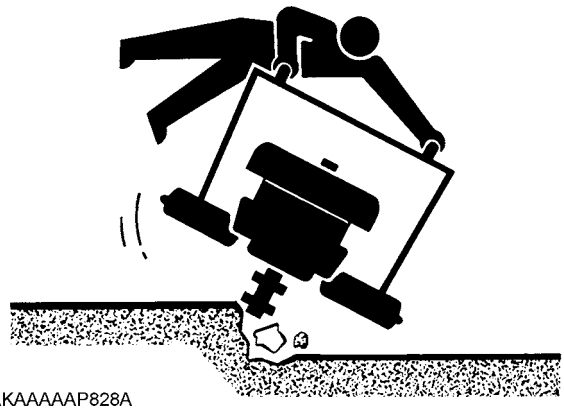


1AKAAAAAP826A

1AKAAAAAP827A

⚠ 農道・ほ場の移動

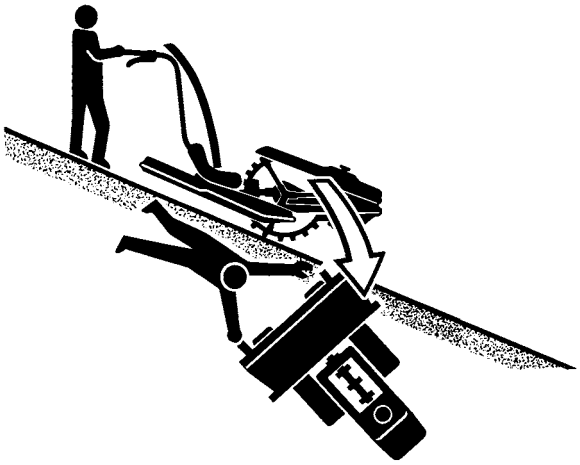
- 機体を十分上げて，ゆっくり走行してください。
- 路肩くずれに注意してください。
- 雨あがりのとき，狭い農道では，速度をおとして慎重に走行してください。
- 対向車をさけるときは，無理に端いっぱいに寄らず，一旦停止して対向車をやりすごしてください。
- 苗のせ台は機体中央位置で走行してください。
- 周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。



1AKAAAAAP828A

⚠ほ場の出入り

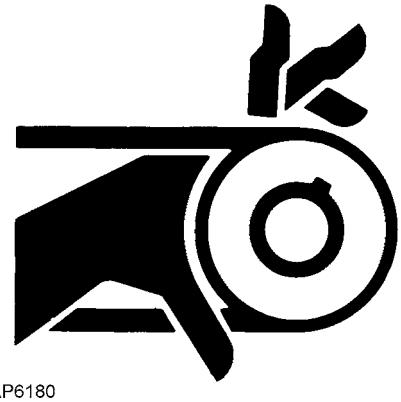
- ほ場の出入り，土手などの急斜面の登り降り，あぜ越のときには，必ずあゆみ板を使うか，ほ場に出入口傾斜や渡り橋を作ってください。また途中で車輪クラッチレバーを切ったり，変速切換えレバーを操作しないでください。機械が急降下，急旋回して大変危険です。
- あゆみ板は，機械の重量に耐える強度（金属製）で，段差に対して４倍以上の長さのもの，また，横サンとスベリ止めのついたものを使用してください。
- あぜ・溝に対して機械を直角にとめ，あゆみ板が機械の車輪に合い，平行になっているかを確認してください。
- 機械を真っ直に直し，真っ直に登ってください。
- 途中で変速切換えレバーを**［エンジン始動］**位置にしないでください。
- 植付部は停止させてください。
- 機械を持ち上げるときは必ず３人で持ち上げてください。



1AKAAAAAP826A

⚠ほ場での作業

- 苗を補給するときは，車輪クラッチレバーを**［切］**に，植付クラッチレバーを**［切］**にしてください。
- 補助者がいる場合，互いに合図で確認するようにしてください。
- 異常に気付いたらすぐに各クラッチを切り，エンジンを止めてください。
- 回転部分・作動部分・高温部に触れないように注意してください。
- 植付爪にはさまった小石などを除くときは，必ず車輪クラッチレバーを**［切］**にし，変速切換えレバーを**［エンジン始動］**位置にし，植付クラッチレバーを**［切］**にして，エンジンを停止し，完全に止まったのを確認してから行なってください。
- リコイルスタータハンドルを引くときは，片手で機械を支えてバランスを取ってください。



1AKAAAAAP6180

- 植付作業時は，ハンドルを両手で握り，決して片手運転はしないでください。
- あぜ際で旋回するときは，あぜの周囲の人や物に十分注意してください。
- 次のような場合は植付部を停止させてください。
  ＊ 旋回するとき
  ＊ 苗のせ台に苗を補給するとき
  (このときは車輪クラッチも切ってください。)
- 作業中は，ほ場に人を入れたり，機械に人を近付けたりしないでください。
- 夜間作業は絶対にしないでください。

1AKAAAAAP6190

⚠機械から離れるとき及び走行・作業途中の駐車・点検

- 機械から離れるときは，坂道などの傾斜地を避け，平坦な場所へ移動してください。
- 作業時，機械から離れたり，点検するときは，各クラッチを切ってエンジンを止めてください。
- やけどのおそれがあるのでエンジン・マフラ・排気管などの高温部に触れないよう注意してください。

1AKAAAAAP6190

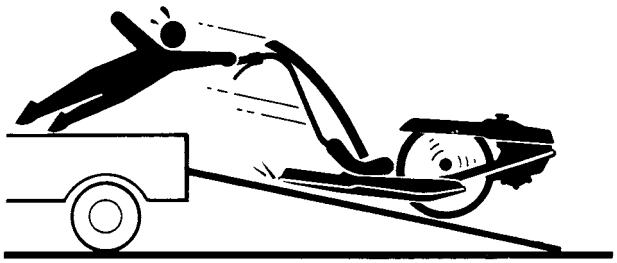
⚠ヤケド防止

- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管及びその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるためじゅうぶんに温度が下がって，残圧がないことを確かめて整備してください。
- エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。
  運転中及び停止直後は触れないでください。

1AKAAAAAP6190

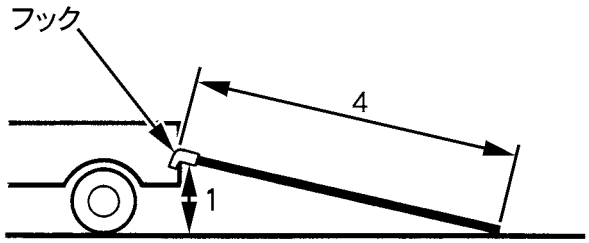
⚠トラックなどへの積込み・積降ろし

- 積込み・積降ろしは平坦かつ地盤の硬い場所で行なってください。
- 積込み又は積降ろしを開始する前に，トラックの駐車ブレーキがかかっているかを確認してください。
- スロットルレバーでエンジン回転を低速にし，変速切換えレバーを**［低速］**にしてください。
- 脱輪及び足を踏み外さないように注意してください。



1AKAAAAAP829A

- アユミ板は十分に強く滑り止めがあり，トラックの荷台床面から地面までの高さ**【1】**に対し，アユミ長さ**【4】**以上のものを使用してください。



1AKAAAAAP486A

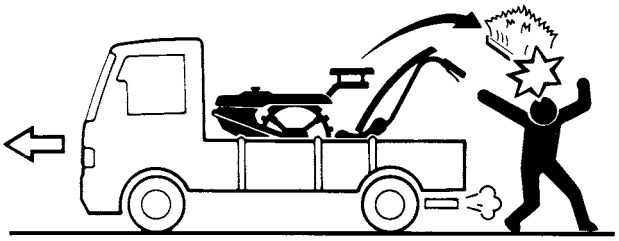
あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台床面の高さの４倍以上
幅	30cm 以上
数量	１枚
強度	150kg 以上の重量に耐えうる

- アユミ板の途中では，絶対に車輪クラッチレバーを切ったり，変速切換えレバーを**［エンジン始動］**位置にしたりしないでください。機体が急降下し，大変危険です。
- 長靴や靴，アユミ板に泥等がついて滑りやすくなっていないか確認してください。
- 補助者をつけて行なう場合は，合図を確認し合い，周囲の安全を十分に確認してください。また，機械の進行方向の前には絶対に立たないでください。
- アユミ板は機械の車輪幅に合うようにし，荷台に平行に掛けてください。

⚠ トラックなどでの運搬

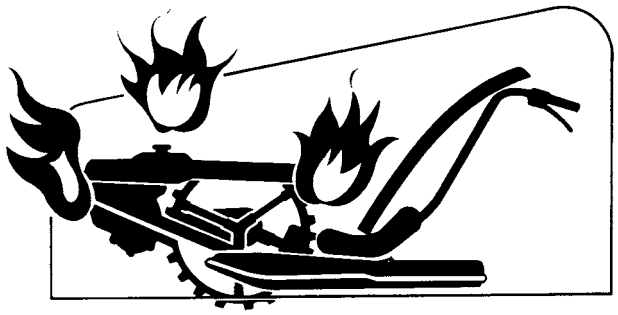
- トラックの荷台上では，機体を下げた状態で運搬してください。
- 運搬するときは必ず燃料コックレバーを**[閉]**位置にし，機体をロープで固定してください。
- スタンドを立て，車輪とバンパ等にロープを掛け，確実に固定してください。ハンドルには掛けないでください。(詳細は 18 ページを参照)
- 運送中は，不必要な急発進・急停止・急ハンドルはしないでください。
- 苗のせ台・予備苗のせ台などにのせてある物は，必ず降ろしておいてください。



1AKAAAAAP830A

⚠ 使用後の手入れ

- 点検・手入れ・掃除・調整は，エンジンを止めて行なってください。
- 格納するときは，平坦な場所で機体を下げた状態で置いてください。
- 本機カバーやシートなどをかける場合は，エンジンなど加熱部分が十分冷えてからにしてください。火災の原因になります。
- 長期格納時には，燃料タンクと燃料コックのポット及びキャブレター内のガソリンを抜取ってください。
- 機械の改造は絶対にしないでください。故障や事故の原因になり大変危険です。



1AKAAAAAP831A

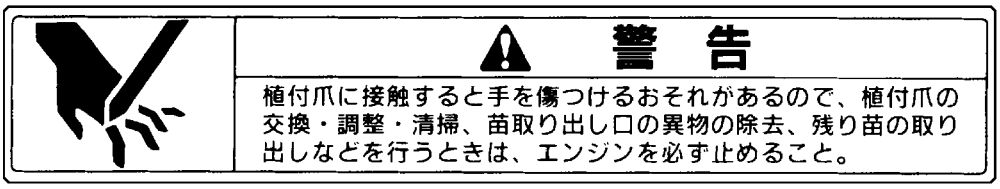
■ 廃棄物の処理について

- 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
- 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
- 廃油，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

1BJABAAAP018B

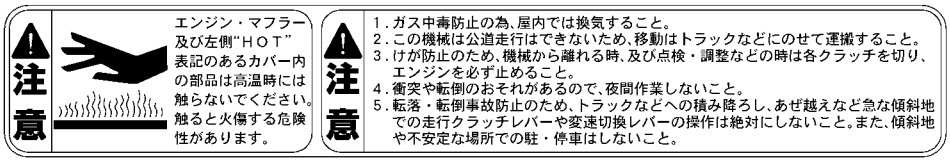
2. 表示ラベルと貼付位置

(1) 品番　PG231-8943-0



1AKACAXAP166A

(2) 品番　PG231-8983-0



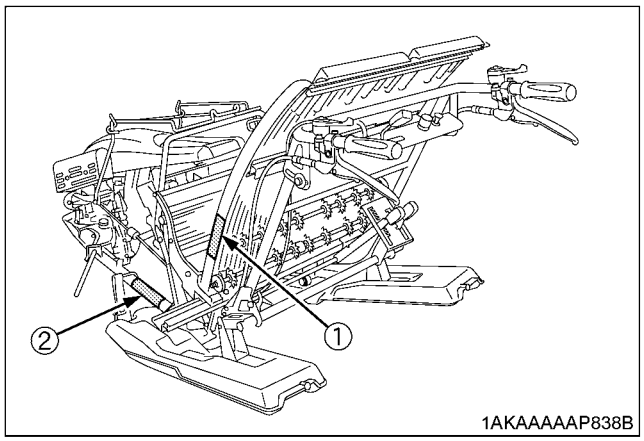
1AKAAAAAP934A

(3) 品番　PG231-8939-0

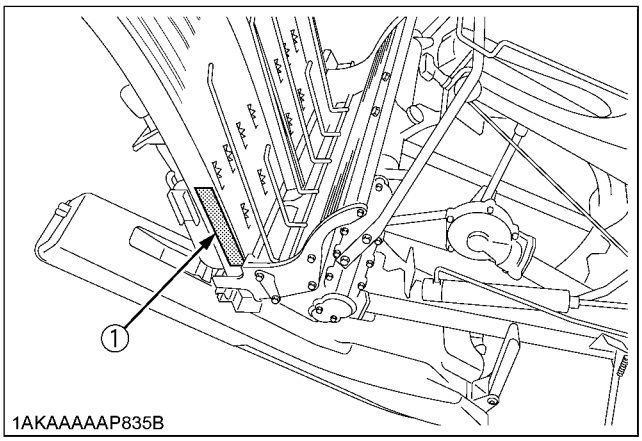
1AKAAAAAP909B

(4) 品番　PG231-8921-0

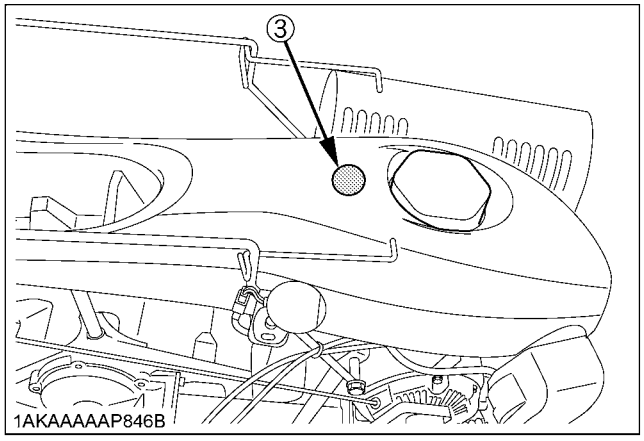
1AKAAAAAP935A



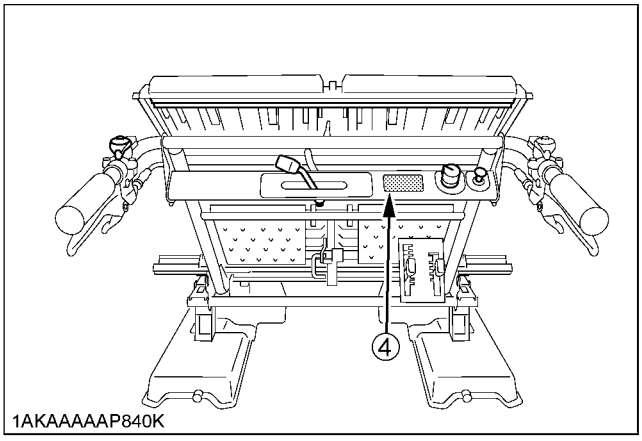
1AKAAAAAP838B



1AKAAAAAP835B



1AKAAAAAP846B



1AKAAAAAP840K

1AKAAAAAP9360

3. 表示ラベルの手入れ

⚠表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルはいつもきれいにして，傷つけないようにしてください。
- ⚠ 表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
- もしラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでさい。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**［ご相談窓口］**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
1. 型式名・区分と製造番号
2. 搭載機関（エンジン）の型式名と番号

をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

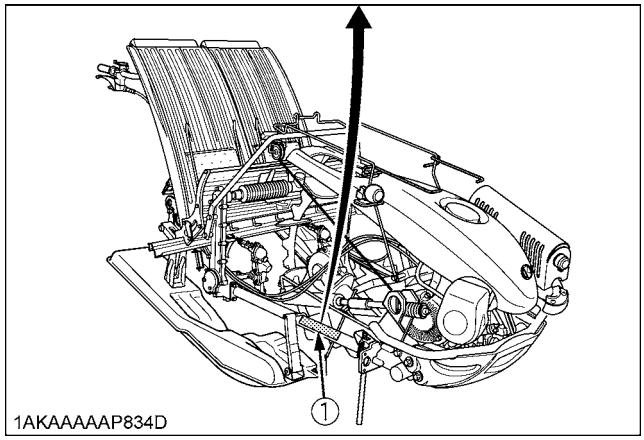
重　要

＊ エンジンで封印されている所はさわらないでください。(封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。)

■ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

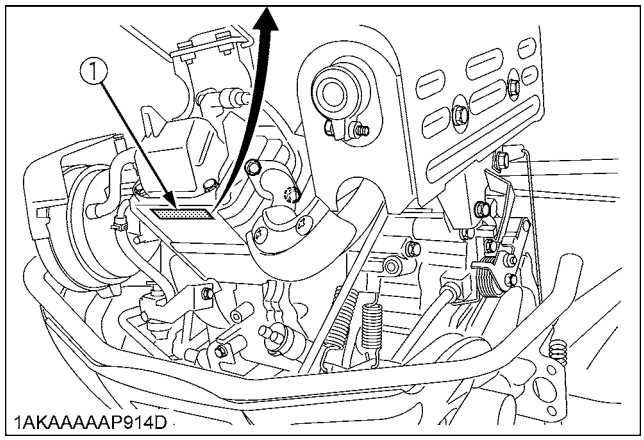
1AKADAMAP007A



1AKAAAAAP834D

① ・型式名
・製造月日と製造番号

MODEL CODE	MODEL NAME	SPECIFICATION (OUT LINE)	ENGINE SERIAL NO.
7CY2	MZ80B1	P.T.O. SHAFT B TYPE, MOUNT FACE (mm) TANK LESS	

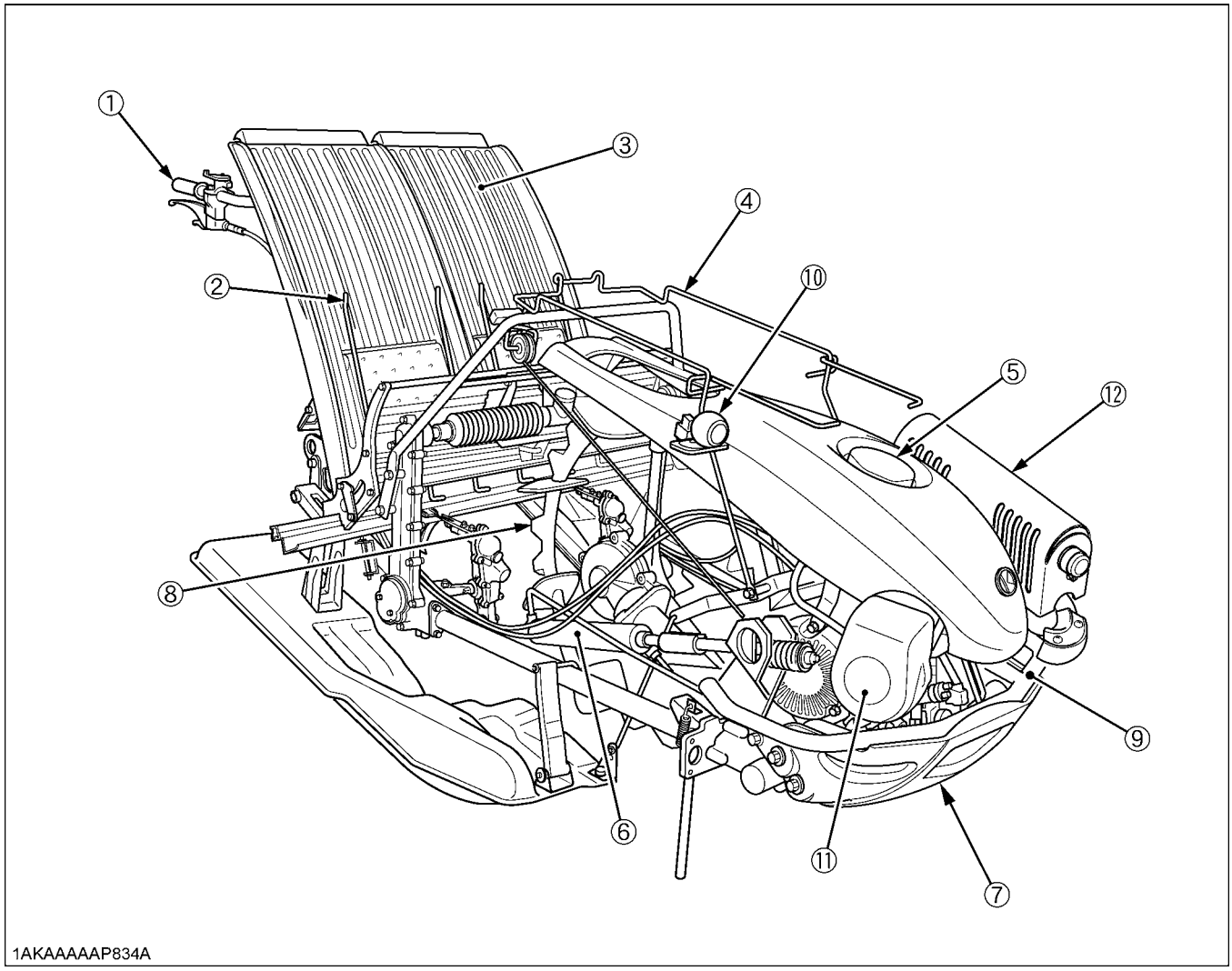


1AKAAAAAP914D

① ・エンジン型式名と番号

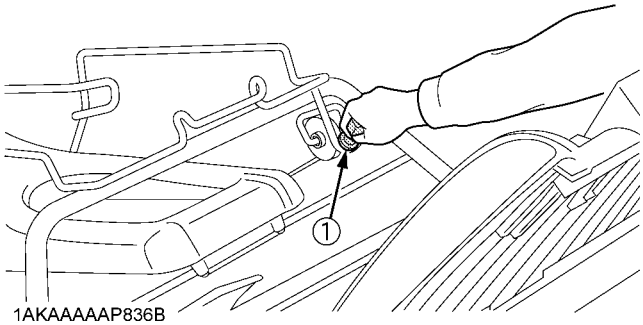
各部の名称と装置の取扱い

各部の名称

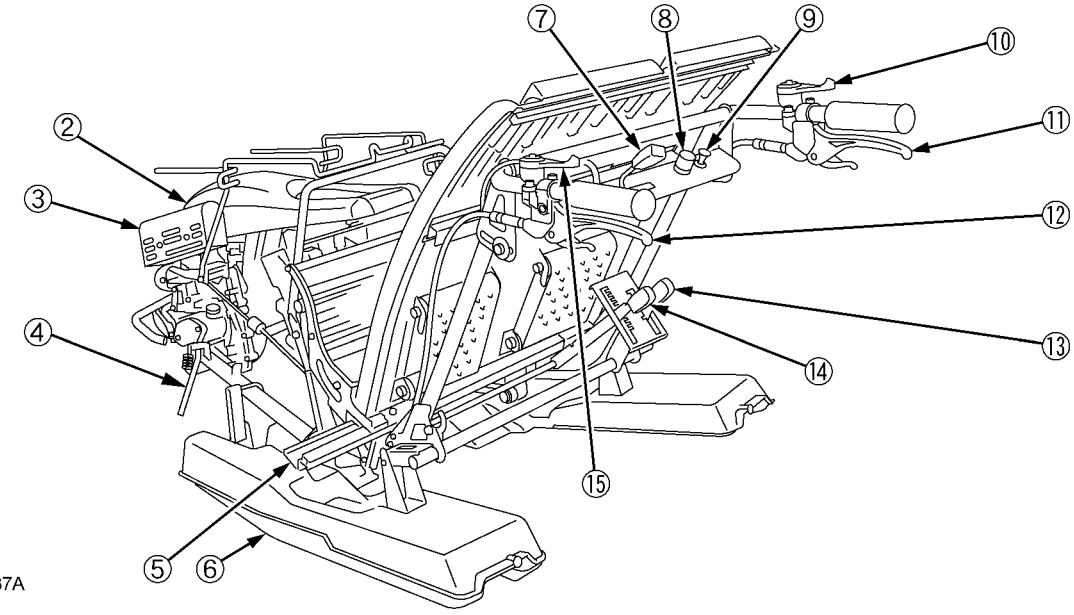


1AKAAAAAP834A

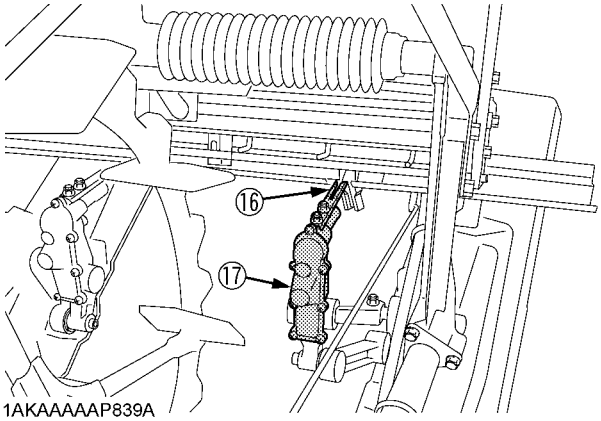
① ハンドル
② 苗ステー
③ 苗のせ台
④ 予備苗のせ台
⑤ 燃料タンクキャップ
⑥ 油圧シリンダ
⑦ プロテクタ
⑧ 車輪
⑨ バンパ
⑩ 作業灯
⑪ エアクリーナ
⑫ マフラ



1AKAAAAAP836B



1AKAAAAAP837A



1AKAAAAAP839A

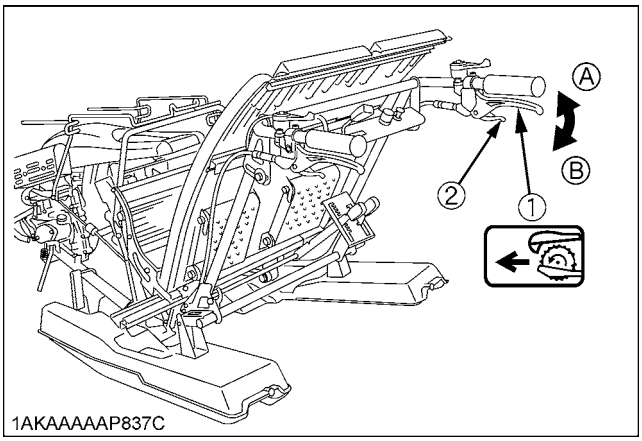
① リコイルスタータハンドル
② ボンネット
③ マフラ
④ スタンド（左右 2 箇所）
⑤ しゅう動板
⑥ フロート
⑦ 変速切換えレバー
⑧ メインスイッチ
⑨ チョークノブ
⑩ スロットルレバー
⑪ 車輪クラッチレバー
⑫ 植付クラッチレバー
⑬ 植付深さ調節レバー
⑭ 苗取り量調節レバー
⑮ 車輪高さ調節レバー
⑯ 植付爪
⑰ 植付アーム

装置の取扱い

■車輪クラッチレバー

[切]……車輪クラッチレバーを握ると車輪クラッチが切れて，走行しなくなります。

[入]……ロックレバーを握ると車輪クラッチレバーが戻り，車輪クラッチが入って走行します。



1AKAAAAAP837C

① **車輪クラッチレバー**　Ⓐ **[切]**
② **ロックレバー**　Ⓑ **[入]**

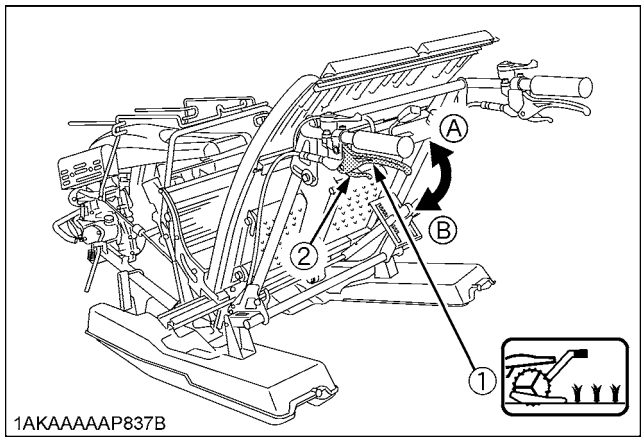
重　要

＊ 車輪クラッチレバーを握ると，自動的にロックレバーがロックされ走行しない状態になります。
＊ ロックレバーを握って解除すると，車輪クラッチレバーが戻って走行する状態になります。

■植付クラッチレバー

[切]……植付クラッチレバーを握ると植付クラッチが切れて，植付部が停止します。

[入]……ロックレバーを握ると植付クラッチレバーが戻り，植付クラッチが入って，植付部が作動します。



1AKAAAAAP837B

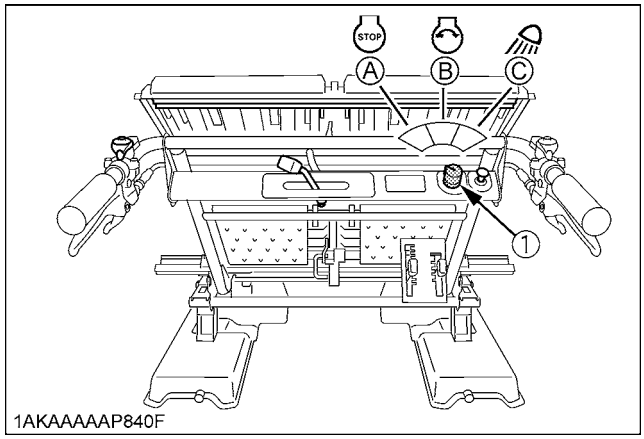
① **植付クラッチレバー**　Ⓐ **[切]**
② **ロックレバー**　Ⓑ **[入]**

重　要

＊ 植付クラッチレバーを握ると，自動的にロックレバーがロックされ植付部が停止した状態になります。
＊ ロックレバーを握って解除すると，植付クラッチレバーが戻って植付部が作動します。

■メインスイッチ

エンジンの始動，停止及び作業灯の点灯，消灯を行なうスイッチです。

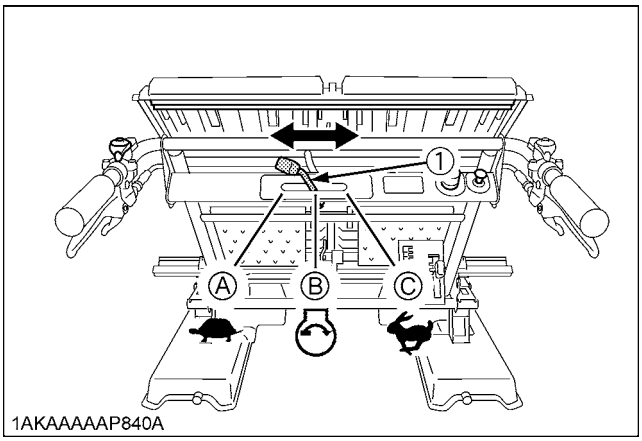


1AKAAAAAP840F

① **メインスイッチ**　Ⓐ **[エンジン停止]**
Ⓑ **[エンジン始動，消灯]**
Ⓒ **[エンジン始動，点灯]**

■変速切換えレバー

1. エンジン始動時は，レバー位置を**［エンジン始動］**位置にしてください。
2. 田植作業は，レバー位置が**［高速］・［低速］**のどちらでも使用できます。
3. 旋回のときは，レバー位置を**［低速］**にすると楽に行なえます。



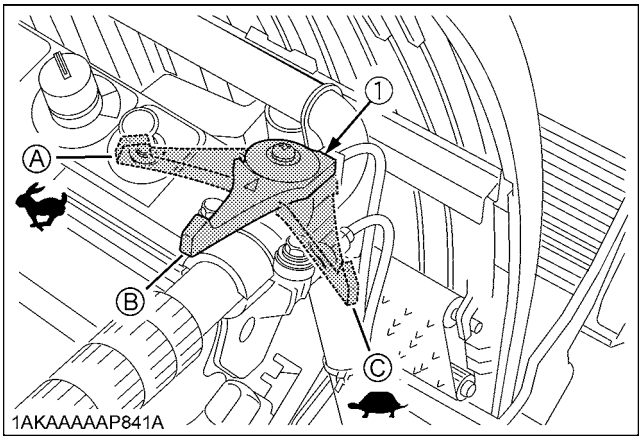
① **変速切換えレバー**　Ⓐ **［低速］**　Ⓑ **［エンジン始動］**　Ⓒ **［高速］**

重　要

＊ 変速切換えレバーを**［エンジン始動］**位置にしないとエンジンが始動しません。

■スロットルレバー

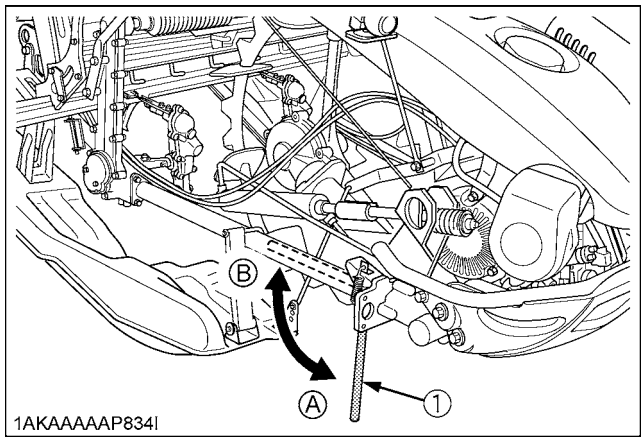
［高］……エンジン回転が上がります。
［始］……エンジンを始動させる位置。
［低］……エンジン回転が下がります。



① **スロットルレバー**　Ⓐ **［高］**　Ⓑ **［始］**　Ⓒ **［低］**

■スタンド

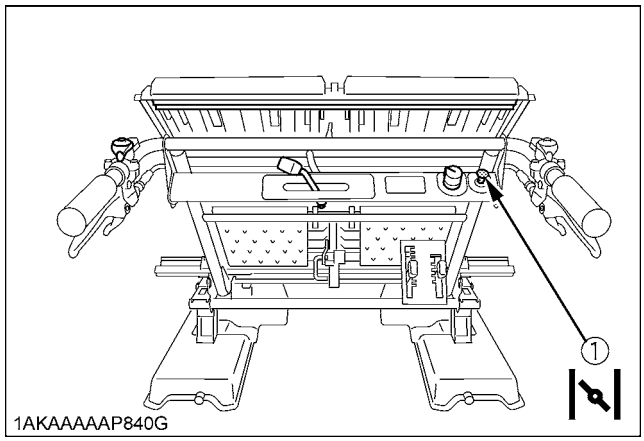
［固定］……長期収納のとき。
　　トラックなどでの運搬のとき
［解除］……植付作業のとき。



① **スタンド**　Ⓐ **［固定］**　Ⓑ **［解除］**

■チョークノブ

エンジンの始動を容易にするレバーです。
ノブを引くと燃料の混合気が濃くなります。



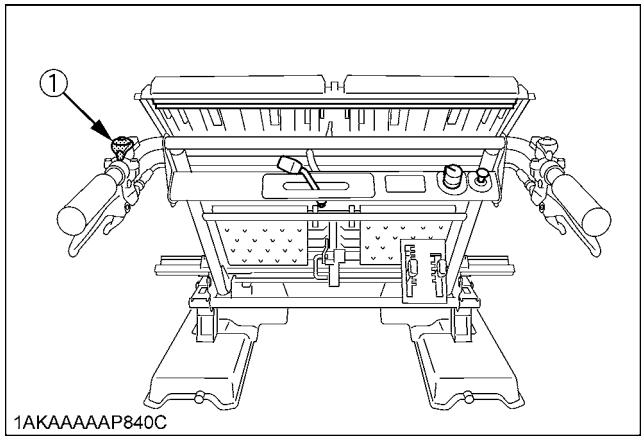
① **チョークノブ**

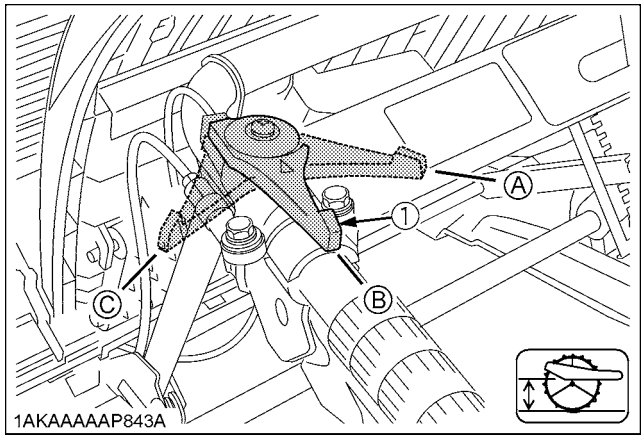
■車輪高さ調節レバー

[植付]……油圧が作動して，車輪が上昇することで機体が下降します。ほ場内ではこの位置にします。

[固定]……油圧が作動せず，車輪位置が固定します。エンジンを始動するときもこの位置にします。

[上昇]……油圧が作動して，車輪が下降することで機体が上昇します。

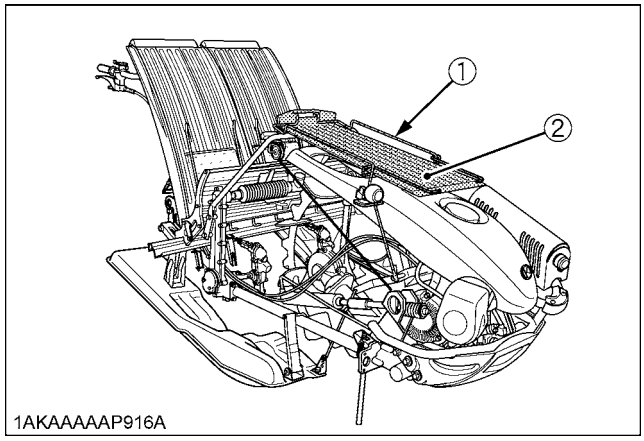




① **車輪高さ調節レバー**　Ⓐ **[上昇]**　Ⓑ **[固定]**　Ⓒ **[植付]**

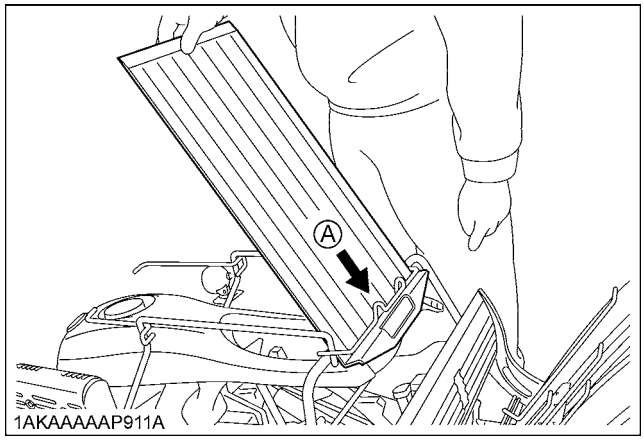
■予備苗のせ台

長いほ場で作業するときは，途中で苗補給が便利なように，苗すくい板を予備苗のせ台に装着して苗を積むことができます。

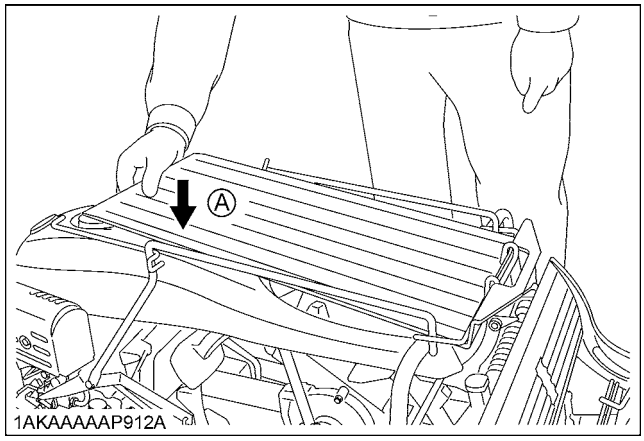


① **予備苗のせ台**
② **苗すくい板**

◆ 苗すくい板装着方法



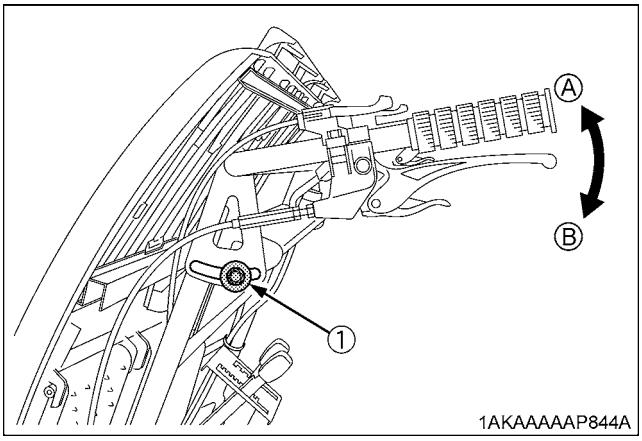
Ⓐ **はめ込む**

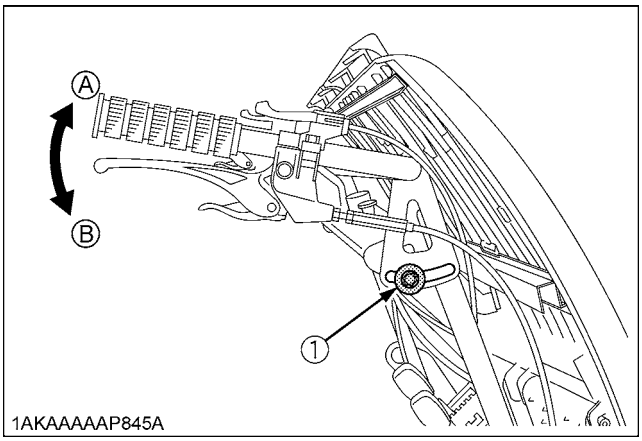


Ⓐ **押す**

■ハンドル高さの調節

左右の締付けボルトをゆるめ，ハンドルを上下させ，使いやすい高さに調節し，ボルトを締付けて固定してください。





① ボルト　　Ⓐ 上
Ⓑ 下

取扱い作業のポイント

■植付作業の手順

◆ 植付準備

1. ほ場に入る前に，スタンドを**［解除］**位置にしてください。
2. ほ場に入り，車輪高さ調節レバーを**［ 植付 ］**にし，車輪クラッチレバーを**［切］**にしてください。
3. 植付クラッチレバーを**［入］**にし，苗のせ台を右端又は左端に寄せてください。
4. 苗のせ台が端まできて縦送り（ベルト）作動直後に植付クラッチレバーを**［切］**にし植付爪を停止させてください。
5. 苗のせ台にていねいに苗をのせてください。
6. 植付深さ調節レバー，苗取り量調節レバーを希望する位置にセットしてください。

◆ 植付

7. 変速切換えレバーを希望位置にセットしてください。
8. 植付クラッチレバーを**［入］**にしてください。
9. エンジン回転を**［高］**にして車輪クラッチレバーを**［入］**にし，植付けを開始してください。

◆ 植付停止

10. 植付けを止めるときは，植付クラッチレバーを**［切］**にして，走行も同時に止めるときは車輪クラッチレバーを**［切］**にしてください。

■旋回のしかた

1. （エンジン回転を下げて）植付クラッチレバーを**［切］**にします。
2. ハンドルを持上げながら旋回する側に少し傾斜させ，ハンドルを後方に引き気味に，自分から先に回ります。
3. 旋回が終れば，隣接条間が合うようにハンドルで操作してください。
4. 植付クラッチレバーを**［入］**にして適当な作業速度で植付けてください。

運転前の点検について

始動前の給油と注油

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は，13 ページを参照。）

警　告

＊ 平たんな場所で必ずエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料の補給中は火気厳禁です。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込まれるおそれがあるので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注　意

＊ オイル補給中は火気厳禁です。
＊ 運転前にクラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルを補給したときは，キャップや給油栓を確実に締め，こぼれた燃料やオイルは，きれいにふき取ってください。
＊ 機体を最も低い位置にしてください。
＊ 機体を水平にして給油を行なってください。
＊ マフラやエンジン・燃料タンク・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。

重　要

＊ この田植機は，工場出荷時エンジンとトランスミッションケースには給油していませんので，必ず使用前に給油してください。オイルを入れないままで運転しないでください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。
＊ 燃料キャップが締まっているかを確認してください。
＊ オイルの給油および点検は，必ずエンジンを水平にして行なってください。
＊ オイル給油の際は，付属のジョウゴを使えば楽に給油できます。
＊ 燃料のガソリンは１ヶ月以上放置すると，気化や酸化をしてガソリンが変質し，エンジンの不調や故障の原因となりますので必ずタンク内及びキャブレター，燃料フィルタポット内のガソリンは抜取り，新しいガソリンを給油してください。

◆ 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆ 田植機の周りを歩いて

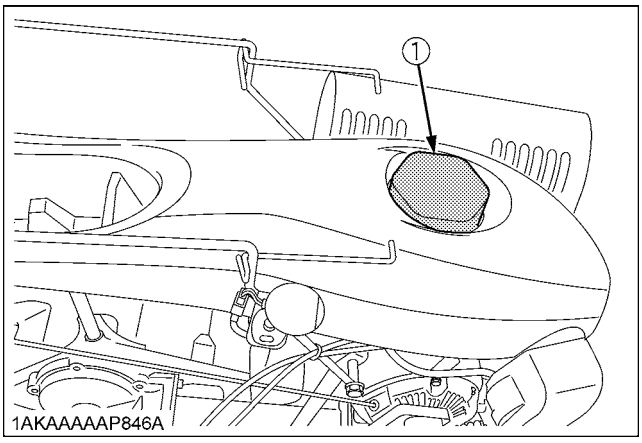
(1) ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検してください。
(2) 車体各部の変形や損傷がないか点検してください。
(3) 油もれなどないか点検してください。
(4) 機体各部にごみや泥がたまっていないか点検してください。

■給・注油箇所一覧表

毎日エンジン始動前に，下表の箇所に給・注油してください。

給　油　箇　所	種　　類	容量・規定量
燃料タンク	自動車用レギュラガソリン	2.5L （４～５時間植付可能）
エンジンクランクケース	クボタ純オイル スーパー G 10W-30 (SAE 10W-30，API 分類 SE 級以上)	オイルゲージの上限まで …0.4L
トランスミッションケース	クボタ純オイル スーパー UDT-2	オイルゲージの下限と上限の間 …1.6L
横送り軸	クボタ純グリース No.2 又は，ギヤオイル	適量
縦送り連結部及び縦送りベルト軸受部		
しゅう動板スライド部		
しゅう動板		
苗のせ台シュー		
車輪クラッチレバー支点及び ワイヤ連結部		
車輪クラッチワイヤ		
植付クラッチレバー支点及び ワイヤ連結部		
植付クラッチワイヤ		
変速切換えレバー支点及び 変速切換え支点部		
変速アーム支点部		
苗取り量調節支点部		
フロート揺動支点部		
フロート支点部		
フロート感度支点部		
油圧シリンダの支点部及び 連動アーム部		
油圧リンク部		
スロットルレバーのワイヤ及び連結部		
車輪高さ調節レバーのワイヤ及び連結		

■ガソリン



① 燃料タンクキャップ

重　要

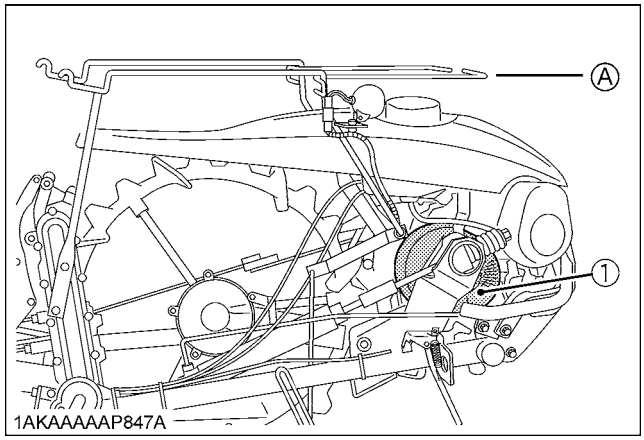
＊ ガソリンは，自動車用レギュラガソリンを必ず使用してください。また，下記のような燃料は使用しないでください。エンジンがかからなかったり，エンジンの不調や故障の原因になります。

- 燃料タンク内に１ヵ月以上放置した燃料
- 樹脂製タンクに長期間保管した燃料
- ゴミや水など異物の混ざった燃料
- 変色のひどい燃料
- くさった古い燃料
  (昨年使用した燃料はなるべく新しい燃料に交換してください。)

＊ １ヵ月エンジンを始動しないと，燃料は変質し，エンジントラブルの原因となります。

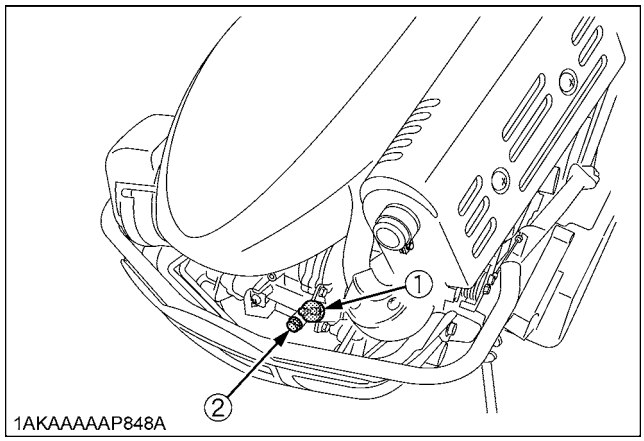
■エンジンオイル

エンジンオイルがオイルゲージの上限付近まであることを点検してください。不足しているときは適量を補給してください。なお，点検を行なうときはエンジンを水平状態の位置にして行なってください。



① エンジン　　Ⓐ 水平状態にする

オイルゲージをいったん外し，付着したオイルをふき取ってから再びオイルゲージをねじ込みます。そして，オイルゲージを再び外してオイル量を点検してください。



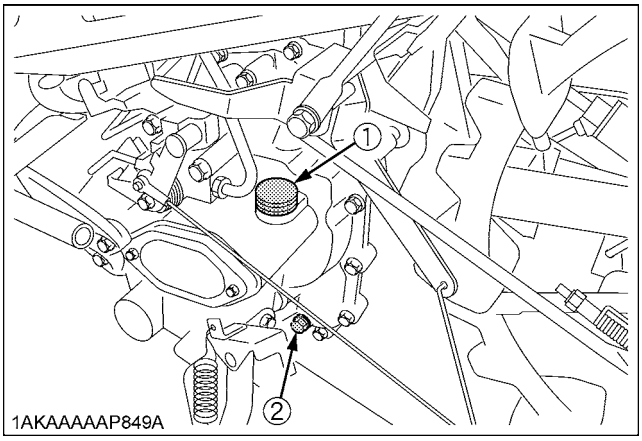
① 給油口・オイルゲージ
② ドレーンプラグ

重　要

＊ オイルゲージのＯリングは必ず装着してください。油もれによりエンジンが破損するおそれがあります。

■トランスミッションオイル

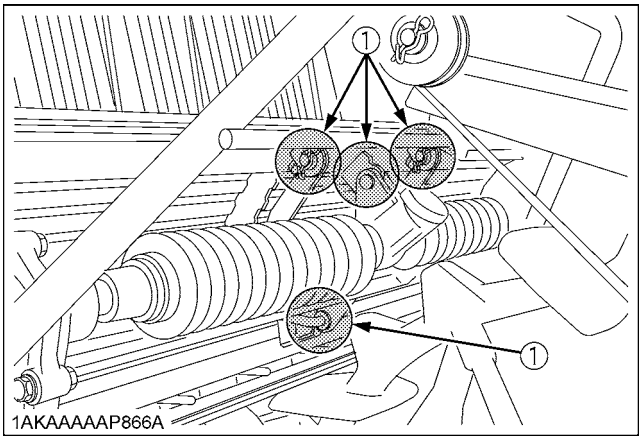
トランスミッションオイルがオイルゲージの上限と下限の間まであることを点検します。不足しているときは適量を補給してください。



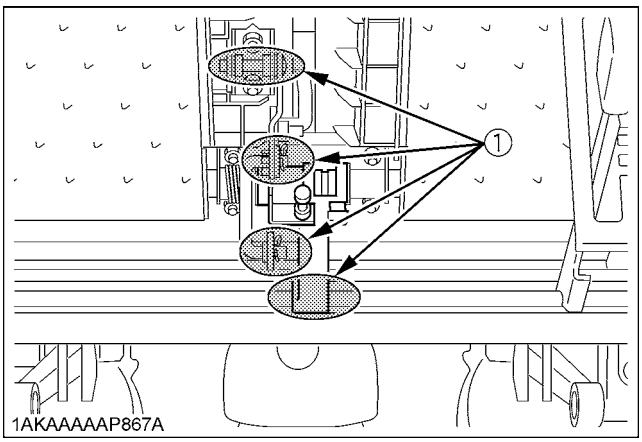
① トランスミッションケース給油口・オイルゲージ
② ドレーンプラグ

■グリス又はギヤオイル

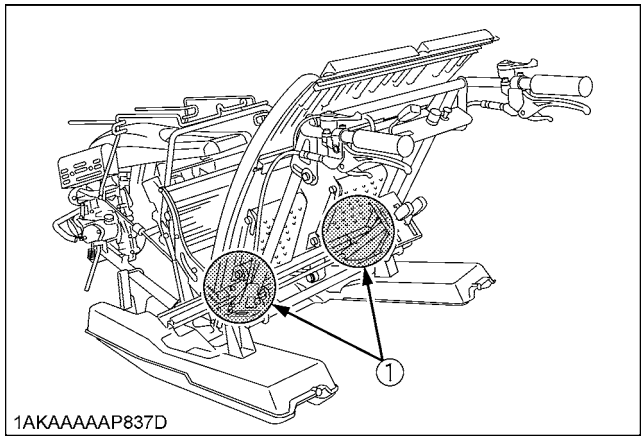
グリス又はギヤオイルを適量塗布，又は注油してください。



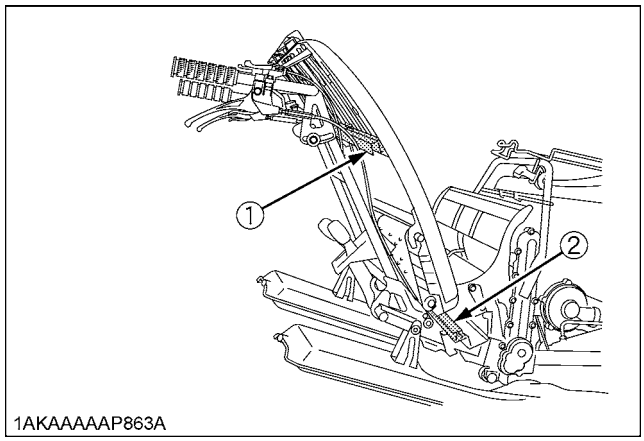
① 縦送り連結部



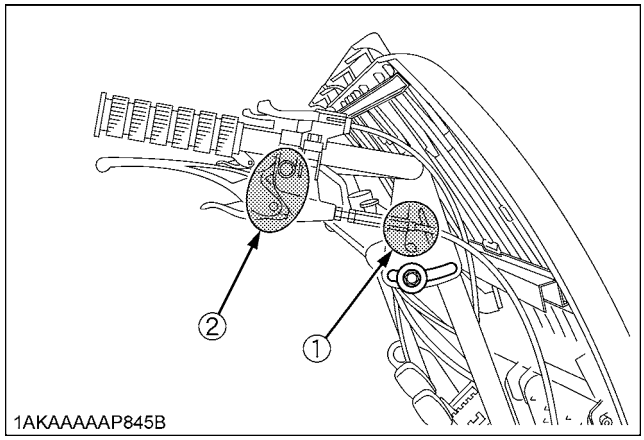
① 縦送りホイル軸受部



① しゅう動板スライド部

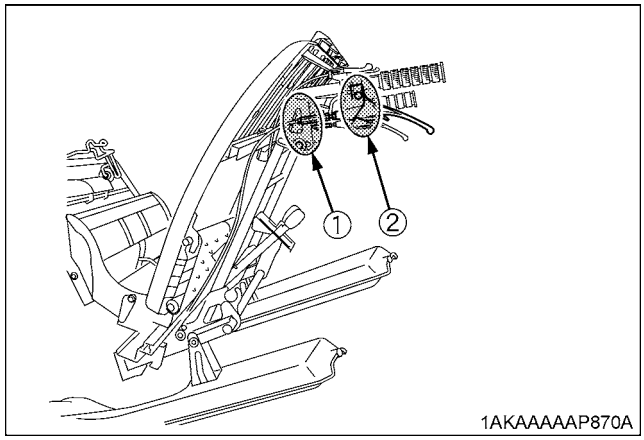


① 苗のせ台シュー
② しゅう動板

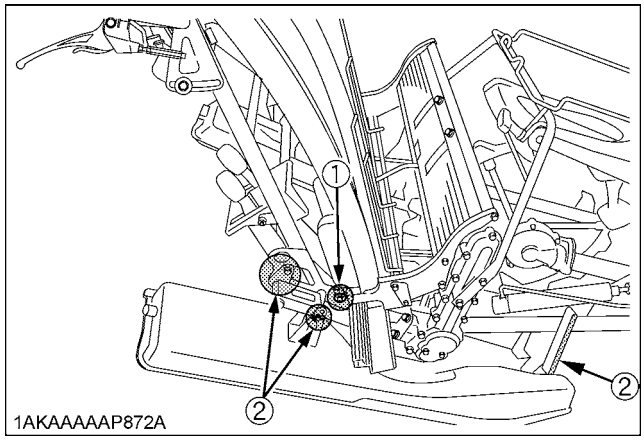


① 車輪クラッチワイヤ
② 車輪クラッチレバー支点部・連結部

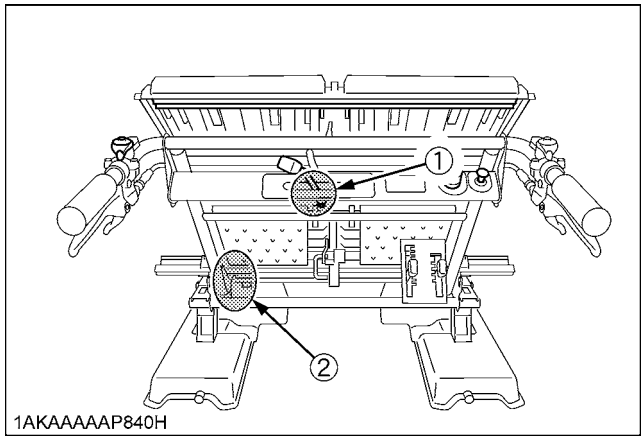
運転前の点検について



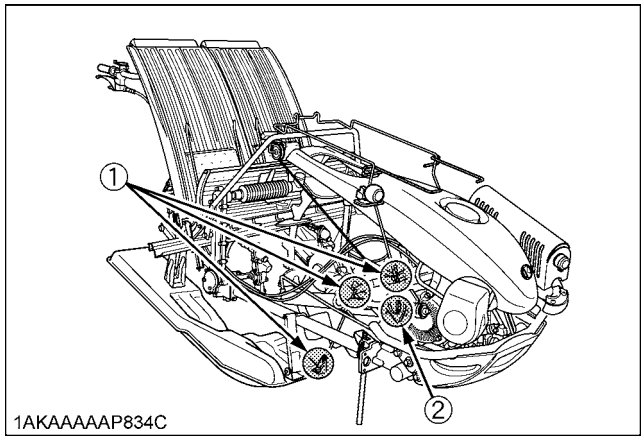
① 植付クラッチワイヤ
② 植付クラッチレバー支点部・連結部



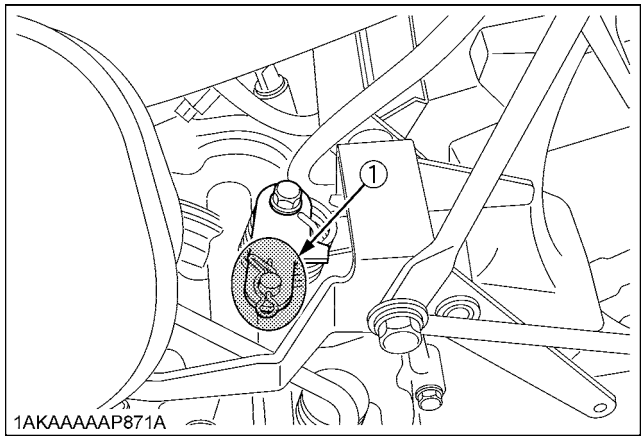
① 苗取り量調節支点
② フロート支点部



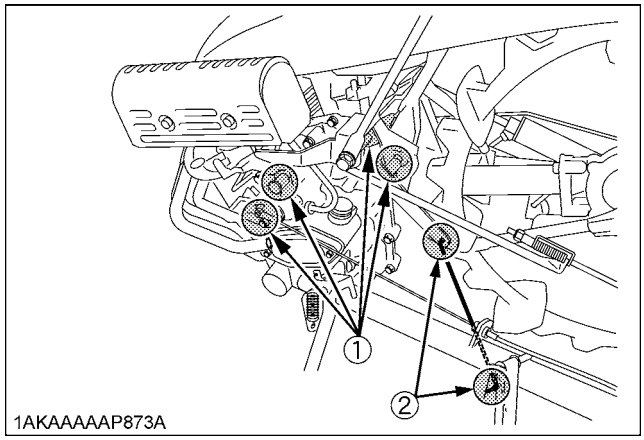
① 変速切換えレバー支点部
② 変速切換え支点部



① 連動アーム
② 油圧シリンダの支点部



① 変速アーム支点部



① 油圧リンク部
② フロート感度支点部

日常点検項目

＜ここを＞ ➡ ＜点検し異常があれば＞ ➡ ＜こうする（処置）＞			参照ページ
機体の周りを歩いて			
機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれはないか。 4. ゴミや泥などがたまってないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換する。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	43 ⚠-12
車輪（タイヤ）	・摩耗や損傷はないか。	・交換する。	47
各ワイヤ，レバー支点部，しゅう動部	・たるみや損傷はないか。 ・作動状態に異常はないか。	・交換する。 ・注油する。	11，44 48
植付爪・押出しロッド	・摩耗や破損又は，変形していないか。 ・石などの異物がはさまっていないか。	・調整又は，交換する。 ・取除く。	45 27
ボンネットを開けて			
エアクリーナ	・エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	・掃除する。	42
エンジンオイル	・油量は規定量（オイルゲージの**上限**まで）あるか。	・適量を補給する。	39
ホース，パイプ	・油もれはないか。	・取付部の締付け又は，交換する。	43
配線コード	・コネクタの外れはないか。 ・被覆の損傷はないか。	・接続をする。 ・交換する。	48
トランスミッションケースオイル	・油量は規定量（オイルゲージの**上限と下限の間**）あるか。	・適量を補給する。	39

運転前の点検について

＜ここを＞ → ＜点検し異常があれば＞ → ＜こうする（処置）＞			参照ページ
エンジンを始動して・機体を動かしてみて			
作業灯	・点灯するか。	・ランプ切れ，配線コードの外れを点検して交換又は，接続をする。	48
エンジン・マフラ	・始動するか。 ・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・点火プラグのすき間調整　又は，交換する。 ・マフラスクリーンを掃除する。 ・購入先に連絡してください。	42 44
各操作レバー	・各操作レバーの作動と各作動部に異常はないか。	・注油・調整する。	11，44

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

上手な運転のしかた

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが田植機の寿命に影響を及ぼします。新車の田植機は厳重な検査のもとに出荷されていますが田植機の各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中は田植機各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる田植作業は避けてください。
田植機の性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊ 急発進操作はしないでください。
＊ 寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊ エンジンは規定田植作業回転数以上に回さないでください。
＊ 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

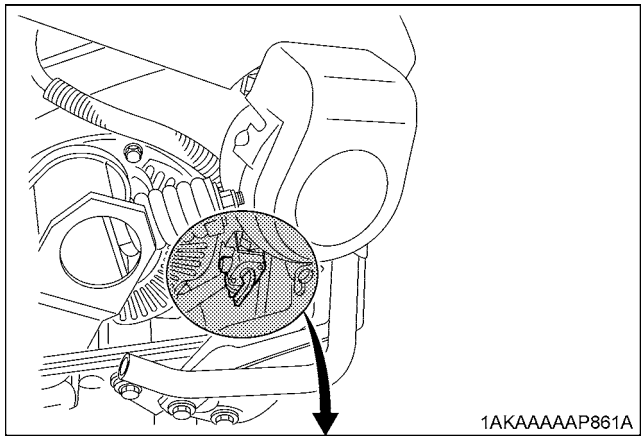
注 意

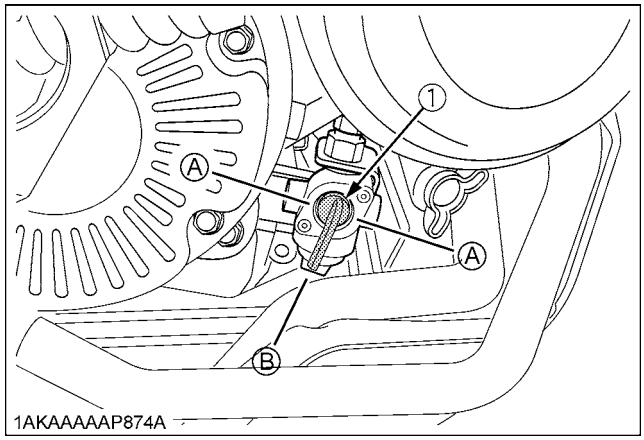
＊ この取扱説明書前編の黄色のページ［安全に作業するために］の内容を必ずお読みください。
＊ 田植機に貼ってある警告ラベル・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ エンジン排気ガスによる排気ガス中毒をさけるため，換気の不十分な納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊ 周囲の人に始動の合図をして，始動操作は運転位置で行なってください。
＊ リコイルスタータハンドルを引張る前に，手が人や物に当たらないか周囲をよく確かめてください。
＊ 車輪クラッチレバーを［切］，植付クラッチレバーを［切］にしてからエンジンを始動してください。

エンジンの始動と停止

■始動のしかた

1．燃料コックレバーを**［開］**にしてください。





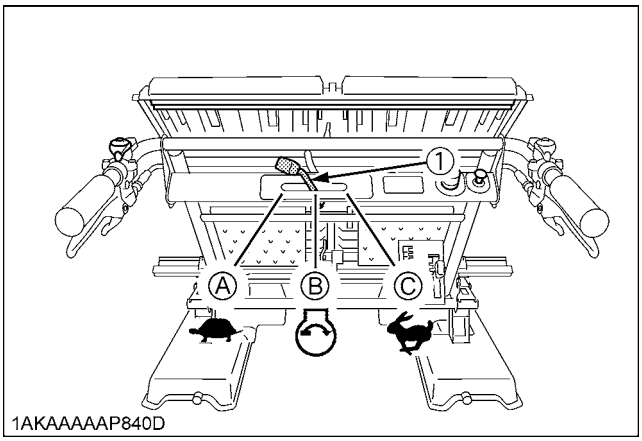
① **燃料コックレバー**　　Ⓐ **［閉］**
Ⓑ **［開］**

2．車輪クラッチレバーを**［切］**にし，植付クラッチレバーを**［切］**にしてください。

注 意

＊ クラッチが入っていると，エンジンが始動すると同時に動き始め危険です。

3. 変速切換えレバーを**［エンジン始動］**位置にしてください。

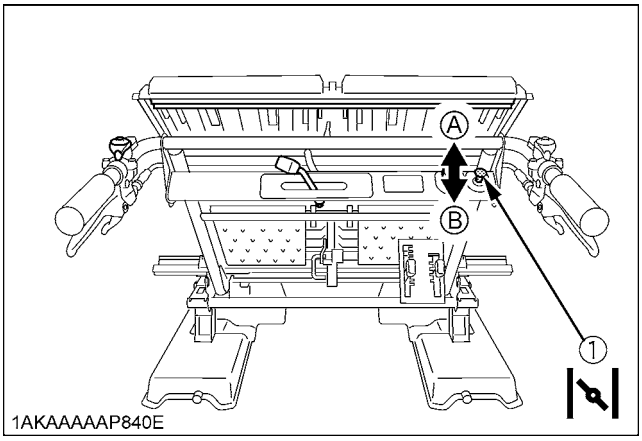


① **変速切換えレバー**　Ⓐ **［低速］**　Ⓑ **［エンジン始動］**　Ⓒ **［高速］**

重　要

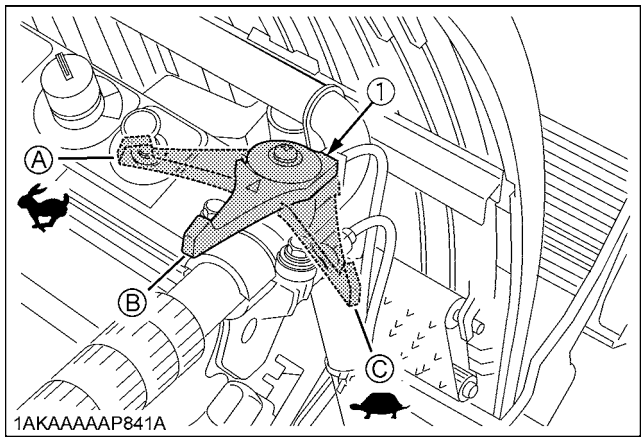
＊ 変速切換えレバーを**［エンジン始動］**位置にしないとエンジンが始動しません。

4. 車輪高さ調節レバーを**［固定］**位置にしてください。
5. メインスイッチを**［エンジン始動］**位置にしてください。
6. チョークを操作してください。
   ＊ エンジンが冷えているとき
   →［全閉］
   （**［チョークノブ］**を引いてください。）
   ＊ 暖まった状態から再始動するとき
   →［全開］又は**［半開］**
   （**［チョークノブ］**を引かない又は少し引いてください。）



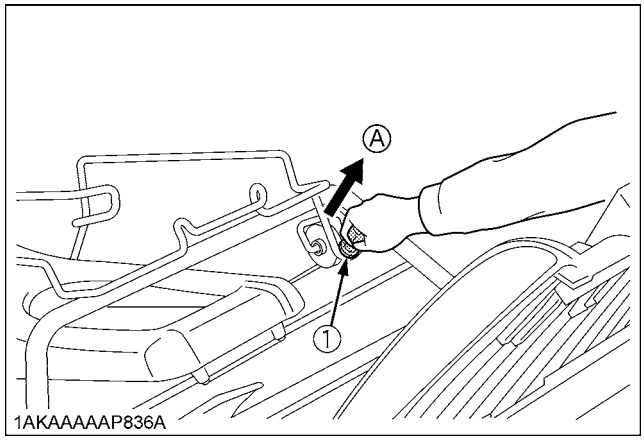
① **チョークノブ**　Ⓐ **［全閉］**　Ⓑ **［全開］**

7. スロットルレバーを**［低］**と**［高］**の中間の位置に合せてください。



① **スロットルレバー**　Ⓐ **［高］**　Ⓑ **［始］**　Ⓒ **［低］**

8. リコイルスタータハンドルを勢いよく引張ると，エンジンが始動します。



① **リコイルスタータハンドル**　Ⓐ **［引張る］**

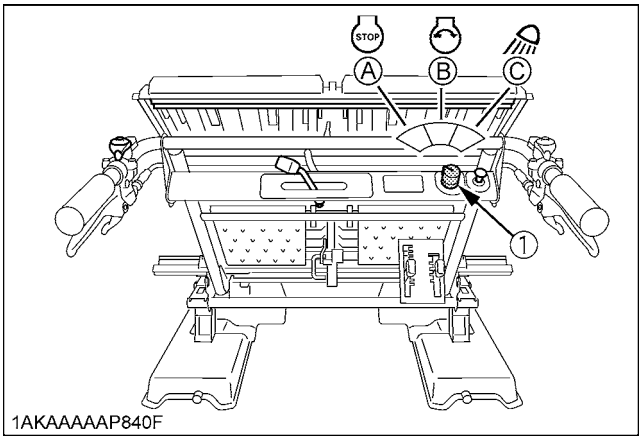
9. 始動したら，エンジンの回転調子をみながらチョークを**［全開］**にしてください。（**［チョークノブ］**を戻してください。）

重　要

＊ エンジンが始動しても急に高速にせず，５分程度暖機運転してから作業を始めてください。
＊ 始動するときはリコイルスタータハンドルをハンドル受けから外して引張ってください。
＊ ロープは 65cm 以上引き出さないでください。引きすぎると故障することがあります。
＊ リコイルスタータハンドルを引くときは，片手で機械を支えてバランスを取ってください。

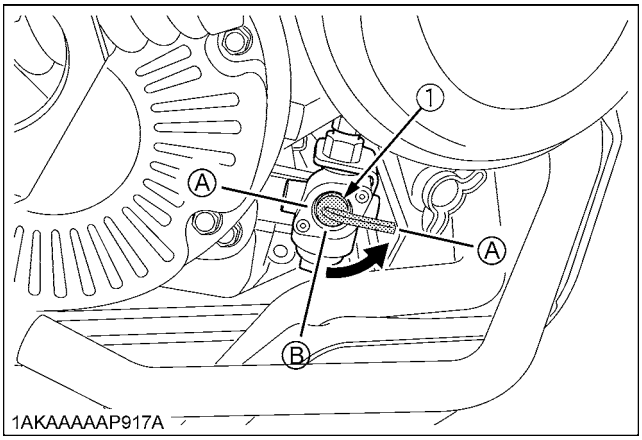
■停止のしかた

1. スロットルレバーを**［低］**にして，３分ぐらい運転してください。
2. メインスイッチを**［エンジン停止］**位置にしてください。



① **メインスイッチ**　　Ⓐ **［エンジン停止］**
Ⓑ **［エンジン始動，消灯］**
Ⓒ **［エンジン始動，点灯］**

3. 燃料コックレバーを**［閉］**にしてください。



① **燃料コックレバー**　　Ⓐ **［閉］**
Ⓑ **［開］**

重　要

＊ エンジンを止めたら，燃料コックが完全に閉じているかを確認する習慣をつけましょう。

注　意

＊ エンジン停止後，しばらくはエンジン，マフラ，排気管などが高温になっていますので触れないようにしてください。また，本機カバーなどをすぐにかぶせないでください。
▶もし触れると…
ヤケドをすることがあります。

移動走行のしかた

注　意

＊ この機械は公道走行はできません。移動は，トラックなどにのせて運搬してください。
＊ 田植機のフロートが路面に当らないように，機体を上げた状態で走行してください。
＊ 苗のせ台を中央にして走行してください。
＊ 移動走行時は，予備苗のせ台や苗のせ台に苗を積まないようにしてください。
＊ 坂道では，絶対に変速しないでください。
＊ 周りが暗いときは作業灯を点灯してください。

■発進のしかた

1. エンジンを始動したら，スロットルレバーを**［始］**と**［高］**の間ぐらいに回してエンジン回転を少し上げてください。
2. 植付クラッチレバーは**［切］**にしてください。
3. 変速切換えレバーを**［低速］**あるいは**［高速］**位置にしてください。
4. 車輪クラッチレバーのロックレバーを握ってロックを外すと，前進します。

注　意

＊ レバーは，速やかに操作してください。

■停車のしかた

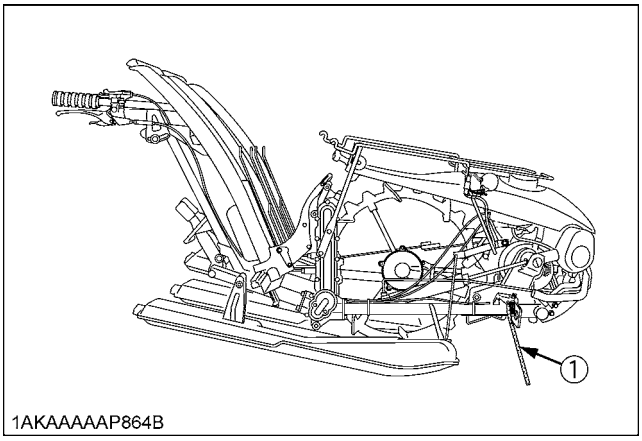
注　意

＊ 転落・転倒事故防止のため，機械は平坦で安定した場所で停車してください。

スロットルレバーを**【低】**の方に回し，車輪クラッチレバーを握ると停車します。

重　要

＊ 路上で植付部を回すときは，左右のスタンドを立ててください。
＊ 植付クラッチを入れると植付爪が路面に当たって故障の原因になることがあります。



① **スタンド**

トラックなどへの積込み･積降ろし

注　意

＊ アユミ板は十分な強度，板幅（30cm 以上），長さ（床面から地面までの高さの４倍以上）のある基準にあったすべり止め付きのものを使用し，田植機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ アユミ板のフックは荷台に段差のないように，また，ずれないように確実に掛けてください。

■積込み・積降ろしのしかた

注　意

＊ 平坦な場所を選び，できるだけ助手の立合誘導のもとに行なってください。また，田植機の周囲に人を近づけないでください。
＊ アユミ板の途中では，絶対に車輪クラッチレバーを切ったり，変速切換えレバーを操作しないでください。
機体が急降下し，非常に危険です。

アユミ板の条件

長さ	車の荷台の床面から地面までの高さの４倍以上
幅	30cm 以上
数量	１枚
強度	150 kg以上の重量に耐えうるもの

1. 苗のせ台を機体中央にしてください。
2. 予備苗などの荷物は，事前に降ろしておいてください。
3. 車輪高さ調節レバーを**［上昇］**位置にして機体を適当な高さまで上昇させ，**［固定］**位置にしてください。
4. 変速切換えレバーを**【低速】**にしてください。
5. 車輪クラッチレバーを**【入】**にし，機体のバランスを保ちながらゆっくりと積降ろししてください。

◆ トラックなどで運搬する場合

重　要

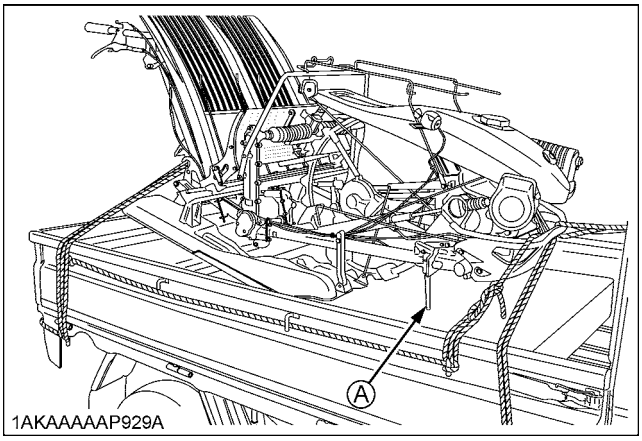
＊ スタンドを立て，ロープをかけてください。
＊ 機体が左右に傾かないよう注意してください。
＊ 車輪を上げ，重心を低くしてください。
＊ フロートに無理な力をかけて，変形させないようにしてください。

1. 燃料コックレバーを**［閉］**にしてください。

補　足

＊ トラック輸送時に燃料もれの原因になります。

2. スタンドを立てフロートを浮かせて，バンパ，車輪，ハンドルフレーム根元のフックにロープをかけてください。



Ⓐ スタンドを立てる

ほ場への出入り

注　意

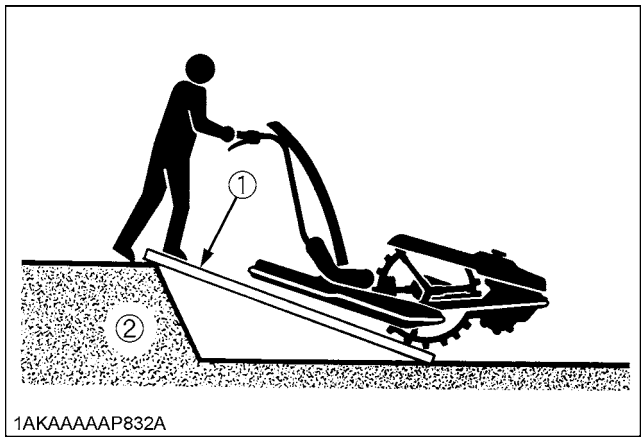
＊ 農道・あぜとほ場の高低差が大きいときは，アユミ板を使用して出入りしてください。
＊ 予備苗など田植機に荷物を積んでの出入りは危険ですので，必ず荷物はおろして出入りしてください。
＊ 出入り途中で車輪クラッチレバー操作と，変速切換えレバー操作は決して行なわないでください。

■ほ場への出入り・あぜごえのしかた

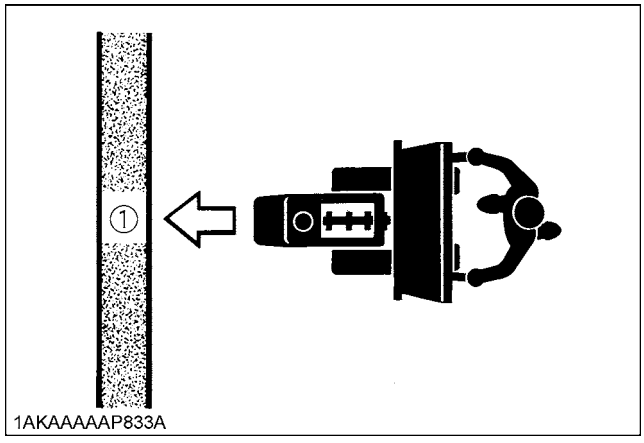
1. 必ずほ場・あぜに直角に進行してください。
2. 車輪高さ調節レバーで機体を上げて，低速で行なってください。
3. 農道やあぜとほ場の高低差が10cm以上の場合は，あゆみ板を使ってください。

重　要

＊ 水が多いほ場へ入る場合は，エンジンのエアクリーナへ泥水が進水するおそれがあるので，機体を十分に上げて機体前方が沈みこまないようにしてください。



① あゆみ板
② 農道・あぜ



① あぜ

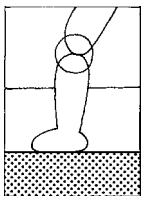
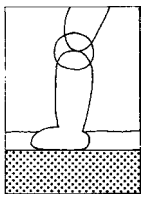
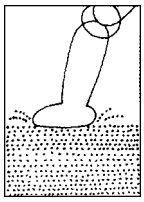
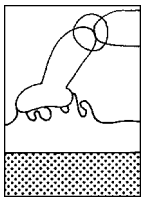
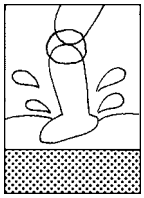
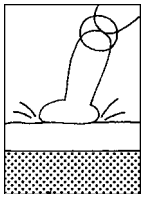
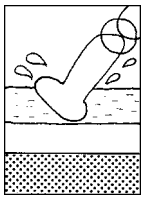
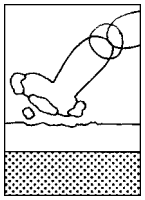
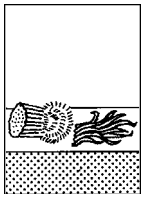
上手な植付けのしかた

ほ場と苗の条件

ほ場の条件，苗の条件が良くなければ植付作業が行なえないことがあります。
次のような条件が予想される場合は事前に購入先にご相談ください。

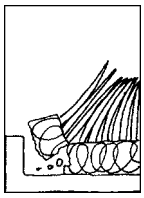
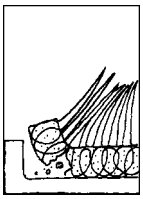
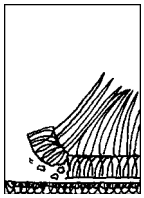
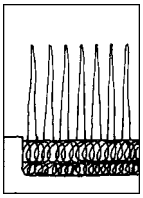
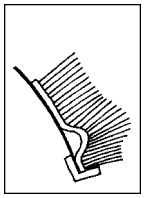
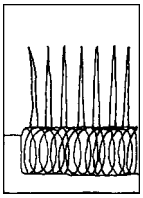
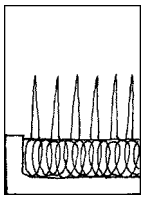
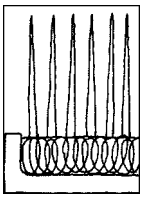
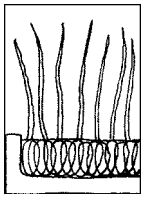
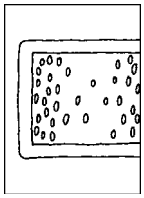
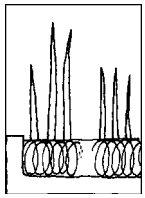
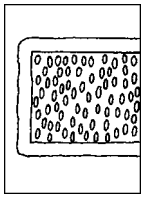
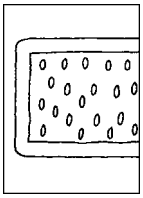
■ほ場条件

ほ場づくりは，作物の種類・植付時期・土地条件（気候や風土）などの条件によって異なりますので，最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センタなど）や経験者に相談して，作物に適したほ場づくりをしてください。

項　目	条　件（うまく使えないこともある状況）	
深　さ	 ①耕盤までの深さが 30cm 以上ある深いほ場。	 ②耕盤までの深さが 10cm 以下の浅いほ場。
土　質	 ①砂質の多いほ場（手植えでも植えにくいほどの硬いほ場）。	 ②強粘土質のほ場（歩くのが困難な粘いほ場）。
硬　さ	 ①代かき直後のほ場，又は代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場）。	 ②代かき後，日数がたって硬くなったほ場，又は代かき後すぐに固まるほ場（手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場）。
水　深	 ①水深の平均が３ cm を越える水の多いほ場。	 ②水気がなく，車輪に泥がまつわりつくようなほ場。
夾雑物	 ①裏作跡などで，刈り株・排わら又は雑草がじゅうぶん腐らず，代かき後も表面に多量に露出しているほ場。	

■苗条件

苗づくりは，各地の指導指針や最寄りの指導機関（JA［農協］や普及センタなど）の指導を仰いだり，経験者に相談して，良い苗（健苗）づくりを行なってください。

<table>
<tr><th>項　目</th><th colspan="3">条　件（うまく使えないこともある状況）</th></tr>
<tr><td rowspan="3">苗　床</td><td> 
①砂質が多く，苗床が崩れやすい苗。</td><td colspan="2"> 
②根張りが悪く，苗床が崩れやすい苗。</td></tr>
<tr><td> 
③根張りはよいが，根を切ったために苗床が崩れやすい苗。</td><td colspan="2"> 
④根の張り過ぎた，植付爪のささりにくい苗。</td></tr>
<tr><td> 
⑤苗床厚（マット厚）が２ cm 以下の，薄い苗。</td><td colspan="2"> 
⑥苗床厚（マット厚）が４ cm 以上の，厚い苗。</td></tr>
<tr><td>草　丈</td><td> 
①草丈が８ cm 以下の，短い苗。</td><td colspan="2"> 
②草丈が 20cm 以上の，長い苗。</td></tr>
<tr><td>素　質</td><td> 
①軟弱徒長苗。</td><td> 
②播種ムラのひどい苗。</td><td> 
③成育ムラや成育不良のある苗。</td></tr>
<tr><td>播種量</td><td> 
①催芽もみで，１箱当り 250g 以上の，厚播きの苗。</td><td colspan="2"> 
②催芽もみで，１箱当り 100g 以下の，薄播きの苗。</td></tr>
</table>

田植作業前の準備

■株数の決定と調節

植付株数は，ギヤを交換することによって選択してください。

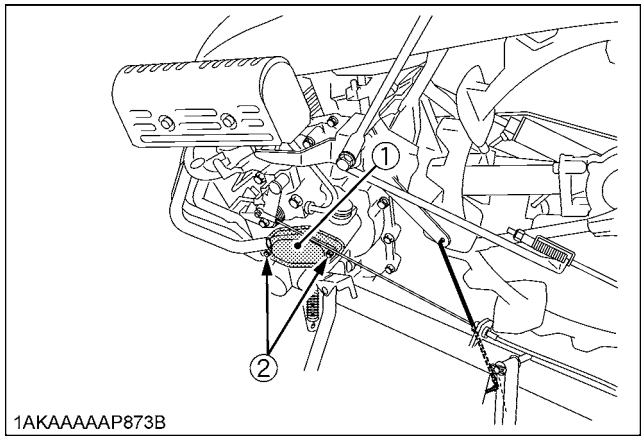
注　意

＊ ギヤの交換は，必ずエンジンを停止して行なってください。

重　要

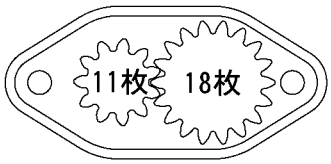
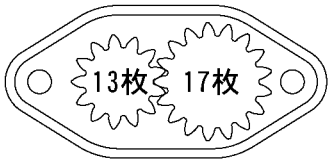
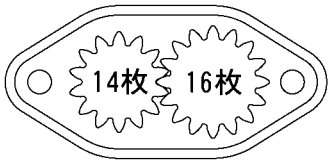
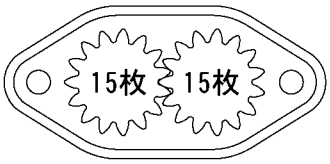
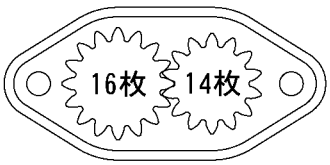
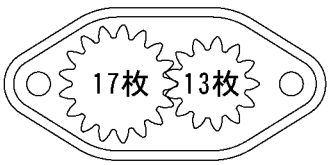
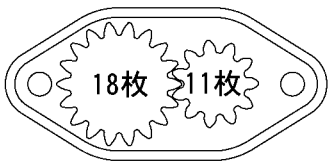
＊ ギヤを交換するときは，次の要領で調節してください。
- 変速切換えレバーを**［エンジン始動］**
- メインスイッチを**［停止］**位置にし，エンジンを止める
- 植付クラッチレバーを**［切］**
- 車輪クラッチレバーを**［切］**
- 車輪高さ調節レバーを**［固定］**

＊ 上記の操作を行なった後，下図のボルトをはずしてください。表の組合せを参照してカバー内のギヤを交換し，カバーとボルトを元通りに取付けてください。



1AKAAAAAP873B

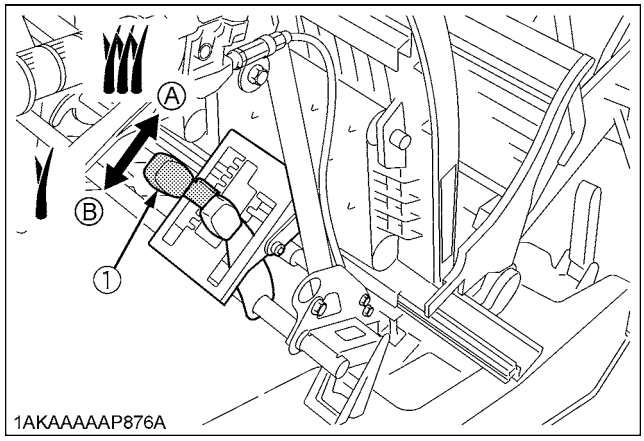
① **カバー**
② **ボルト**

	交換ギアの位置
(100株/3.3m²) 株間11cm	
(80株/3.3m²) 株間14cm	
(70株/3.3m²) 株間16cm	
(60株/3.3m²) 株間18cm	
(50株/3.3m²) 株間21cm 出荷位置	
(45株/3.3m²) 株間24cm	
(37株/3.3m²) 株間30cm	

1AKADAKAP009A

■苗の使用量

10 アール（ａ）当たりの苗の使用量は，栽植密度と 1 株の植付本数によって決まります。次の表は，標準苗取り量の目安です。播種量は稚苗 200 ～ 220g，中苗 100g を基準として算出してあります。
実際には，余裕をみて多めに準備してください。また，苗取り量を変えると必要な箱数も変わってきます。



1AKAAAAAP876A

① **苗取り量調節レバー**　Ⓐ **［多い］**　Ⓑ **［少ない］**

● 苗（苗箱）使用量の目安

横送り回数（回）		20			26（出荷時）		
苗の種類		中苗			稚苗		
苗取り量調節レバー位置		最多	中段	最少	最多	中段	最少
株間（cm）	11	46	34	21	36	27	16
	14	36	25	16	28	21	13
	16	31	22	15	25	18	12
	18	28	21	13	22	16	10
	21	24	18	12	19	15	9
	24	21	15	10	16	12	7
	30	18	13	7	13	10	6

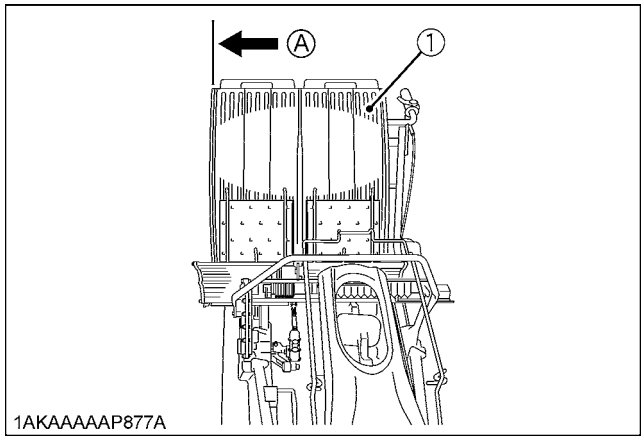
1AKAAAAAP865C

※▭は 10 アール（ａ）当たりの苗箱の使用箱数です。
※上表の株数は，目安の苗箱（箱）の使用量です。

■横送り量の調節

苗の種類（稚苗・中苗）により苗のせ台の横送り量を切換えることができます。

1. 苗のせ台を最右端又は最左端に移動させてください。



1AKAAAAAP877A

① **苗のせ台**　Ⓐ **寄せる**

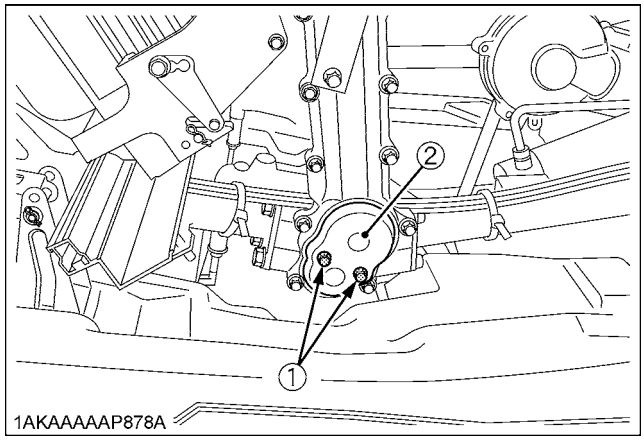
2. 縦送り直後に植付クラッチレバーを**［切］**にし，植付クラッチを切ってください。
（端から 1 株目を取る直前）

補　足

＊ 回転が速いために，縦送り直後に止めることが難しい場合は，メインスイッチ**［停止］**の状態で，植付クラッチレバーを**［入］**，車輪クラッチレバーを**［切］**，変速切換えレバーを**［高速］**にして，リコイルスタータハンドルを引きながら，ゆっくりと爪を回し，縦送り直後に植付クラッチレバーを**［切］**にしてください。

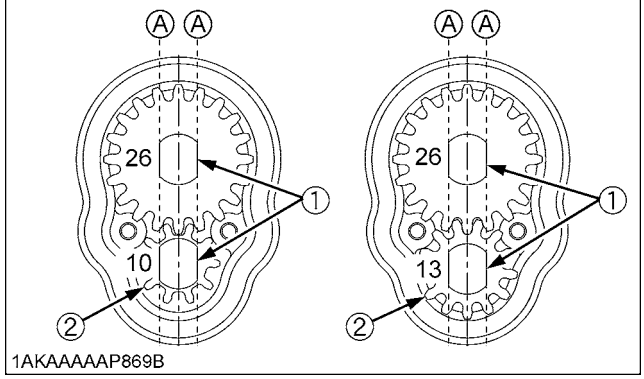
3. メインスイッチを**［停止］**位置にし，エンジンを止めてください。

4. ボルトを取外してカバーを外し，植付爪の先端が苗取り直前にあることを確認し，シャフトを下図の位置にして小ギヤ 1 枚を組換えてください。
(出荷時は 26 回取り用のギヤをセットしています。)



① **ボルト**
② **カバー**

26 回取り(稚苗用)	20 回取り(中苗用)



① **シャフトの軸加工面**
② **小ギヤ**
Ⓐ **軸加工面の向きを合わせる**

補　足

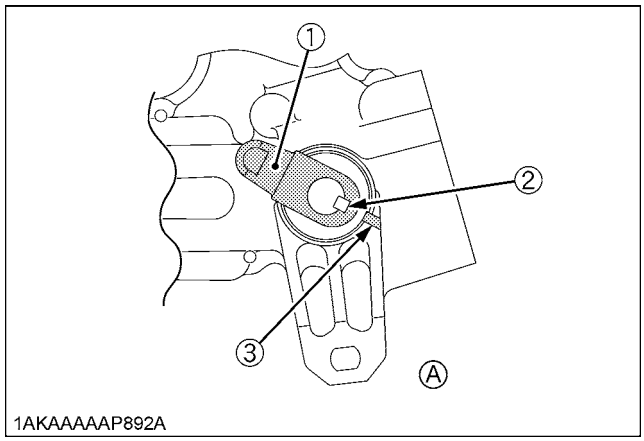
＊ 出荷時は26回取り用のギヤをセットしています。組換えるときは，付属部品の 20 回取り用のギヤを使用してください。

5. カバーを取付けてください。

重　要

＊ 誤まって組換えて，縦送りのタイミングがずれたときは次のように調節してください。

1. 苗のせ台を最右端又は最左端に移動させてください。
2. 縦送り直後に植付クラッチレバーを［**切**］にしてください。
3. エンジンを止めてください。
4. 植付アームを手で回してクランクアームのキー溝とケースの切欠位置を下図のように合わせてください。
5. カバーを外し，小ギヤを抜いて軸の加工面の向きを合わせてギヤを組付けてください。
6. カバーを取付けてください。

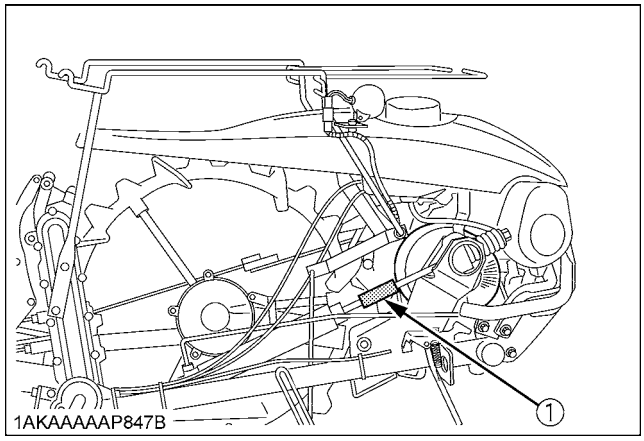


① **クランクアーム**
② **キー溝**
③ **ケースの切欠**
Ⓐ **クランクアームのキー溝とケースの切欠の穴位置を合わす**

■車輪深さの調節

ほ場の深さが 30cm を越える場合,車輪の深さ(下がり量）を増やすことができます。

- 出荷時は青色のカラーをセットしています。



① **カラー**

1. 機械を最下降にしてカラーを外します。
2. 機械を上昇させると車輪の下がり量が増えます。

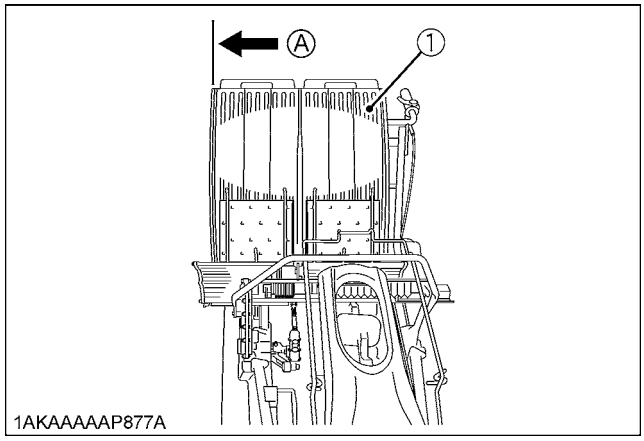
注　意

＊ カラーを外すと機械の高さが高くなり，左右バランスを保ちにくくなりますので，ほ場の外では必ずカラーをつけてください。
＊ カラーの取外しのときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

植付作業のしかた

■植付作業の順序と方法

1. ほ場に入ったら車輪高さ調節レバーを**【植付】**位置にして機械を下降させてください。
2. 車輪クラッチレバーを**【切】**にしてください。
3. 植付クラッチレバー**【入】**にして，苗のせ台を最右端又は最左端まで移動させ,縦送り(ベルト）作動直後に植付クラッチレバーを**【切】**にし，植付爪を停止させます。

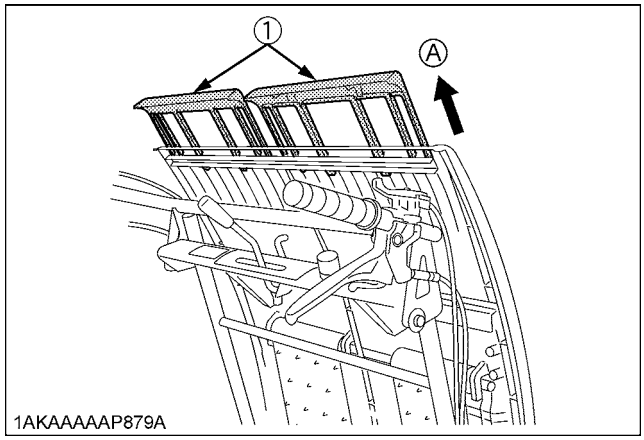


① **苗のせ台**　　Ⓐ **寄せる**

4. 苗を苗のせ台にていねいにのせてください。

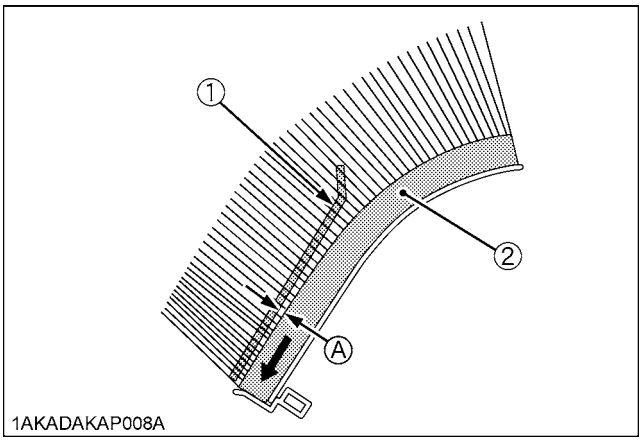
補　足

＊ 必要に応じて延長苗のせ台を引出してください。



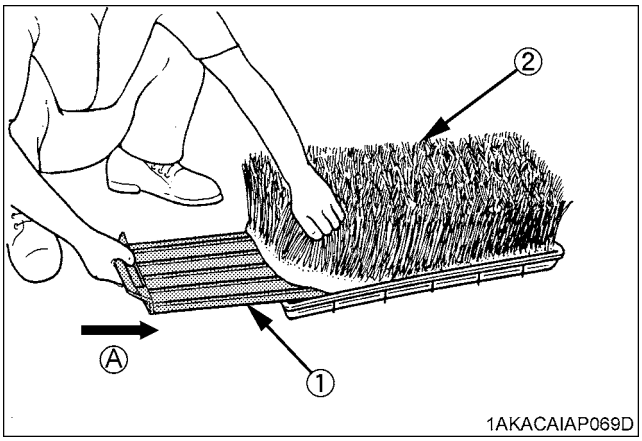
① **延長苗のせ台**　　Ⓐ **［引出す］**

＊ 苗がくずれ落ちないように苗ステーとのすき間を確認してください。(32 ページ参照)



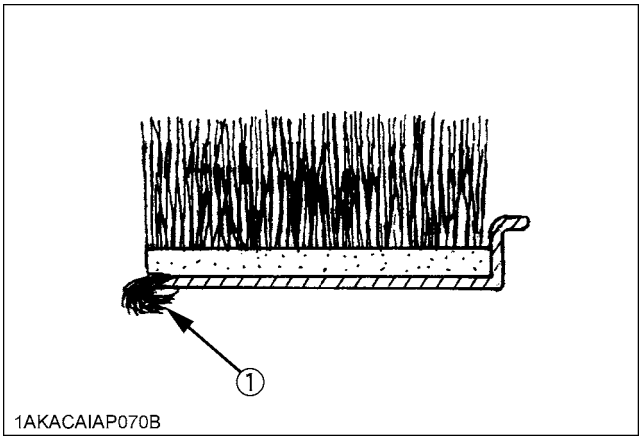
① 苗ステー　　Ⓐ すき間
② 苗床

＊ 苗箱から苗を取出すときは，苗床（苗マット）の端を持上げて，苗すくい板を苗床の下に差込み苗をすくい出してください。



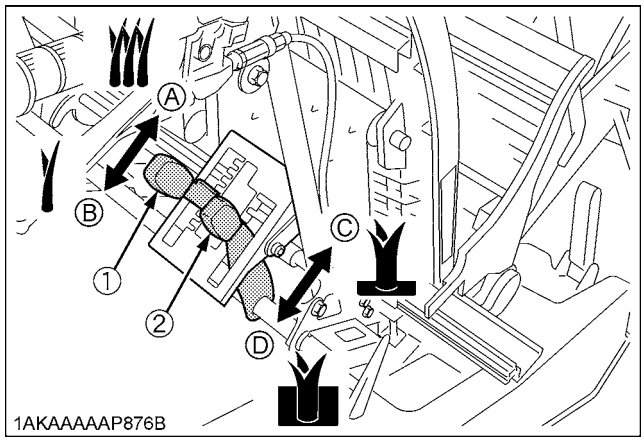
① 苗すくい板　　Ⓐ 苗箱と苗の間へ差込む
② 苗（苗床）

＊ 苗すくい板の先端に苗の根がからみついて固まりができることがあります。この根は必ず取除いてください。そのまま入れると欠株の原因になります。



① 苗の根

5. 植付深さ調節レバー・苗取り量調節レバーを，希望する位置にセットしてください。

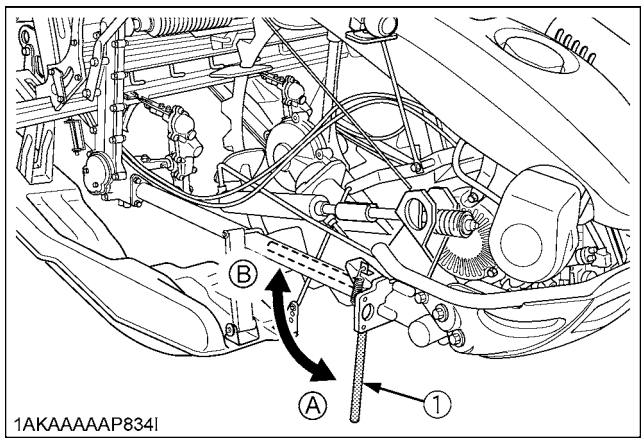


① 苗取り量調節レバー　　Ⓐ ［多い］
② 植付深さ調節レバー　　Ⓑ ［少ない］
Ⓒ ［浅植え］
Ⓓ ［深植え］

6. 変速切換えレバーを希望位置にしてください。
7. 車輪クラッチレバーを**［入］**にすると，機械が動き始めます。
8. 植付クラッチレバーを**［入］**位置にすると，植付けが開始します。
9. 5m 前後植付けた後，植付クラッチレバーと車輪クラッチレバーを**［切］**にして，走行を停止し，植付後の確認をしてください。異常がなければ植付作業を行なってください。

重 要

＊ ほ場に入る前に，スタンドを**［解除］**位置にしてください。



① スタンド　　Ⓐ ［固定］
Ⓑ ［解除］

■安全クラッチ

注　意

＊ 安全クラッチが働いたら，すみやかに車輪クラッチレバーと植付クラッチレバーを［切］にし，エンジンを止めて，障害物を取除いてください。

安全クラッチは，植付作業中の植付爪に石など硬い異物がはさまったときに，破損防止のためにはたらく機能です。植付部からガッガッと高い音がしたときは，作業をすみやかに中止し，エンジンを停止してから異物を取除いてください。

重　要

＊ 安全クラッチがはたらいている状態を続けると，植付爪や押出し金具が破損したり，安全クラッチの摩耗により安全クラッチがはたらきやすくなり，植付不良が起こりやすくなります。

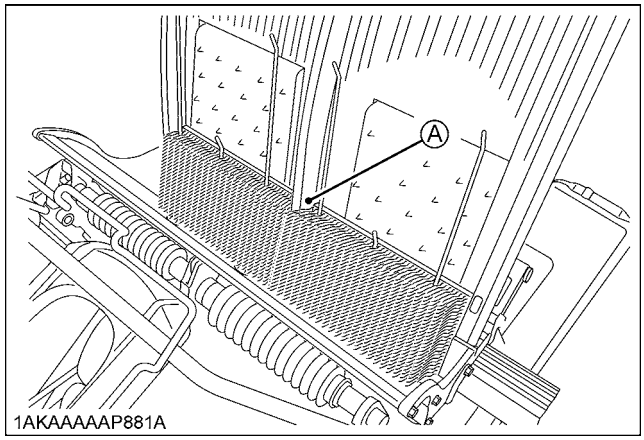
＊ **異物を取除いたあとの処置**
異物を取除いたあと植付爪や押出し金具が破損や変形していないか確認し，異常があれば交換や修理を行なってください。（45 ページ参照）また，植付爪を手で回したときにしゅう動板に当たったり，重い場合は購入先に連絡してください。

補　足

＊ 植付爪を交換したら付属のゲージで苗取り量を合せてください。（合わせ方は**［植付爪ごとの植付本数調節］**の項を参照してください。）

■苗の補給

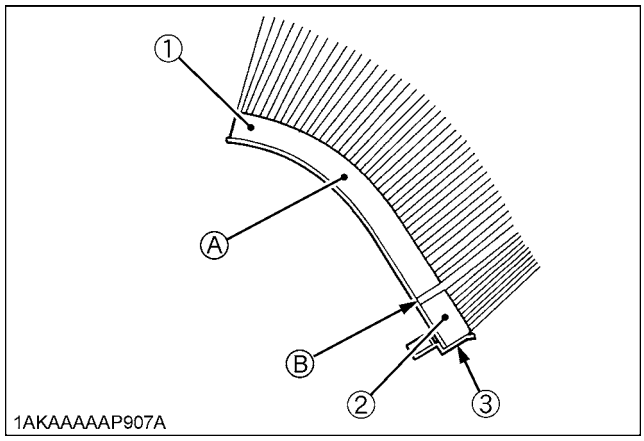
苗のせ台の苗の残りが，赤線の位置まできたら苗を補給してください。



Ⓐ **赤線の位置まできたら次の苗を補給する**

ほ場の長さを考えて，旋回のときに補給するようにしましょう。

1. 補給するときは，植付クラッチレバーと車輪クラッチレバーを同時に**［切］**にしてください。
2. 補給するとき，苗のせ台を左右の端に移動させる必要はありません。
   苗がまったく無いときだけ端に移動させてください。
3. 補給苗はていねいに扱い，苗との境目がぴったり合うようにしてください。

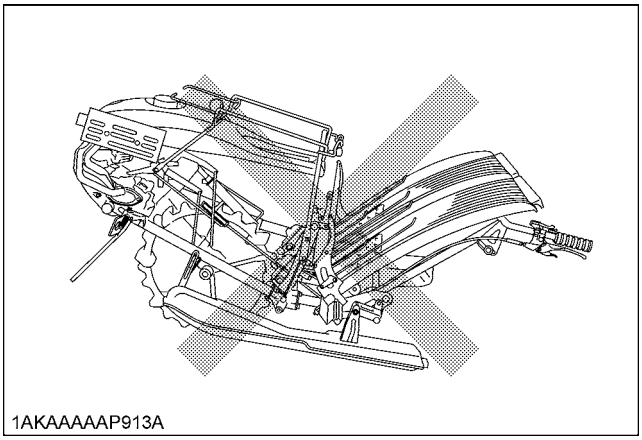


① **補給苗**
② **残り苗**
③ **しゅう動板**
Ⓐ **苗補給する**
Ⓑ **補給苗と残り苗はぴったり合わせてください。**

上手な植付けのしかた

注　意

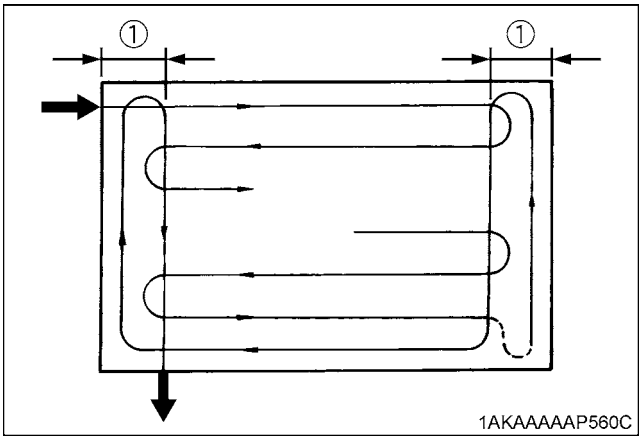
＊ 苗補給の際，機体を上昇させたあと後方に倒すような方法は危険ですので絶対に行なわないでください。



1AKAAAAAP913A

■枕地のとり方

1. 枕地はあらかじめ（約１往復分）残して植付けてください。
2. 植え始めは，ほ場の長辺方向のあぜにまっすぐな側から植付けてください。

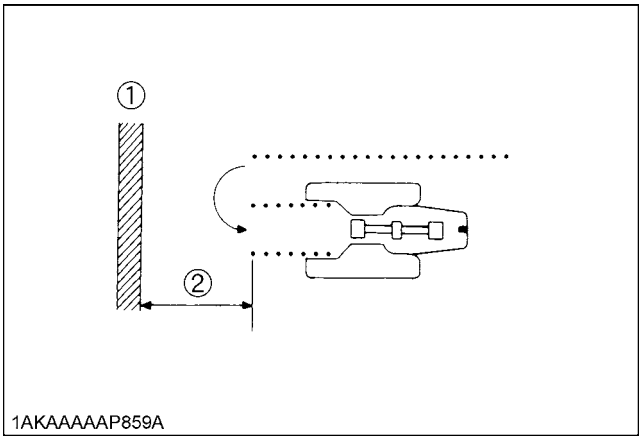


1AKAAAAAP560C

① **枕地**

■旋回のしかた

1. スロットルレバーでエンジン回転を下げて，植付クラッチレバーを**［切］**にします。
2. ハンドルを持ち上げながら旋回する側に少し傾斜させ，ハンドルを後方に引き気味に，自分から先に回ります。
3. 旋回が終れば，隣接条間が合うようにハンドルを操作してください。



1AKAAAAAP859A

① **あぜ**
② **枕地**

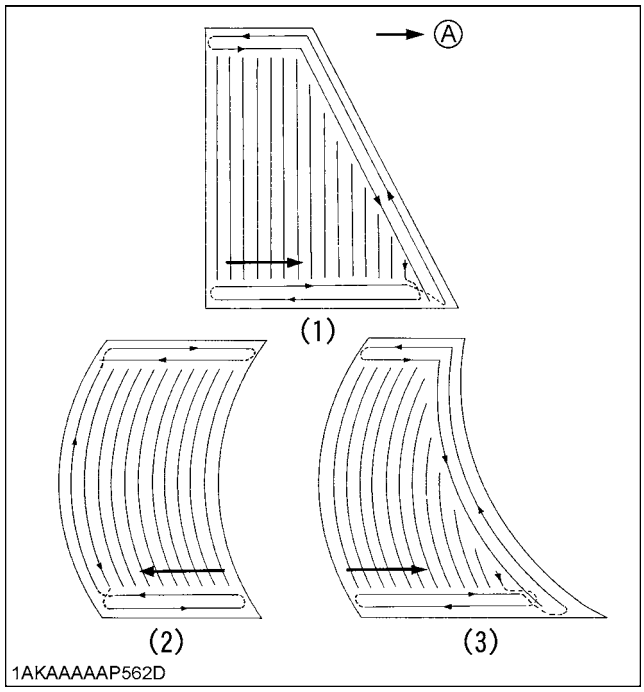
4. 植付クラッチレバーを**［入］**にして，適当な作業速度で植付けてください。

補　足

＊ ほ場は１～２㎝のヒタヒタ水程度にしてください。

◆ 植え進み方向（次図参照）

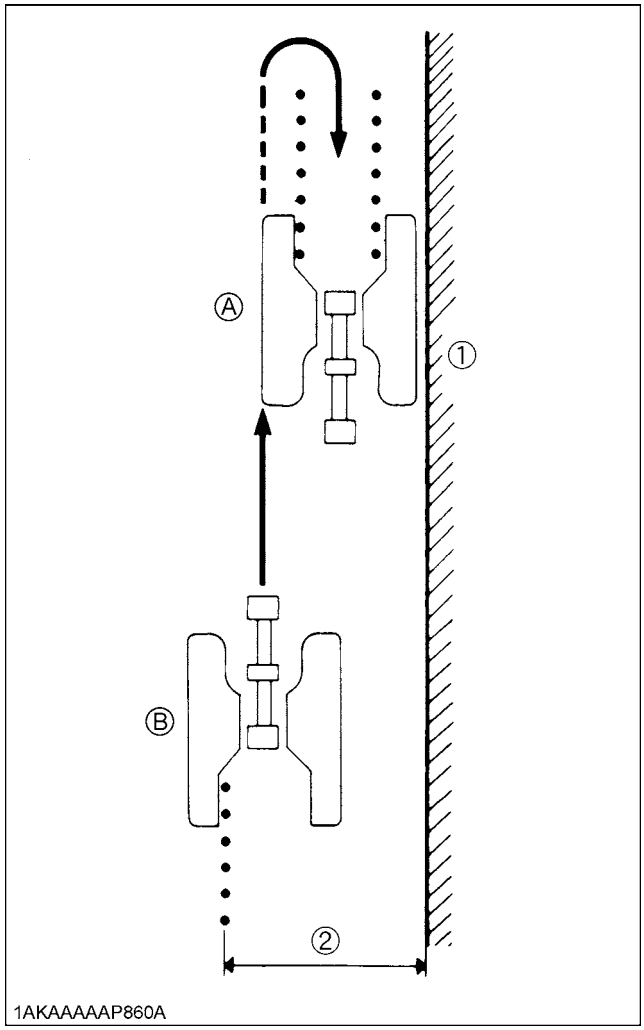
1. 植え進み方向は，ほ場の長辺方向のあぜのまっすぐな側から植えてください。
2. 両側のあぜが曲っているほ場では，内側から順に植えてください。
3. 両側が曲った三角形のほ場では，曲りの少ない方から植えてください。



Ⓐ →が植え進み方向

■あぜぎわの植付け

あぜぎわでの植付けで３条分植え残っている場合は，行きを１条だけ植え，帰りに２条植えて戻るという作業を行ないます。
そのときは，苗を取除き，下図のような植付方法で植付けてください。



① あぜ
② ３条分残り
Ⓐ 帰り（２条植え）
Ⓑ 行き（１条植え）

■植付作業中の調節

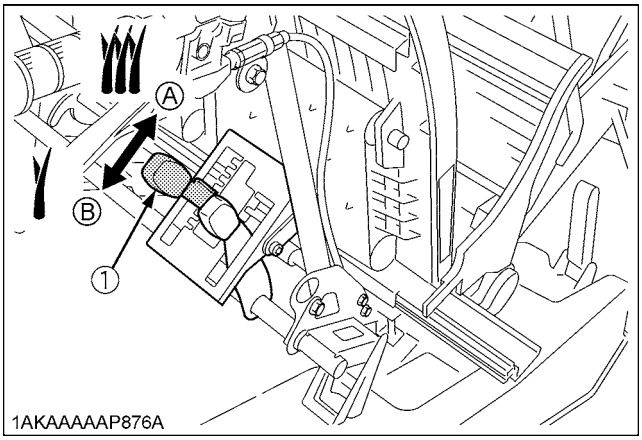
植付作業を開始して植付本数・植付深さなどが希望どおりになっているかどうかをチェックし，希望どおりになっていなければそれぞれ調節してから連続植付けを行なってください。

◆ 苗取り量調節レバー

植付本数の調節は，苗取り量調節レバーで行なってください。

［多い］…… レバーを上方にセットすると，植付本数が多くなります。

［少ない］… レバーを下方にセットすると，植付本数が少なくなります。



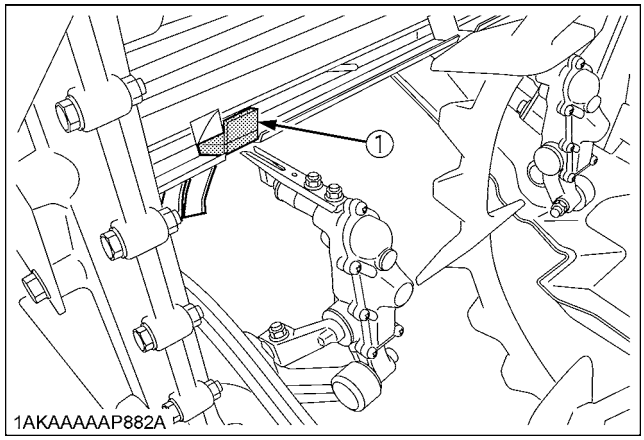
① 苗取り量調節レバー　Ⓐ ［多い］　Ⓑ ［少ない］

◆ 植付爪ごとの植付本数調節

注 意

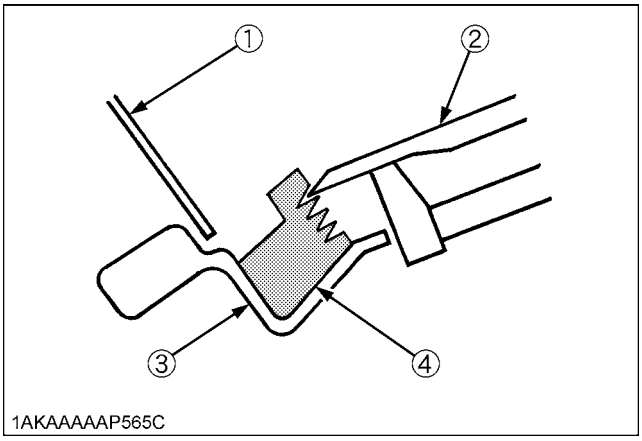
＊ 植付本数調節時は，エンジンを必ず止めて行なってください。

1. ２本の植付爪のうち，一方の爪の苗取り本数がいつも多いとか少ないとかの現象があれば，ゲージ合せをしてください。
   ゲージ合せの結果，特に多い爪又は少ない爪があれば，苗取り量調節レバーを一番上の切欠溝の**［多い］**にセットし，連結軸の取付けナットをゆるめて，ゲージの一番上の溝に植付爪先端を合わせて，取付けナットを締付けてください。
2. 植付アームの爪取付けボルト・ナットが各部に接触しないことを確認してください。



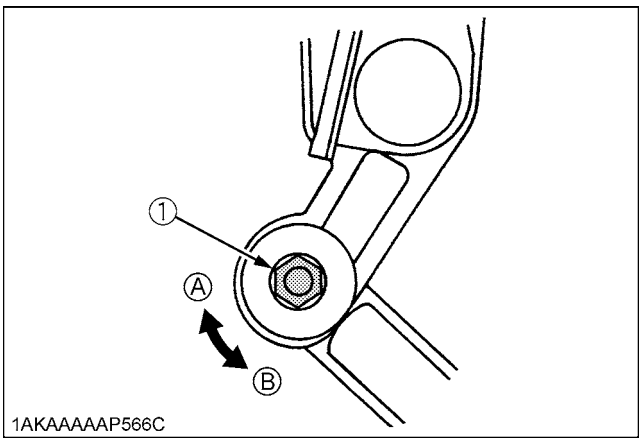
重　要

＊ 植付本数は，育苗箱にまく種もみの量で決めるのが原則です。種まき時に十分検討してまき量を決めるようにし，たびたび植付本数を調節することのないようにしてください。
＊ 最大取り量17㎜以上にしないようにしてください。苗取り量調節レバーを最も**【多い】**の位置にして，ゲージの一番上の溝に植付爪先端を合せてください。



① **苗のせ台**
② **植付爪**
③ **苗取出し口**
④ **ゲージ**

＊ 取付けナットをゆるめて，ゲージの溝と植付爪先端を合わせた状態で取付けナットを締付けてください。



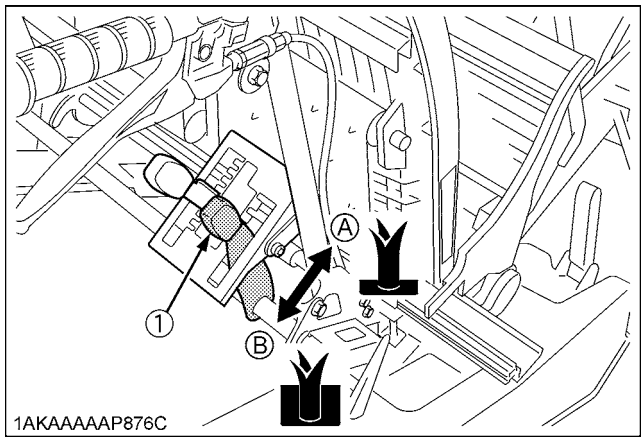
① **取付けナット**　　Ⓐ **［少］**
Ⓑ **［多］**

◆ 植付深さ調節レバー

植付深さの調節は，植付深さ調節レバーで行なってください。

【浅】…… レバーを**【浅い】**方向にセットすると浅植えになります。

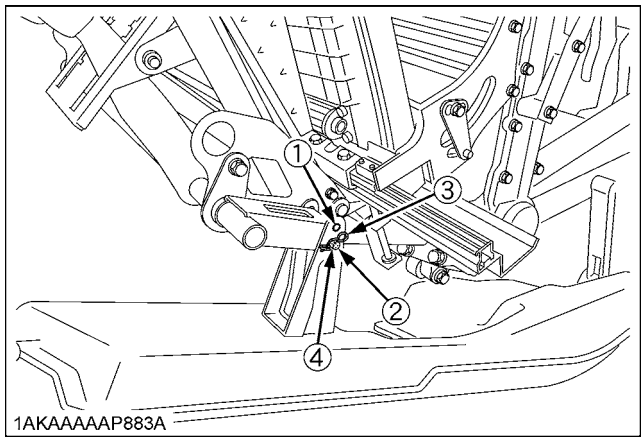
【深】…… レバーを**【深い】**方向にセットすると深植えになります。



① **植付深さ調節レバー**　　Ⓐ **［浅い］**
Ⓑ **［深い］**

補　足

＊ 植付深さ調節レバーの調節範囲よりさらに，浅植えを行ないたいときは，各フロートにあるフロート金具の支点ピンを取外して**【浅植え】**用穴に差換えてください。



① **［浅植え］用穴**
② **支点ピン**
③ **スナップピン**
④ **［標準］用穴（出荷位置）**

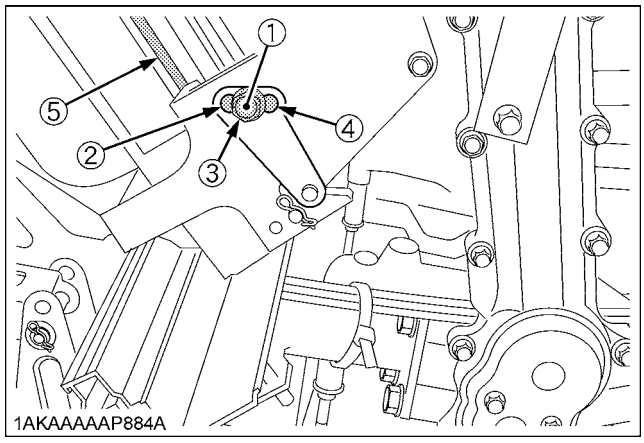
＊ 植付深さは，２～３ ㎝ が標準です。
＊ 草丈の長い苗は幾分深いめに，短い苗は浅いめに調節してください。

■苗ステー・苗押さえ棒の調節

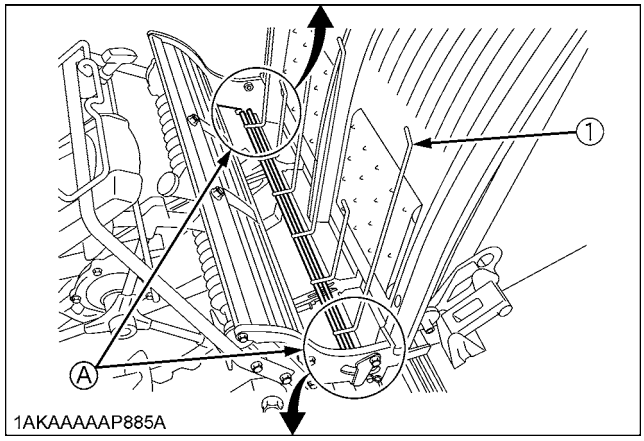
苗のせ台に苗をのせたとき，苗ステーとのすき間が大きかったり，床土の状態が悪く（薄くて軟弱な苗や根張りの悪い苗など）て，くずれ落ちによる欠株が発生したり，苗が前，後に倒れるときは調節を行なってください。

◆ 苗ステー

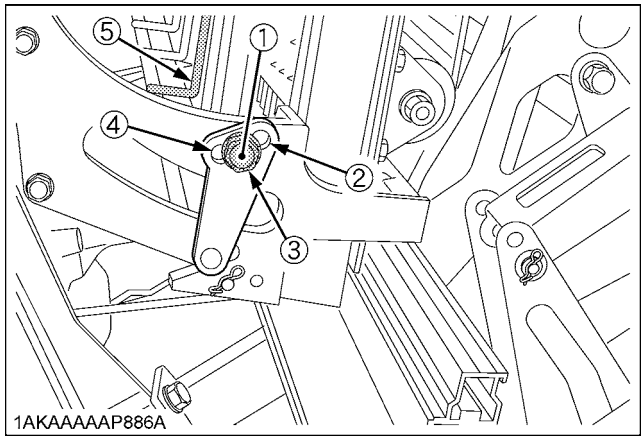
1. エンジンを停止します。
2. 苗ステーと床土とのすき間を１～ 1.5cm に調節します。
   (1) 苗ステーを固定している両端のボルトを取外します。
   (2) 苗ステー取付け金具を動かして，すき間を確認したあと，調節穴 A，B，C のいずれかの穴位置に合わせます。
   (3) 両端のボルトを取付けて苗ステーを固定します。



① ボルト
② 調節穴 A（床土が厚いとき）
③ 調節穴 B（標準位置）
④ 調節穴 C（床土が薄いとき）
⑤ 苗ステー



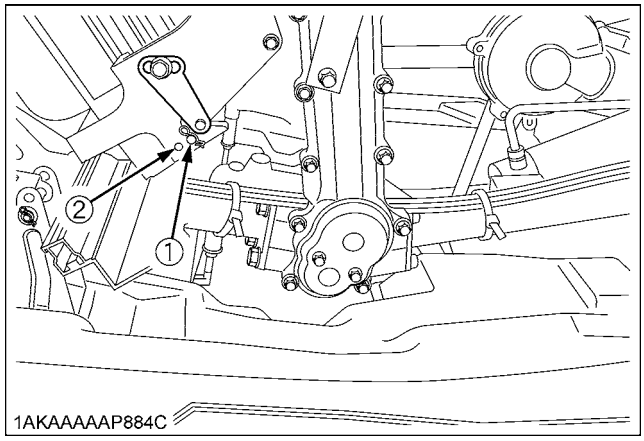
① 苗ステー　　Ⓐ 苗ステー調節部取付位置



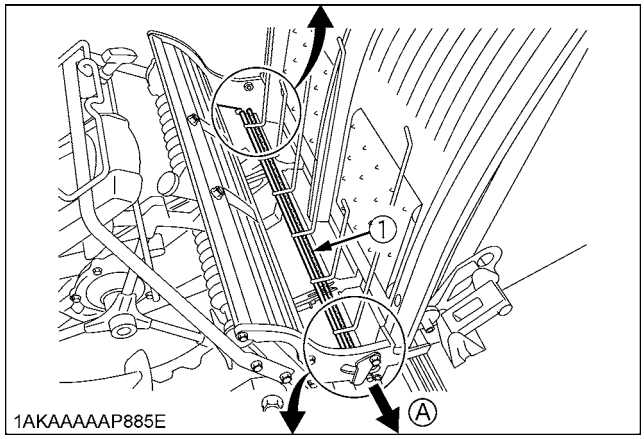
① ボルト
② 調節穴 A（床土が厚いとき）
③ 調節穴 B（標準位置）
④ 調節穴 C（床土が薄いとき）
⑤ 苗ステー

◆ 苗押さえ棒

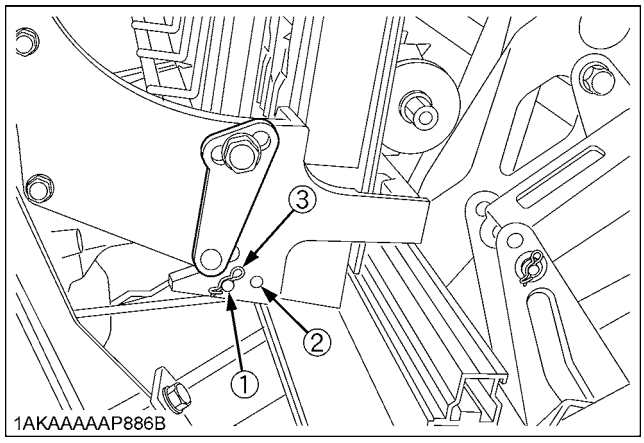
1. 機体を下降したあと，エンジンを停止します。
2. スナップピンを取外したあと，ロッドを抜取ります。
3. 穴の位置を変更してロッドを差込んだあと，スナップピンを取付けます。



① 取付け穴（標準）
② 取付け穴
③ スナップピン



① 苗おさえ棒　　Ⓐ 抜取る



① 取付け穴（標準）
② 取付け穴
③ スナップピン

● 調節位置

現象	取付け穴位置
● 苗が短い。 ● 植付けたとき，苗が後に倒れる。 ● 苗床が軟弱で，植付けるとバラケやすい。	①（標準）➡②
● 苗が長い。 ● 植付けたとき，苗が前に倒れる。 ● 苗が押さえ棒に引掛り，しゅう動板まで降りてこない。	②➡①（標準）

重　要

＊ 苗押さえ棒は，苗丈が 20cm 以上の苗には使わないようにしてください。植付不良の原因となる場合があります。

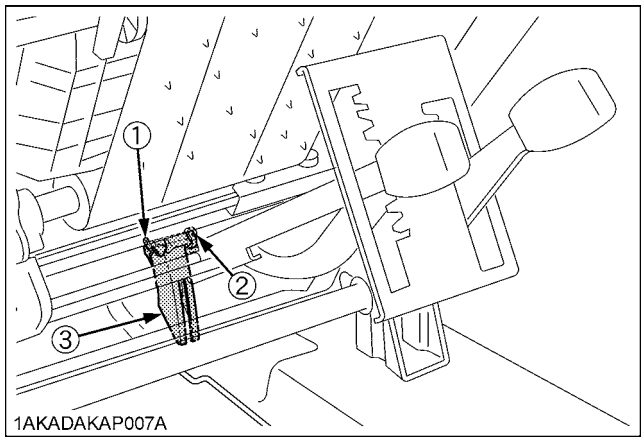
■苗ガイドの取外し方

注　意

＊ 苗ガイドを取外すときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

苗が長く徒長ぎみのときは，苗ガイドを取外してください。

1. スナップピンを外してください。
2. 頭付きピンを抜いてください。



① スナップピン
② 頭付きピン
③ 苗ガイド

各部のオープン（開閉）のしかた

警　告

＊ 平たんで安全な場所で,エンジンを必ず止めてから行なってください。

■ボンネットの開けかた

注　意

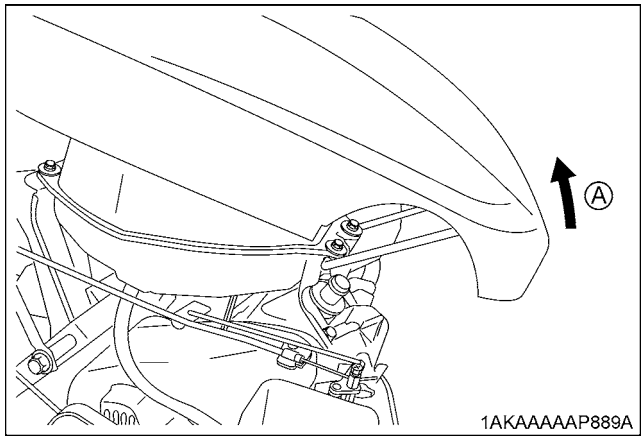
＊ 中に回転物・高温部があり，ケガをするおそれがあるので，点検・調整などでボンネットを開けるときは，エンジンを必ず止めてください。
＊ 点検・調整後はボンネットを必ず閉じてください。

注　意

＊ オーバーヒートなどでボンネットを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1) 作業を中止する。
(2) エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。
(3) エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。
(4) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。

◆ 開きかた

ボンネット先端部を持ち上げて開き, 固定させます。



Ⓐ 持ち上げる

◆ 閉じかた

ボンネット先端部を押し下げて閉じ, 固定させます。

定期点検

定期点検は，田植作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
田植作業は，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいては田植機の寿命を短くしてしまいます。
田植機の持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警　告

＊ 各部の点検・調整・交換作業を行なうときは，平たんな場所でエンジンを必ず止めて，各レバー類を［切］位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込まれるおそれがありますので，点検後はカバー類を必ず取付けてから作業をしてください。
＊ 燃料の補給中は火気厳禁。

注　意

＊ ボンネットを開けるときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイルの補給中は火気厳禁。
＊ 燃料やオイルがこぼれたときは，きれいにふき取ってください。

補　足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。
＊ 点検・交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早めの点検をお願いします。

■廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

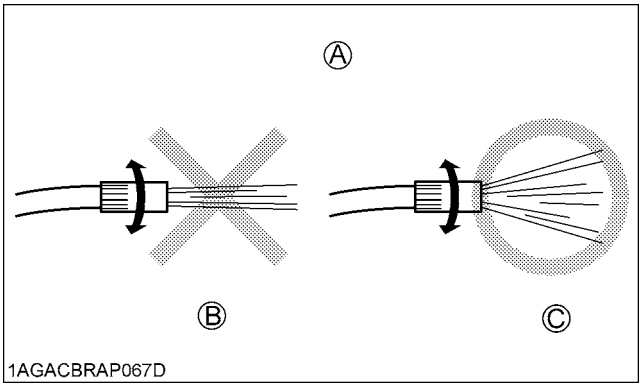
■洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

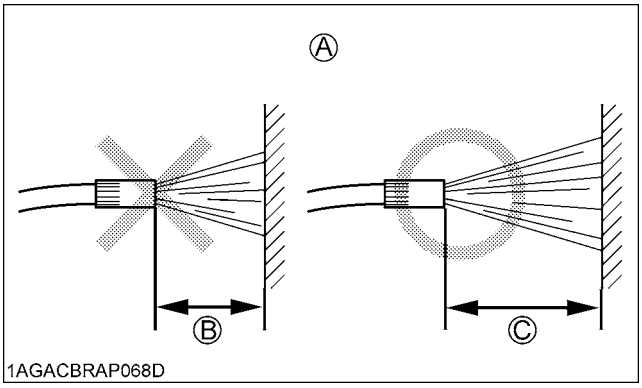
注　意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1. **電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。**
2. **油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**
3. **機械の破損・損傷・故障の原因になります。**
   例）(1) シール・ラベルの剥がれ
   (2) 電装部品，エンジン等への浸入による故障
   (3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂部品，ガラス等の破損
   (4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ



Ⓐ 直射洗車厳禁
Ⓑ 直射
Ⓒ 拡散



Ⓐ 近距離洗車厳禁
Ⓑ 2m 以下
Ⓒ 2m 以上

■定期点検一覧表

○：点検と処置　　△：交換

点検箇所・項目		方法	点検・交換時期								参照ページ
		点検・処置	作業前後	シーズン前後	50時間	100時間	150時間	200時間	400時間	2年ごと	
エンジン部	燃料フィルタポット（フィルタエレメント）	掃除・洗浄		○	○	○	○	○	○：以後50時間ごと		40 ☆
	燃料フィルタ	交換								△	43 ☆
	エアクリーナエレメント	掃除・交換	○：50時間ごと（日常点検でも汚れがひどいときは都度掃除） △：200時間ごと								42 ☆
	マフラスクリーン	点検・掃除	○								44
	点火プラグ	掃除・交換		○		○		○		△	42 ☆
		すきま調整	○：100時間ごと								
	気化器（キャブレタ）	掃除	○：エンジン不調時など								☆
	燃料タンク	点検・掃除	○								☆
	燃料タンクの燃料こしあみ	点検・掃除	○								☆
	燃料パイプ	点検・交換	○							△	43 ☆
			（作業前後点検し，燃料もれしているときは締付けバンドの締付け又は，燃料パイプの交換）								
走行・操作部	トランスミッションオイルフィルタ	掃除			○			○	○：以後200時間ごと		☆
	車輪のタイヤ	点検・交換	○								47 ☆
			△：タイヤのラグの高さが8mm以下になったとき								
	車輪クラッチワイヤ	調整・交換	○								44
			△：破損時								☆
植付部	植付爪	点検・交換	○								45
			△：3 mm以上摩耗したとき（植付時に苗取りができないとき）								
	押出しロッド	点検・交換	○						△		45
			△：破損や変形がひどいとき（浮苗，ころび苗，ばらけ苗が発生）								
	縦送りベルト	点検・掃除・交換	○								☆
			△：破損や摩耗がひどいとき								☆
	しゅう動板・苗のせ台ホルダ	点検・交換	○								48 ☆
			△：苗のせ台受けの厚さが6.5mm以下になったとき								
	植付クラッチワイヤ	調整・交換	○								44
			△：破損時								☆
電装部	ワイヤハーネス	点検・交換	○								48 ☆
			△：破損時								
	ランプ（電球）	交換	△：破損時（球切れ）								48 ☆
その他	各ロッド，ワイヤ	点検・調整	毎シーズン始め								☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目の交換については，購入先に連絡又は，整備工場で行なってください。

補　足

＊ 上表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって，消耗部品の調整や交換時期は異なります。

■給・注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	給油	作業前又は，作業後	—	・容量 ･･･2.5L	自動車用 レギュラガソリン	9
オイル	エンジン	補給 ・ 交換		・初回 ･･･20時間目（1ha） ・２回目以降 ･･･50時間ごと（2.5haごと）	＊規定量（0.4L） オイルゲージの**上限**まで （下限の場合は補給してください。）	クボタ純オイル G10W30又は， SAE10W-30 API分類SE級以上	9,39
	トランスミッションケース	補給 ・ 交換	—	・初回 ･･･50時間目（2.5ha） ・２回目以降 ･･･200時間ごと（10haごと）	＊規定量 オイルゲージの**上限**まで ・容量 ･･･1.6L	クボタ純オイル スーパーUDT-2	9,39
グリース	植付アーム	補給	50時間ごと	—	適量	新日本石油 G574 ※1	40 ☆
	スイングケース フィードケース 植付ケース 植付伝導ケース 横送りケース		分解時			クボタ純 グリースNo.2	

＊ 参照ページに☆印のある整備（分解作業）については，購入先に連絡してください。
※1. クボタ純グリースとミッションケース用クボタ純オイルを1:1の割合で混合したものでも代用可能です。

重　要

各部への補給と交換
＊ エンジンオイル量の点検は，エンジン停止後，５分以上経過してから行なってください。
＊ 使用するオイル・グリースは，指定のクボタ純オイル・クボタ純グリースを使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。
＊ 各オイルを給油，補給，点検する時は，機体水平（エンジン水平）にして行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

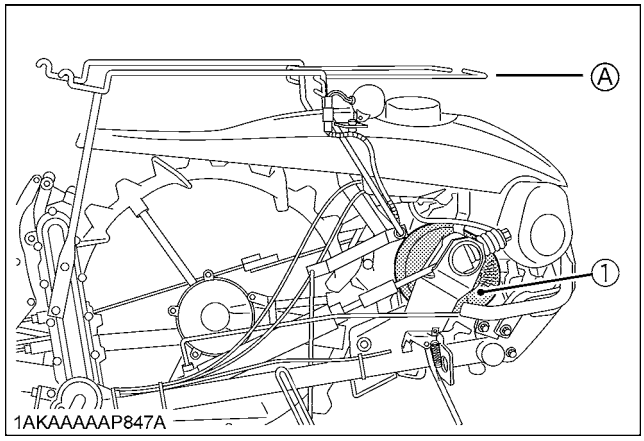
■エンジンオイルの交換

警 告

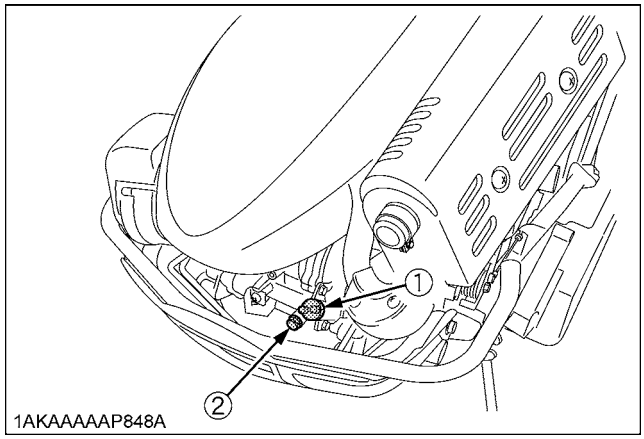
＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ エンジン停止直後は，エンジン回りや各部オイルが熱くなっているため，引火火災やヤケドをするおそれがあります。

◆ オイルの排出

給油口のオイルゲージを外し，その後ドレーンプラグを外してオイルを排出します。このとき，エンジンは必ず水平状態にして行なってください。



① エンジン　　Ⓐ 水平状態にする



① 給油口・オイルゲージ
② ドレーンプラグ

◆ オイルの給油

ドレーンプラグを締付け，エンジンを水平にして給油口からオイルゲージの上限まで給油し，オイルゲージをきちんと入れてください。

重 要

＊ オイルゲージのＯリングは必ず装着してください。油もれによりエンジンが破損するおそれがあります。

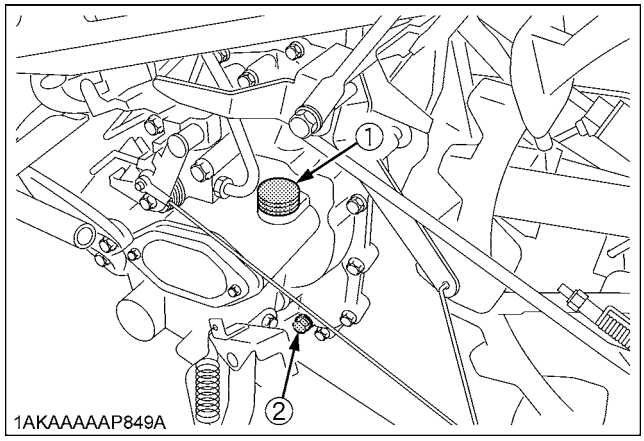
■トランスミッションオイルの交換

警 告

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ エンジン停止直後は，エンジン回りや各部オイルが熱くなっているため，引火火災やヤケドをするおそれがあります。

◆ オイルの排出

給油口のオイルゲージを外し，その後ドレーンプラグを外してオイルを排出してください。



① 給油口・オイルゲージ
② ドレーンプラグ

◆ オイルの給油

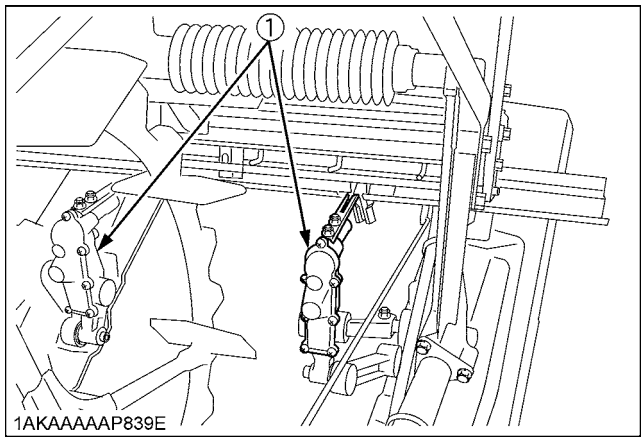
エンジンを水平にした状態でドレーンプラグを締付け，給油口からオイルゲージの上限まで給油し，オイルゲージをきちんと入れてください。

重 要

＊ 給油したあとエンジンを約１分回転させて，再度点検を行ない，不足しているときにはオイルを追加補給してください。
＊ オイルゲージのＯリングは必ず装着してください。油もれにより破損する恐れがあります。

■植付アームグリースの補給

50 時間ごとに，ギヤーオイルと多目的グリースを同じ量ずつ混ぜた軟グリースを補給してください。



① 植付アーム

■分解時に補給

次の項目は分解時, 購入先に依頼して補給してください。

◆スイングケース
◆フィードケース
◆植付ケース
◆植付伝導ケース
◆横送りケース

■燃料フィルタポットの掃除

掃除は燃料を給油する前に行なってください。

警 告

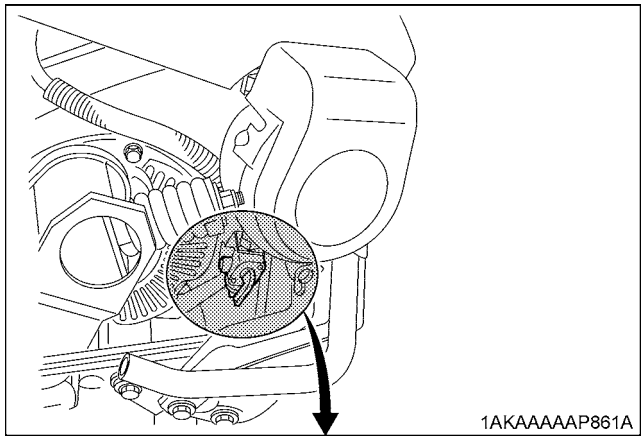
＊ 点検・掃除中は火気厳禁です。

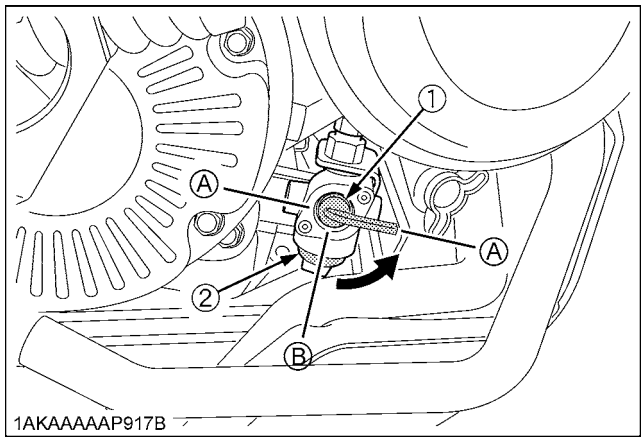
重 要

＊ 燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタのエレメントの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなります。
＊ 燃料フィルタポット下部に水が溜まっているときは，早目に掃除又は交換してください。

◆ 点検・掃除

1. 燃料コックレバーを**［開］**位置から**［閉］**位置にします。





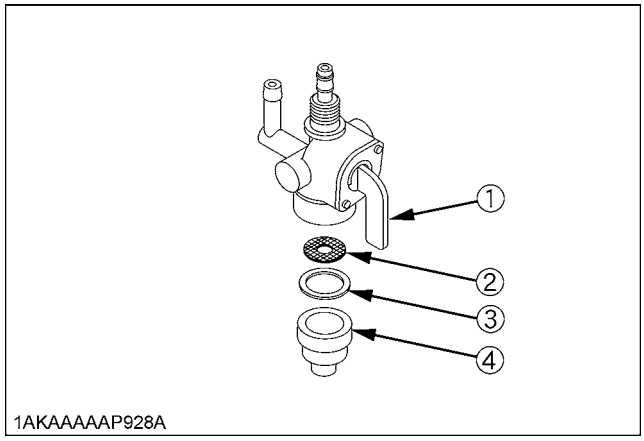
① **燃料コックレバー**　Ⓐ **［閉］**
② **燃料フィルタポット**　Ⓑ **［開］**

2. 付属のスパナで燃料フィルタポットを回し，ゆるめて外します。

重　要

＊ 燃料フィルタポットを外すとき，パッキンやエレメントも同時に外れますのでなくさないようにしてくだい。

3. 燃料フィルタポット内部及びエレメントを洗浄してください。このとき，汚れのひどい場合は交換してください。



① **燃料コックレバー**
② **エレメント**
③ **パッキン**
④ **燃料フィルタポット**

重　要

＊ エレメントやパッキンは傷つけないようにしてください。また，失くさないでください。
＊ 汚れ（目詰まり）がひどい場合は，洗浄を行なっても短時間で目詰まりします。

4. パッキンやエレメントにゴミが付着しないように元通りに組付けます。

重　要

＊ ゴミが燃料内に混入すると，故障の原因となります。

■エアクリーナエレメントの掃除

重　要

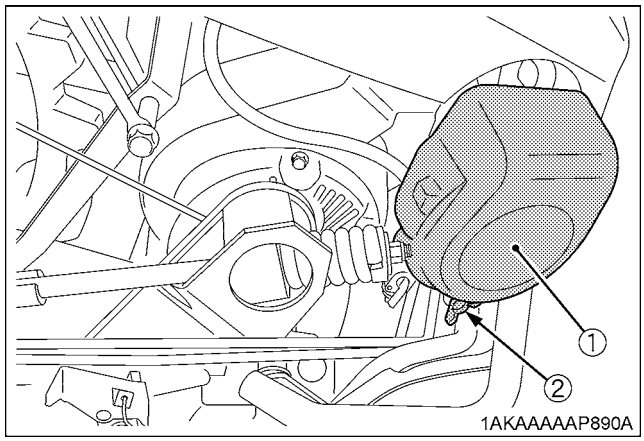
＊ エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。

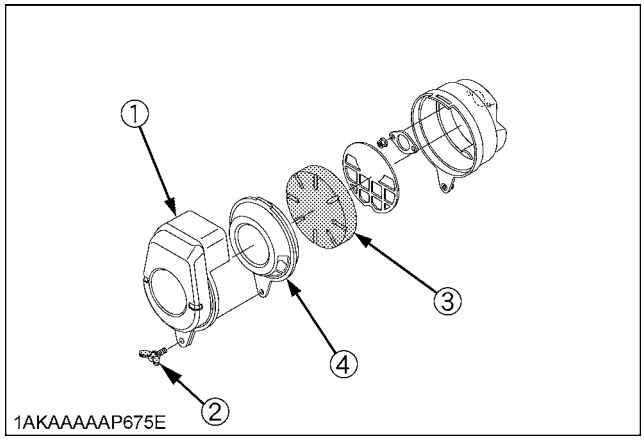
1. ボンネットを開いたあと，蝶ボルトを外して，エアクリーナのカバー１，２を取外します。
2. エレメントを取外し，新しいエンジンオイルに浸したあと，布などに包み軽く手で絞ります。このとき，汚れや破損のひどい場合は交換してください。

重　要

＊ エレメントを強く絞ると破れるおそれがあります。
＊ エレメントは必ずエンジンオイルで洗浄してください。ガソリンや洗剤（酸性，アルカリ性），有機性の揮発油で洗浄するとエレメントの劣化が早まるおそれがあります。

3. エレメントを取付けます。
4. エアクリーナのカバー１，２を取付けます。





① **エアクリーナカバー１**
② **蝶ボルト**
③ **エレメント**
④ **エアクリーナカバー２**

■点火プラグの掃除・調整

注　意

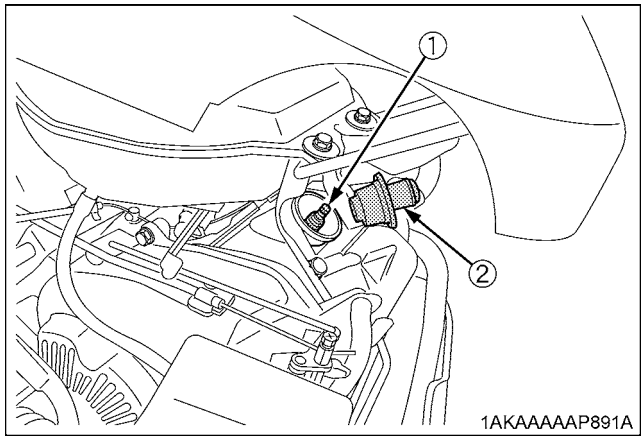
＊ 点火プラグの取外しは，エンジンが冷えた状態で行なってください。

重　要

＊ 点火プラグの電極が溶けて，すき間が広がったり，カーボンが付着したり，碍子（ガイシ）部が破損するとエンジンの不調の原因となります。

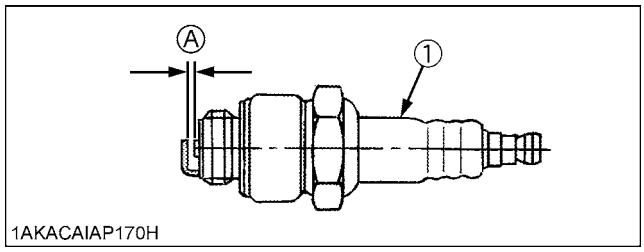
◆ 掃除・調整

1. ボンネットを開いたあと，点火プラグのキャップを外します。
2. 付属部品のボックススパナ21でプラグを取外します。



① 点火プラグ
② プラグキャップ

3. ワイヤブラシで電極の汚れやカーボンを落として掃除したあと，電極のすき間を確認し，異常があれば，すき間調整又は，点火プラグの交換を行ないます。すき間は，0.6 ～ 0.7 ㎜に調整します。



① 点火プラグ　　Ⓐ すき間：0.6 ～ 0.7㎜

重　要

＊ 点火プラグを交換するときは，必ず同じ型式のものを使用してください。異なったプラグを使用すると，失火や始動不良を起こすおそれがあります。

点火プラグ型式	数量
NGK 製　BPR6HS	1

＊ 点火プラグを取付けるときは最初手でねじ込み，その後ボックススパナで締付けてください。最初からボックススパナで締付けると，シリンダヘッドのねじをつぶしてしまうことがあるので，十分ご注意ください。

4. ボンネットを閉じます。

■燃料フィルタ・燃料パイプの点検

注　意

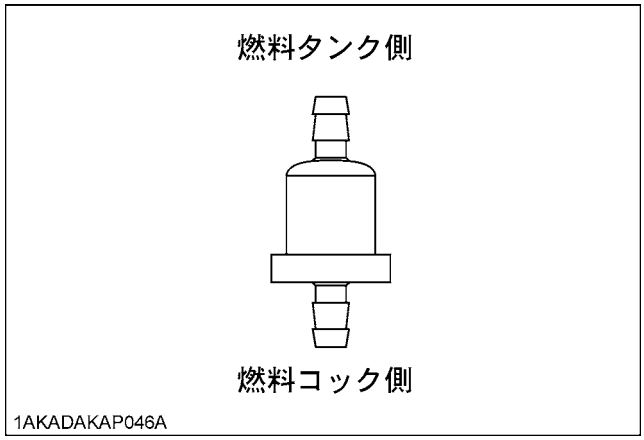
＊ 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆点検

エンジン，燃料タンク各部にある各パイプを点検し，燃料もれが発生しているときは，パイプの交換やバンドを締付けてください。

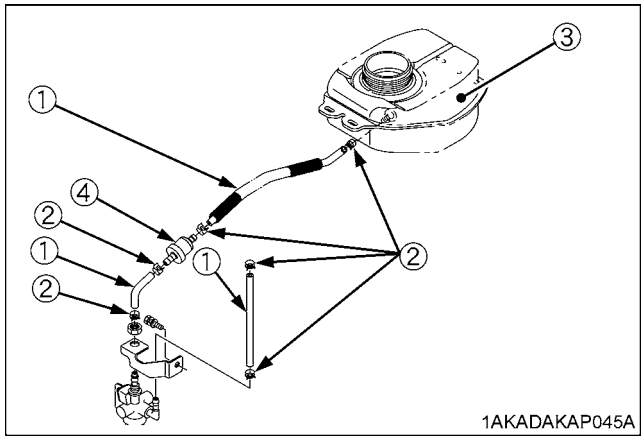
重　要

＊ 油もれや燃料もれをしていなくても，**２年経過しているときや劣化の激しい場合**は交換してください。交換については，購入先に連絡してください。
＊ 燃料フィルタの向きに注意し，図示の方向にて組付けてください。



◆ 締付け

締付不足がないよう締付けてください。



① 燃料パイプ
② 各バンド
③ 燃料タンク
④ 燃料フィルタ

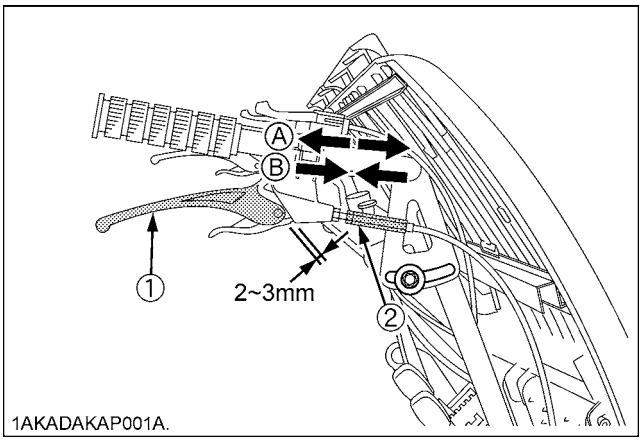
■車輪クラッチ・植付クラッチの調整

注　意

＊ 点検・調整するときは，必ずエンジンを停止してください。
＊ 機械は平たんな場所に置き，特に植付部を他の物に当てないよう注意してください。

◆ 車輪クラッチの調整

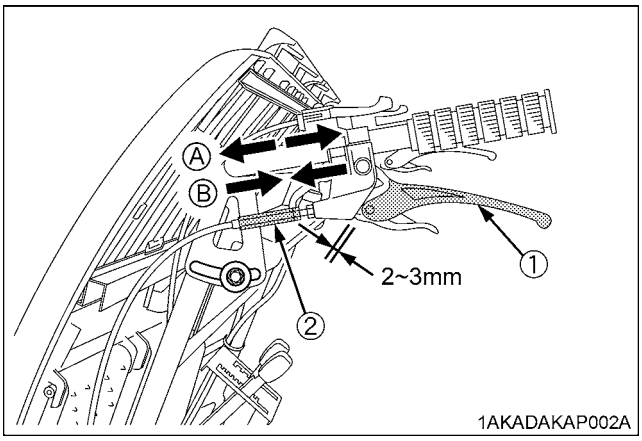
車輪クラッチレバーが**【切】**で確実にクラッチが切れ，レバーを**【入】**にしたとき，２～３ ㎜ 程度の遊びがあるように調整してください。
調整は，車輪クラッチワイヤの調節金具を伸縮させて行なってください。



① 車輪クラッチレバー　Ⓐ［切れにくいとき伸ばす］
② 調節金具　Ⓑ［遊びがないとき縮める］

◆ 植付クラッチの調整

植付クラッチレバーが**【切】**で確実にクラッチが切れ，レバーを**【入】**にしたとき，２～３ ㎜ 程度の遊びがあるように調整してください。
調整は，植付クラッチワイヤの調節金具を伸縮させて行なってください。



① 植付クラッチレバー　Ⓐ［切れにくいとき伸ばす］
② 調節金具　Ⓑ［遊びがないとき縮める］

■マフラ部の掃除

注　意

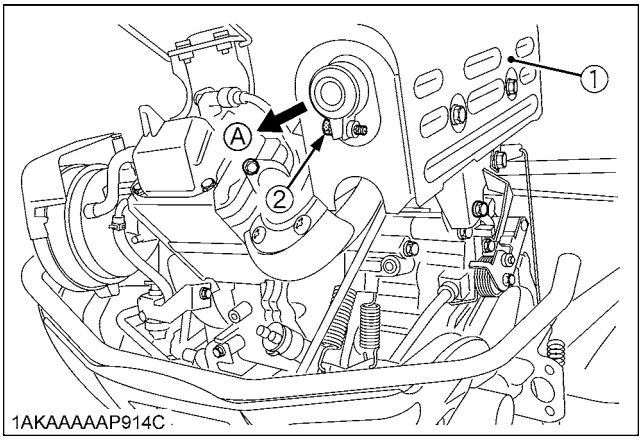
＊ マフラ，エンジンがじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。

マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となり危険です。掃除するときは，マフラスクリーンのゴミ等をきれいに取除いてください。

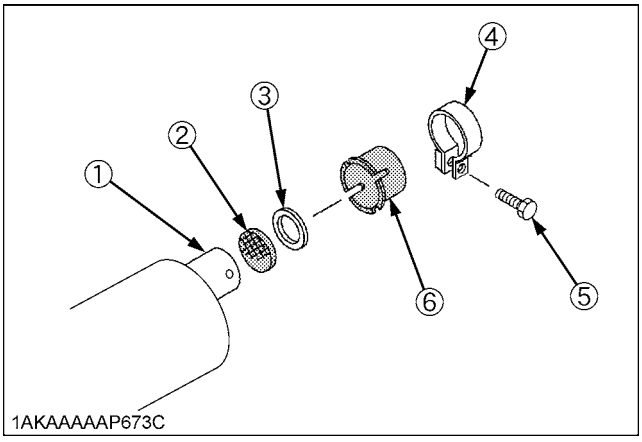
掃除はボンネットを開いて行なってください。また，掃除後はボンネットを確実に閉じてください。

◆ マフラスクリーンの掃除

1. ボルトをゆるめて，マフラ排気口からバンド，マフラキャップ，座金，マフラスクリーンを取外します。
2. 針状の固い物でマフラスクリーンの付着物を取除いてからワイヤブラシ等でマフラスクリーンに付着しているカーボンやゴミ等を取除きます。また，マフラキャップ内側のゴミ等も取除きます。
3. 取外しと逆の手順でマフラ排気口にマフラスクリーン，座金，マフラキャップ，バンドを取付けたあと，ボルトを締付けます。



① **マフラ**　　Ⓐ **［取外す］**
② **ボルト**



① **マフラ排気口**
② **マフラスクリーン**
③ **座金**
④ **バンド**
⑤ **ボルト**
⑥ **マフラキャップ**

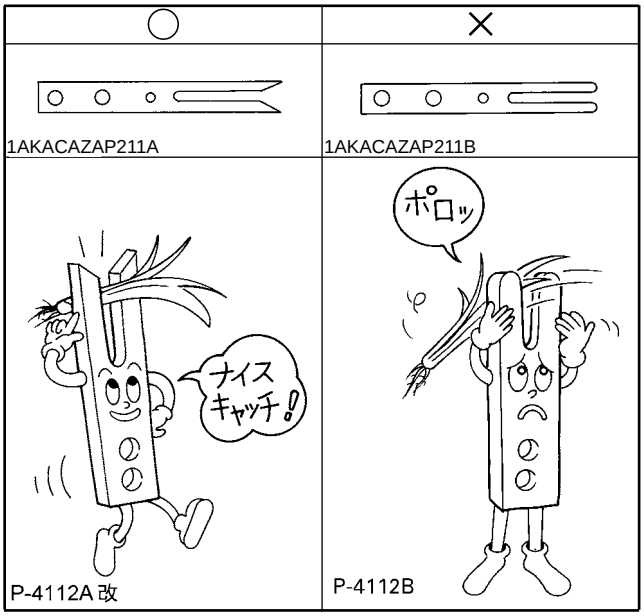
■植付爪・押出しロッドの点検・交換

警　告

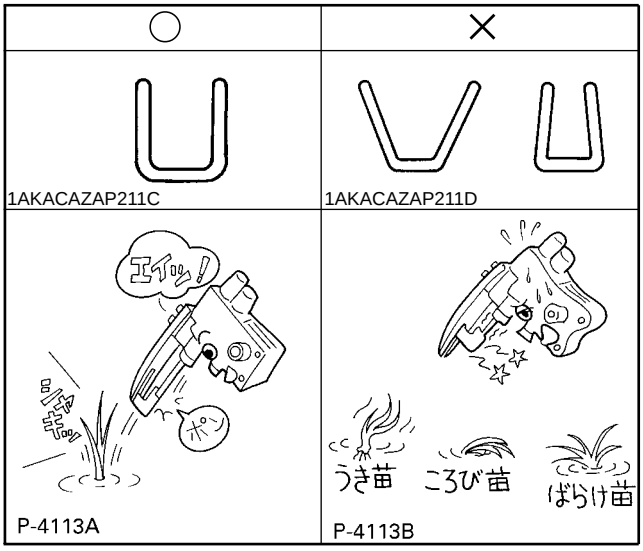
＊ 植付爪に接触すると手を傷つけるおそれがあるので，植付爪の交換・調整・清掃，苗取り出し口の異物の除去，残り苗の取り出しなどを行なうときは，エンジンを必ず止めてください。

植付爪が摩耗や破損すると，苗の取出しができなくなるため，植付不良となり，押出しロッドが変形や破損をすると，うき苗・ころび苗・ばらけ苗などの植付不良となりますので，定期点検を良く行なってください。

● **植付爪**

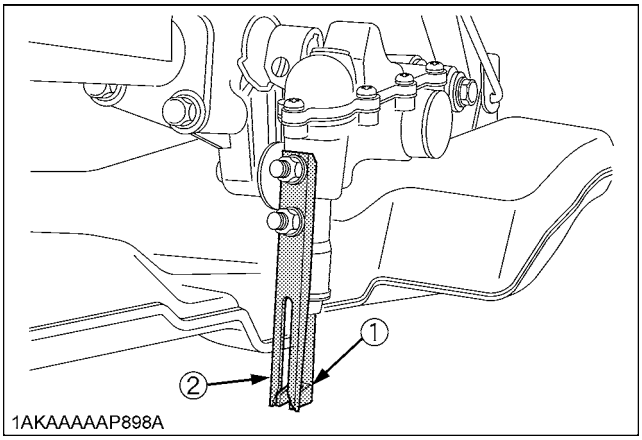


● **押出しロッド**



◆ **点検**

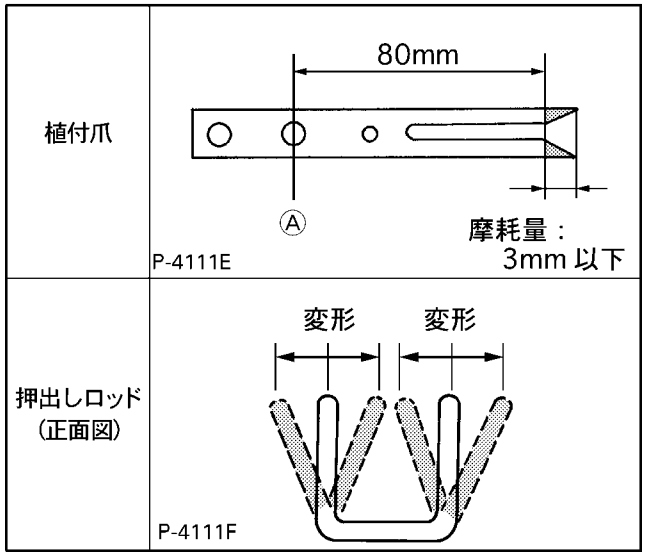
1. 機械を平たんな場所に止めて，エンジンを停止します。
2. 植付爪の摩耗状態や押出しロッドの変形状態を確認します。
3. 植付爪の摩耗状態が 3mm 以内のときは，苗取りゲージで高さ調整を行ない，3mm 以上（A 位置から残り 80mm）摩耗しているときは交換してください。また，押出しロッドの変形量により，押出しロッドの押出し確認又は，購入先に連絡して交換してください。



① **押出しロッド**
② **植付爪**

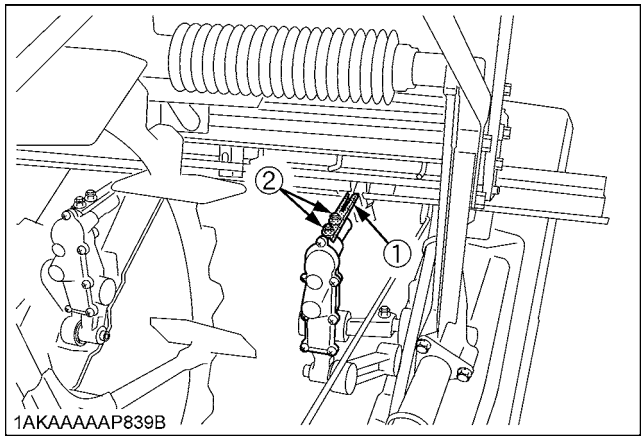
補　足

＊ 苗取りゲージでの植付爪の高さ調整の方法は 30 ページを参照してください。



◆ **交換**

1. 植付クラッチレバーを **[切]** 位置にしたあと，エンジンを停止してください。
2. 植付爪を取付けているナットを取外してください。



① **植付爪**
② **ナット**

3. 新しい爪と交換してください。

補　足

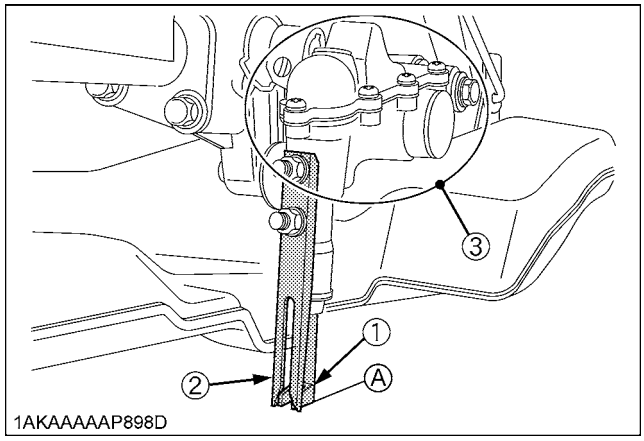
＊ 植付爪は消耗品ですから，常に１セット予備として準備しておいてください。

コード No.	部品名称	数　量
PN401-5167-△	ウエツケヅメ (RIS13)	２個 / １台

4. ナットを締付けてください。
5. 苗取りゲージでの植付爪の高さ調整の方法は 30 ページを参照してください。

◆ 押出しロッドの動作確認

1. 植付クラッチレバーを［入］位置にしてください。
2. 植付アームを手で回して，最下端のときに押出しロッドと植付爪のそれぞれの先端が揃っていることを確認してください。



① 押出しロッド　　Ⓐ 揃っていること
② 植付爪
③ 植付アーム

補　足

＊ 手で回らないときは，メインスイッチを**【切】**にしたあと，変速切換えレバーを**【低速】**位置，植付クラッチレバーを**【入】**位置，車輪クラッチレバーを**【切】**位置にして，リコイルスタータハンドルをゆっくりと引張り，植付アームを回してください。

3. 押出しロッドの変形や破損で動かないときは，購入先に連絡して交換してください。

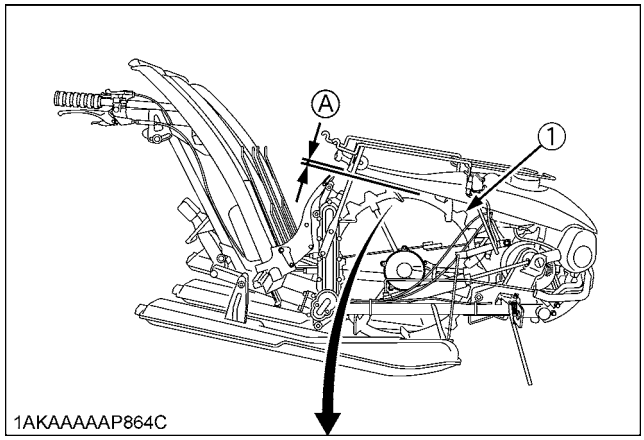
■車輪のタイヤの点検

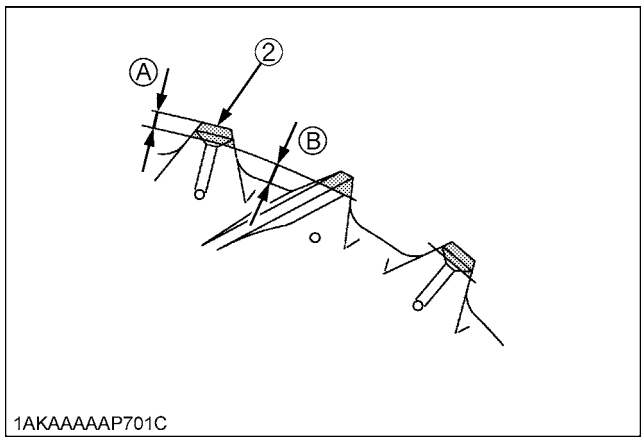
警　告

＊ 車輪のタイヤが摩耗するとスリップを起こしやすくなるため，あゆみ板の上などで脱輪して転倒するおそれがあります。

◆ 点検

車輪のタイヤの摩耗や破損（ひび割れなど）を点検し，車輪のタイヤのラグの高さが８㎜以下になったときや，破損がひどい場合は，交換してください。





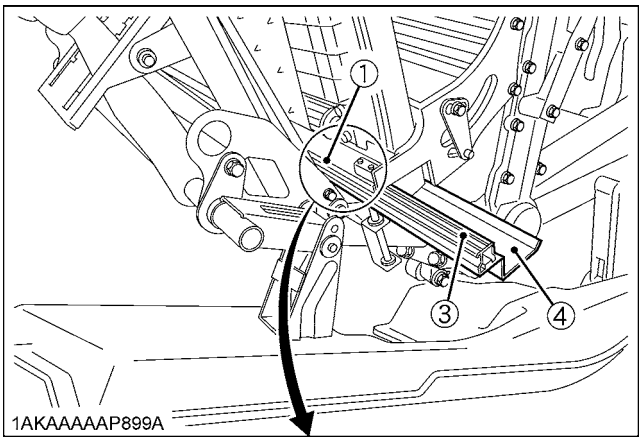
① 車輪のタイヤ　　Ⓐ 摩耗量：８㎜以内
② ラグ　　Ⓑ 残り：８㎜

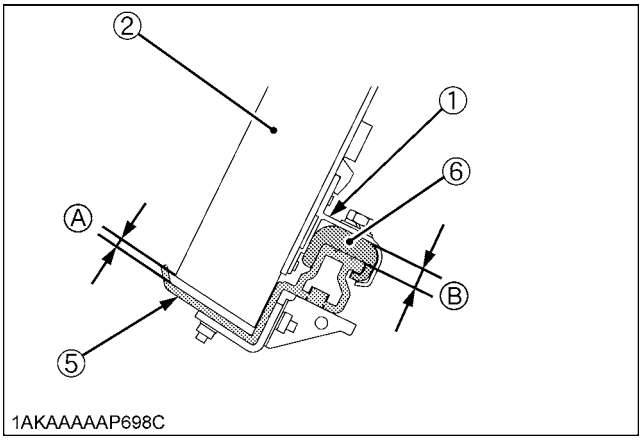
■苗のせ台のしゅう動板とホルダの点検

苗のせ台のしゅう動状態が悪くなると，正常な植付作業が行なえないおそれがありますので点検してください。

◆ 点検

しゅう動板上面としゅう動フレームの間に入っている苗のせ台ホルダの厚さを測り，6.5 ㎜以下のときは購入先に連絡してください。





① しゅう動フレーム
② 苗のせ台
③ しゅう動板上面
④ しゅう動板下面
⑤ しゅう動板
⑥ 苗のせ台ホルダ
Ⓐ 接触しないこと
Ⓑ ホルダの受けの厚さが 6.5㎜以下のときは交換する

■電装部の各配線コードの点検・交換

注 意

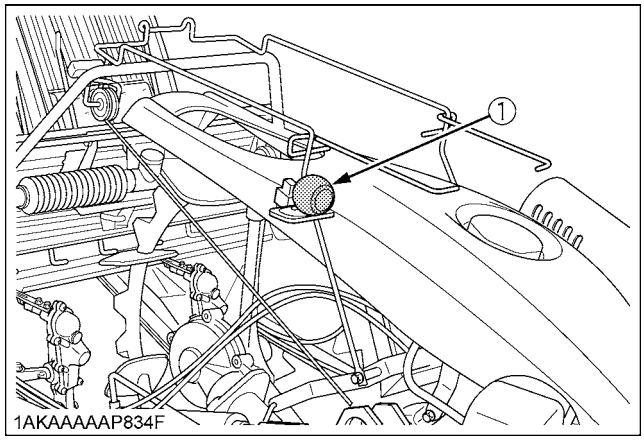
＊ 配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆ 各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，交換してください。

■ランプ（電球）の点検・交換

ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。



① 作業灯

長期格納時の手入れ

警　告

＊ 機械にカバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。
＊ 掃除する場合は，必ずエンジンを停止させてから行なってください。
＊ 燃料抜き取り時は火気厳禁。

■ 使用後の手入れ

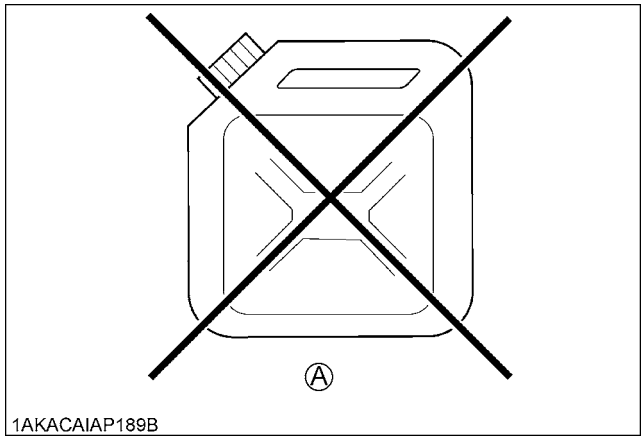
1. 各部に付いている土やゴミなどを洗い落し，水洗後は必ず水をふき取ってください。
2. グリース塗布箇所にはグリースを，注油箇所には注油してください。
3. 植付爪の先端など，錆やすい所にはグリースを塗ってください。
4. 各部のゆるみを調べ，増締めをしてください。

■ 長期格納時

1. 格納は，直射日光や雨の当らない風通しの良い場所を選んでください。
2. 燃料タンク内及び燃料フィルタポット内及びキャブレタ内のガソリンを抜取ってください。

重　要

＊ 燃料のガソリンは 1ヶ月以上放置すると，気化や酸化をしてガソリンが変質し，エンジンの不調や故障の原因になりますので，必ず燃料タンク内及び燃料フィルタポット内及びキャブレタ内のガソリンは抜取ってください。
＊ 燃料のガソリンを保管するときは，必ず金属の容器に保管してください。ポリタンクなどの樹脂製の容器に保管すると，ガソリンが樹脂成分を溶解したり，紫外線透過によりガソリンが変質し，エンジンの不調や故障の原因となります。

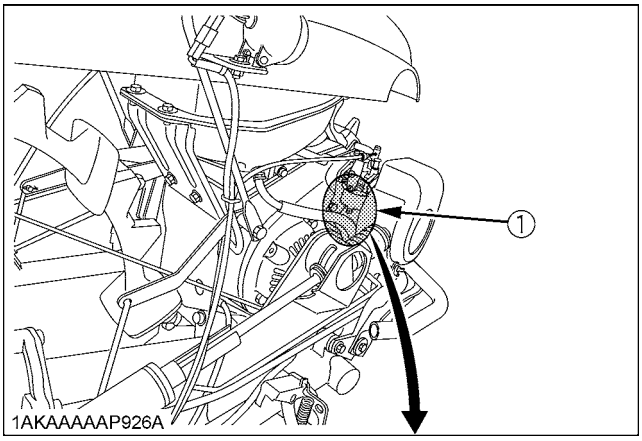


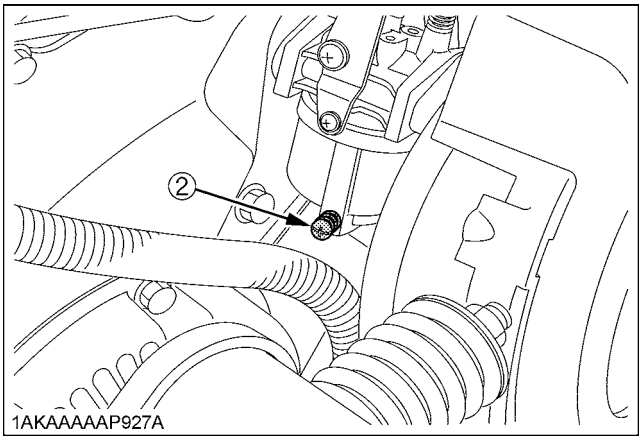
Ⓐ **ポリタンク不可**

補　足

＊ １ヶ月以上エンジンを始動しないときは，必ず燃料タンク内及び燃料フィルタポット内及びキャブレタ内から燃料のガソリンを排出しておいてください。

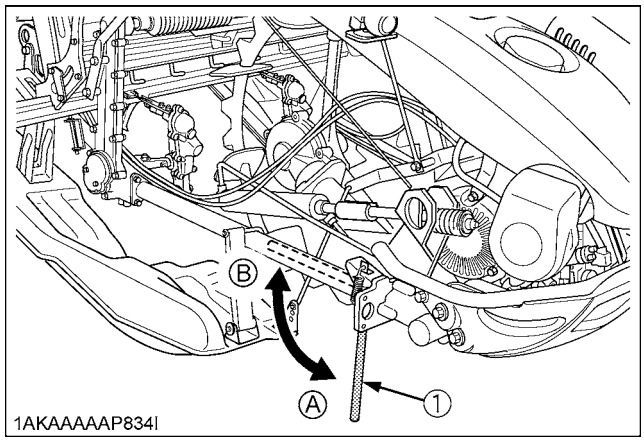
3. 燃料コックを**【閉】**にし，ネジを外して，キャブレタ内のガソリンを完全に抜いてください。





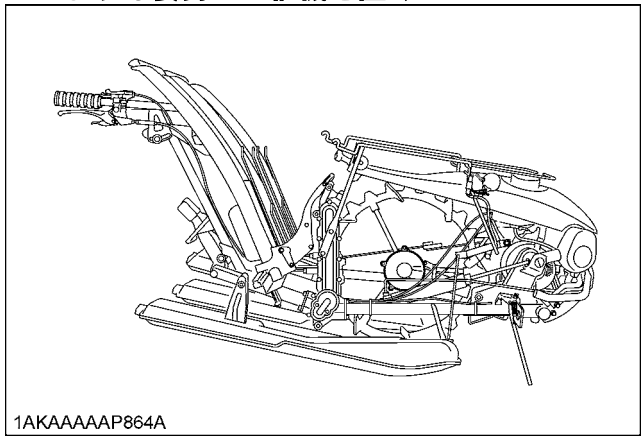
① **キャブレタ**
② **ネジ**

4. 植付爪は苗取り直前の状態にし，機体は下げた状態にしてください。
5. 各クラッチレバーは**【入】**の状態にしておいてください。
6. スロットルレバーは**【低】**の方へいっぱい回しておいてください。
7. リコイルスタータハンドルを引張って，エンジンの圧縮位置で止めておいてください。
8. 田植機を保管するときや放置するときは，スタンドを**【固定】**位置にし，機体が倒れないようにし，田植機を**【最下降】**位置まで降ろします。



① **スタンド**
Ⓐ **［固定］**
Ⓑ **［解除］**

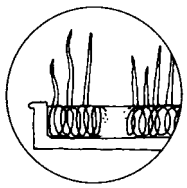
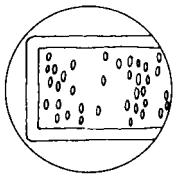
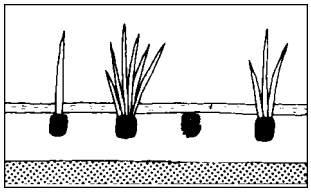
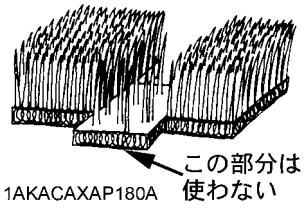
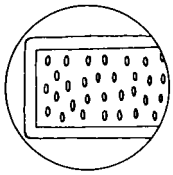
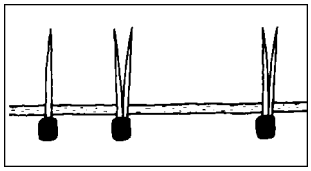
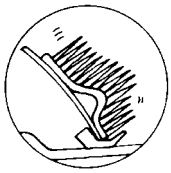
このような姿勢で田植機を置く



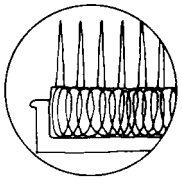
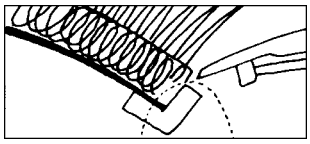
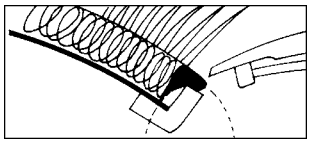
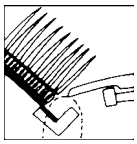
9. フロートに無理な力をかけて，変形させないようにしてください。

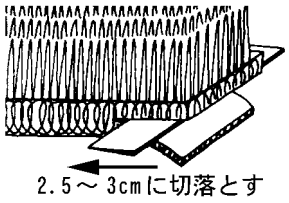
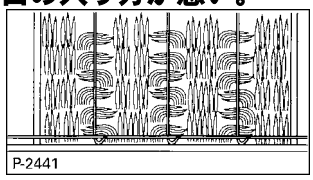
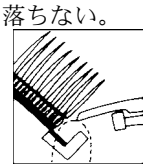
田植機の不調と処置

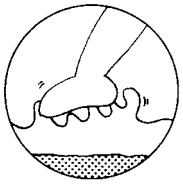
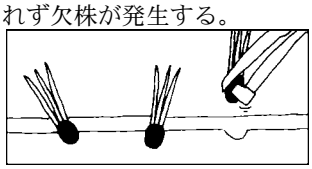
欠株が出る

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
苗に生育ムラやハゲた部分がある苗  **苗の播種ムラがひどい苗** 	●植付けの本数がバラついたり欠株が出る。 	**苗の処置** ①生育の悪い部分やハゲたところを切取って植え付ける。 ②悪い苗は，使用しない。（補植えに使用する） **機械の処置** 苗取り量は多く，横送り回数は少なくする （横送り量を多くする）。	
播種量が少ない苗 	●植付け本数が少なくなり欠株が出る。 	**苗の処置** 中苗用成苗用の育苗指針を守り播種ムラのない苗をつくる。 **機械の処置** 苗取り量は多く，横送り回数は少なくする。 （横送り量を多くする）	
苗床がうすく又根張りが悪い苗 **苗床が軟らかすぎる苗**	苗のせ台上で苗がくずれて植付けできない。 	**機械の処置** 苗ステーと苗との間隔を狭くして苗のせ台からのずり落ち，くずれを防止する。 (32 ページ参照) **苗の処置** ①苗床厚が 2 ㎝ 以上の苗を使用する。 ②苗床を乾かして硬めにする。	

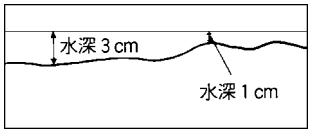
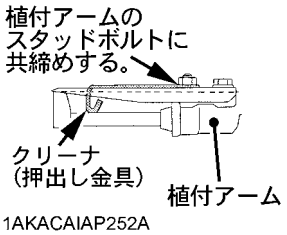
田植機の不調と処置

<table>
<tr><th>このような状態で（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr>
<td>苗床が厚い苗
  </td>
<td>①苗がうまく取れないため，苗取量が少なかったり欠株が出る。
 
②爪の軌跡より外れた部分が残ってダンゴ状になり苗の縦送りができなくなる。
 
③苗のせ台上で苗のすべりが悪く欠株がでる。  </td>
<td>機械の処置
①苗取り量を多少多くして苗を取るようにする。
(30 ページ参照)
②苗ステーを調節して苗床とのすき間をあける。
(32 ページ参照)

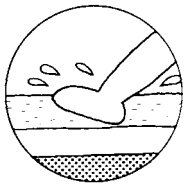
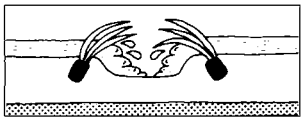
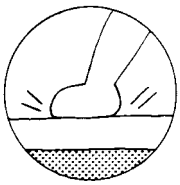
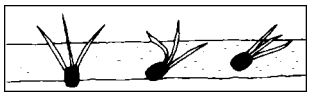
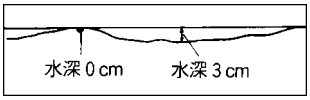
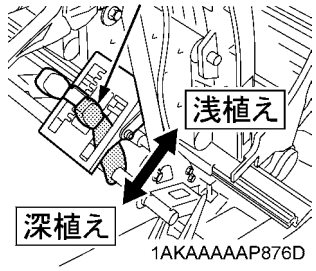
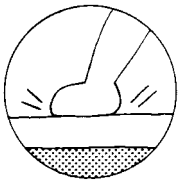
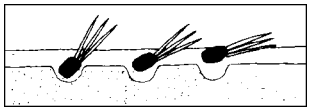
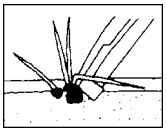
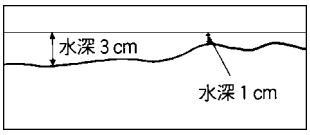
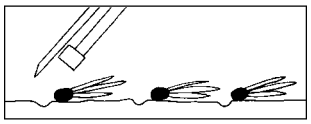
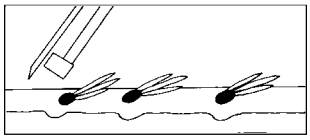
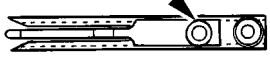
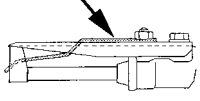
苗の処置
①苗床厚（マット厚）が 2.5 ～ 3 ㎝になるように切落とす。切落とせない場合はその苗は使用しない。
②植付け前にかん水してすべりを良くする。</td>
<td>
1AKAAAAAP876E
 
1AKACAXAP181A</td>
</tr>
<tr>
<td>苗の入り方が悪い。
  </td>
<td>苗が苗ステーに引っかかって落ちない。
  </td>
<td>苗の処置
引っかかった苗を取除いてきちんと入れ直す。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>床土が粘土質で粘りが強い苗。

粘土質のほ場でしかも水が少ない。
  </td>
<td>植付け時，苗が植付爪より離れず欠株が発生する。
  </td>
<td>苗の処置
苗床を乾き気味にする。又は水につけ十分水分をもたせる。

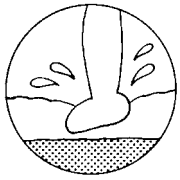
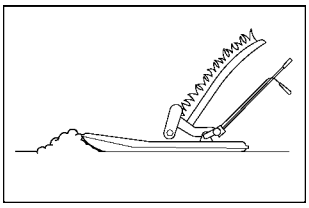
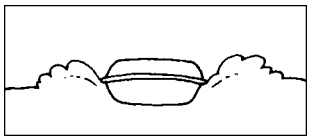
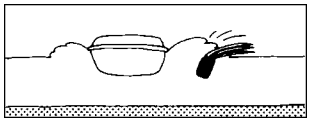
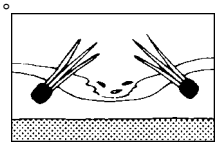
ほ場の処置
ほ場に水を１～３ ㎝程度張り苗が爪より離れやすくする。

機械の処置
別売り（オプション）のクリーナ（押出し金具）を取付ける。</td>
<td> 
 
1AKACAIAP252A</td>
</tr>
</table>

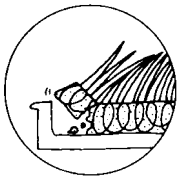
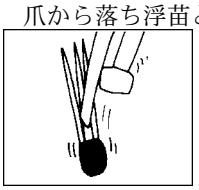
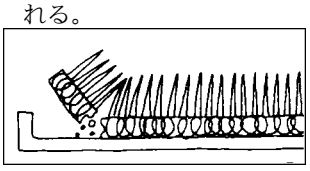
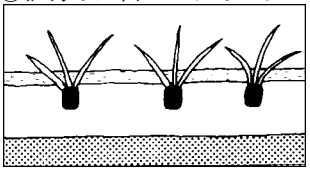
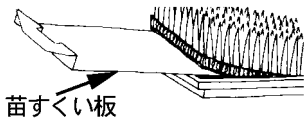
浮苗が出る・植付けが乱れる

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
水深が３ ㎝以上あるほ場。 	①フロート通過跡に水が流れ込んで植付けた苗又は，隣接苗が倒れる。   ②植付け姿勢が悪い又は浮苗が発生する。 	**ほ場の処置** 水を落す。水深０～３ ㎝にする。 **機械の処置** ①植付速度を遅くして水の移動をゆるやかにする。 ②植付深さを許せる範囲で深めにする。	 植付深さ調節レバー  1AKAAAAAP876D
ほ場が硬い。 	①爪で開けた穴がふさがらず水を入れたときに苗が浮く。  ②苗を押込むとき，苗が傷んだりバラける。 	**ほ場の処置** ①再度代かきして植えやすい硬さにする。 ②水を１～３ ㎝入れ軟らかくして植える。 **機械の処置** ●植付速度を遅くして苗をゆっくり土中に押込むようにする。	
根張りが悪く，床土が砂質の苗で，しかも苗が爪から離れやすく，水につかると床土が溶ける苗。	①苗がころぶ。  ②水がある場合，浮苗ができる。 	**ほ場の処置** 水が多い場合は水を落とす。 **苗の処置** ①根張りのよい床土がブロックになる苗にする。 ②床土は水に溶けにくい土質のものにする。 ③植付け前に苗床に少し水気をもたせる。 **機械の処置** 別売り（オプション）の苗キーパを取付ける。	爪取付け用のスタッドボルトに共締めする。  苗キーパ  1AKACAIAP266A

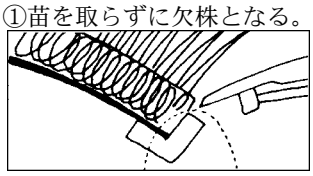
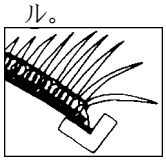
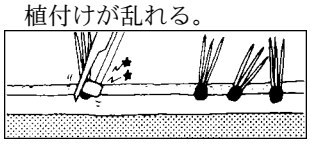
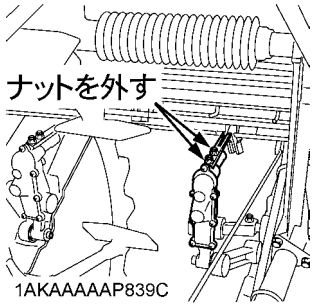
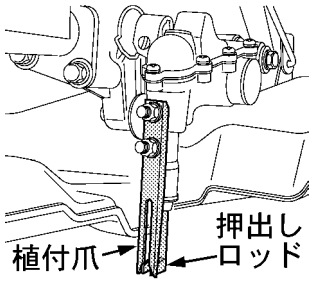
田植機の不調と処置

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
表面がトロトロで軟らかいほ場。 	①フロートが沈み，泥を押す。   ②泥を押して，隣接苗を倒す。  ③フロート通過跡が大きくなり，そこに土が流れ込むとき，植えた苗が内側に倒れる。 	**ほ場の処置** ●水を落として表面を硬くする又は表面を落ち着かせる。（植付けを延期する。） **機械の処置** ●植付速度を遅くする。	

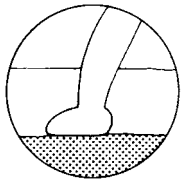
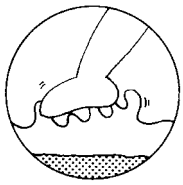
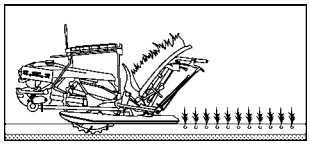
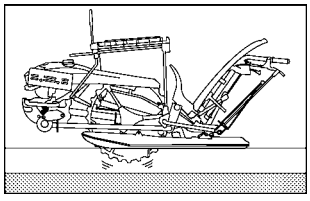
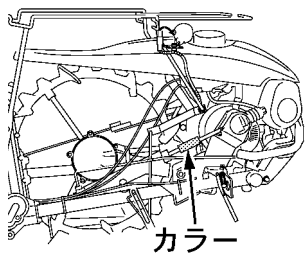
浮苗が出る・植付けが悪い

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
根張りの悪い苗 **床土に粘りがなくくずれやすい苗** 	①苗が植付けになる前に植付爪から落ち浮苗となる。  ②苗を取り出すとき苗がくずれる。  ③植付けた苗がバラける。 	**苗の処置** ①苗床に少し水気をもたせる。 ②苗すくい板を使用して苗がくずれないようにする。 **機械の処置** ●植付速度を遅くする。 ●苗押さえ棒を②（内側）の穴に差換える。	

植付けが乱れる・欠株が出る

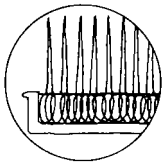
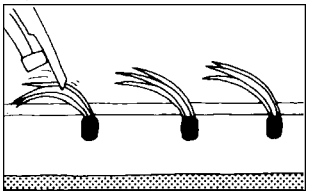
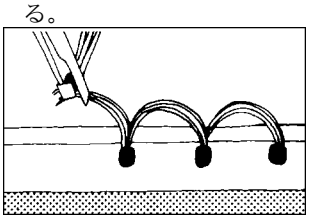
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
植付爪の異常 ●爪の摩耗 ●爪の変形 ●押出しロッドの変形 ●押出しロッドがじゅうぶん押出さない。	①苗を取らずに欠株となる。  ②苗取り後残りの苗がバラケル。  ③押出し金具が押しきらず植付けが乱れる。 	**機械の処置** ①植付爪と押出しロッドの点検。 ●爪の曲がりを直す。 ●押出しロッドの曲がりを直す。 ②爪, 押出しロッドなどの部品を新品と交換する。	 1AKAAAAAP839C  1AKAAAAAP898C

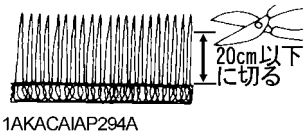
その他の不具合

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
株間が狭くなる **深いほ場**  **強粘土質のほ場** 	①走行抵抗が大きく車輪がスリップして株間が狭くなる。   ②車輪の下がり量が足らずスリップする。	**機械の処置** ●株間を一段広くして坪当たり株数を確保する。 ●車輪の深さ（下がり量）を増やすため青色のカラーを外す。	 1AKAAAAAP847C

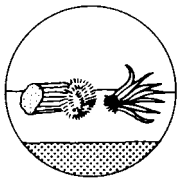
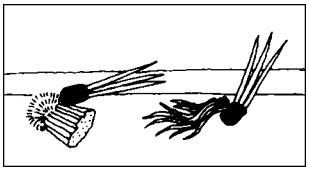
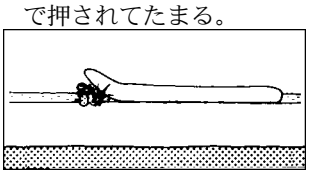
田植機の不調と処置

<table>
<tr><th>このような状態で（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr>
<td>苗の草丈が長すぎる。

草丈が20cm以上ある苗の植付け。
  </td>
<td>①植付けた苗が爪に押されて傾く。
 
②植付けた苗がアーチ状になる。
  </td>
<td>苗の処置
葉先を 20cm 以下に切りそろえる。

機械の処置
①植付深さを深めにする。
②植付速度を遅くする。
③苗押さえ棒の位置を一番上にあげる。</td>
<td> 
1AKACAIAP294A

1AKAAAAAP876D</td>
</tr>
<tr>
<td>夾雑物の多いほ場

代かき後も刈株，ワラ，雑草などが多量に露出しているほ場。
  </td>
<td>①夾雑物の上では，苗が植わらなかったり，植付け姿勢が悪くなったりする。
 
②夾雑物がフロート，整地板で押されてたまる。
  </td>
<td>ほ場の処置
①代かき時，夾雑物をすき込む。
②耕うん前に夾雑物をできるだけ取除く。

機械の処置
①植付深さをやや深くする。
②植付速度を遅くする。
③整地板をあげ夾雑物の掘起しを少なくする。</td>
<td>
1AKAAAAAP876D</td>
</tr>
</table>

付表

主要諸元

型　式　名			SPW-28CB-JP
方　　式			歩行型
機体寸法	全　長（mm）		1820
	全　幅（mm）		880
	全　高（mm）		910
機体質量（kg）			78
エンジン	型式名		MZ80
	名称		空冷４サイクル OHV エンジン
	総排気量（L{cc}）		0.08{80}
	出力/回転速度(kW{PS}/(r/min))		1.6{2.2}/3600
	使用燃料		自動車用レギュラガソリン
	燃料タンク容量（L）		2.5
	点火方式		無接点式マグネト点火
	始動方式		手元リコイルスタータ
走行部	車輪調節		油圧式（上下）
	車　輪	種類	ゴムラグ車輪
		外径（mm）	φ600
	変速段数（段）		前進２
植付部	植付方式		クランク式
	植付条数（条）		2
	植付条間（cm）		30
	植付株間（cm）		11・14・16・18・21・24・30
	植付株数（株/3.3㎡）		100・80・70・60・50・45・37
	植付深さ（cm）		0.7 ～ 3.7（５段）
	一株本数調節方法		苗横送り（２段）及び，縦かき取り量（7 ～ 17mm）
植付速度（m/s）			0.2 ～ 0.77
作業能率（分/10a）			60 ～
苗の条件	苗の種類		マット苗
	草丈（cm）		10 ～ 25
	葉令（葉）		2 ～ 4.5
予備苗とう載数（箱）			1

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

■苗キーパ

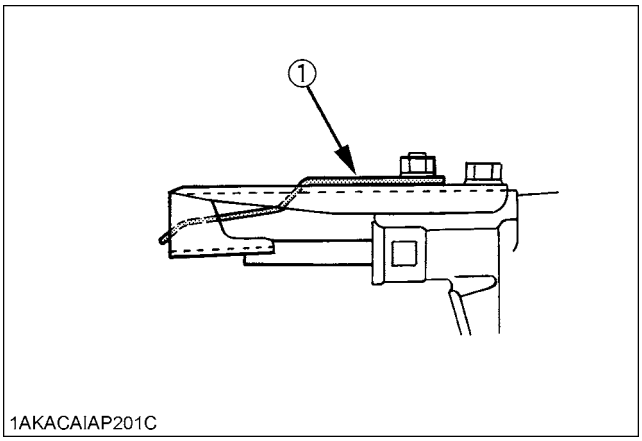
苗キーパは，苗こぼれによるバラケ，浮苗を防止します。

※アッシ（セット）の場合

品 名	品 番	数量
ナエキーパ，キット (2)	PG201-9380-△	1

※単品の場合

品 名	品 番
ナエキーパ	PG001-9381-△

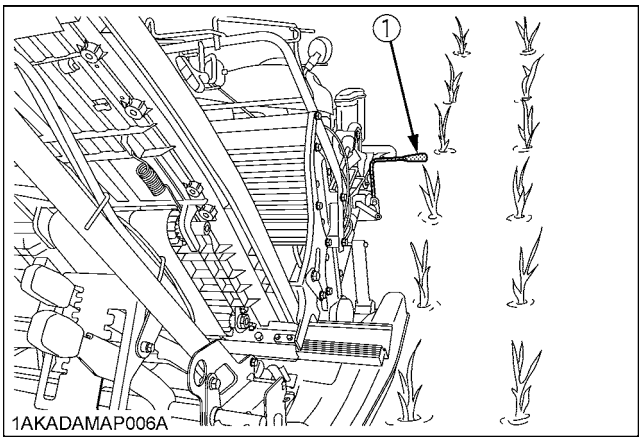


① **ナエキーパ**

■隣接マーカ

次行程の植始めに隣接条の苗の上方にマーカを合わせて植付けると適正な隣接条間が保てます。

品 名	品 番
マーカ，キット（リンセツ）	PG202-9360-△



① **マーカ**

■クリーナ

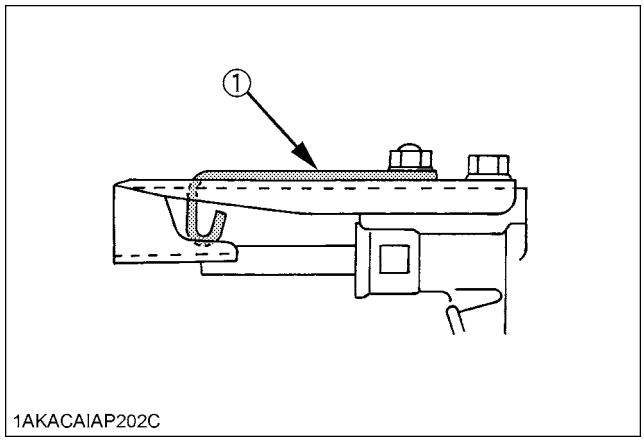
クリーナは，苗を詰まらなくする効果があります。爪の間に苗が詰まり，植付姿勢が乱れたときなどに有効です。

※アッシ（セット）の場合

品 名	品 番	数量
クリーナ，キット (2) (押出し金具，2)	PG201-9370-△	1

※単品の場合

品 名	品 番
クリーナ（オシダシカナグ）	PG001-9371-△

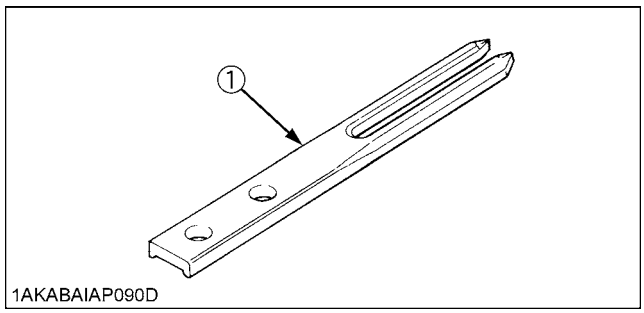


① **クリーナ（押出し金具）**

■植付爪（はし爪）

苗切れが多い場合に使用してください。

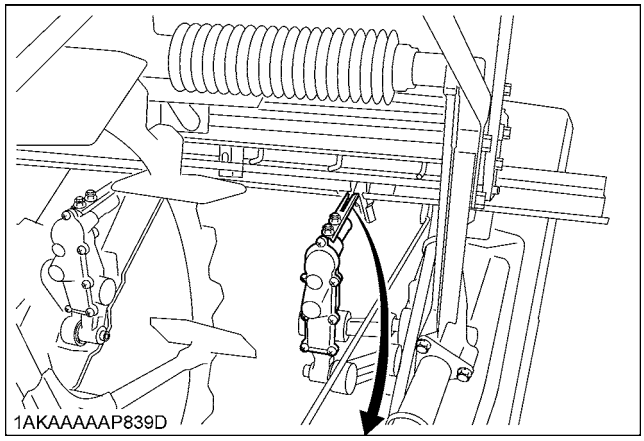
品　名	品 番
ウエツケヅメ (RHS13)	PA401-5371-△

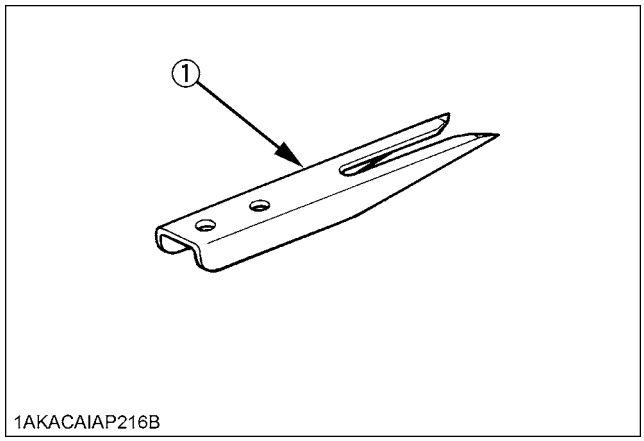


① **ウエツケヅメ (RHS13)**

主な消耗部品一覧表

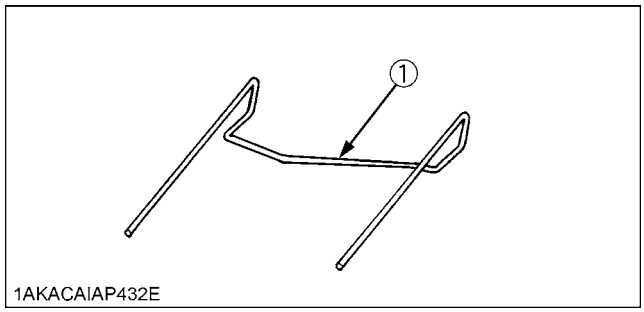
◆ 植付爪





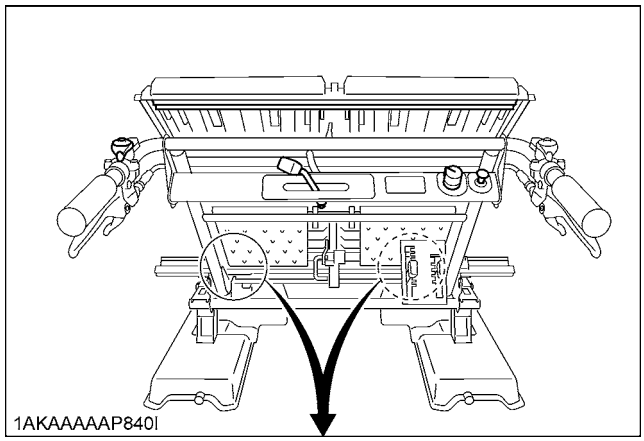
品　名	品　番	個数
ウエツケヅメ（RIS13）	PN401-5167-0	2

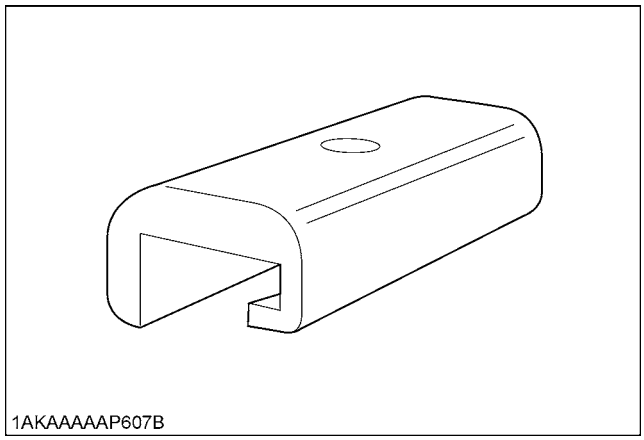
◆ 苗スライドストッパ



品 名	品 番	個数
ストッパ（ナエスライド）	PG004-9115-0	4

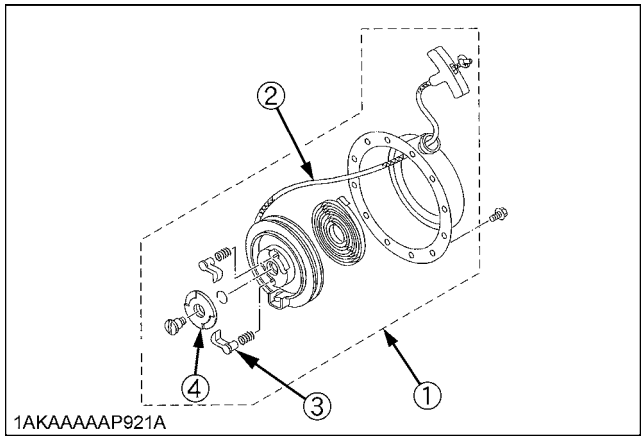
◆ ホルダ





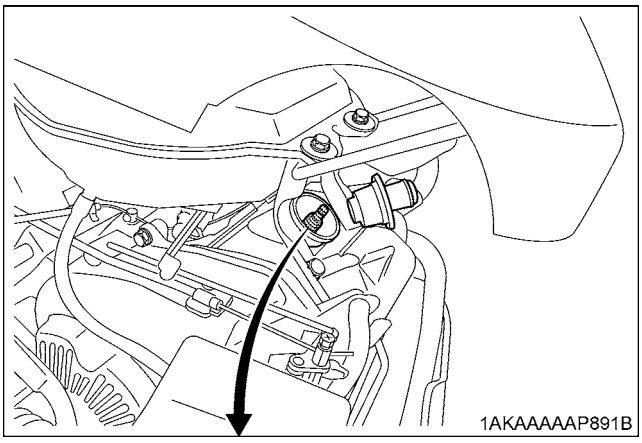
品　名	品　番	個数
ホルダ（シュウドウ）	PG001-4613-0	2

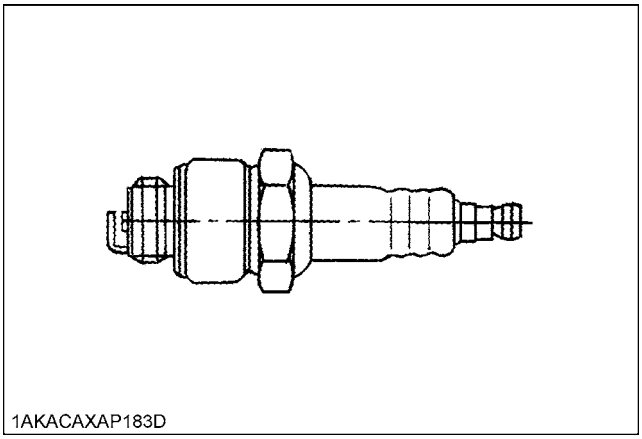
◆ リコイルスタータ



図番	品　名	品番
1	リコイルスタータ，アッシ	LEP04-0069-0
2	スタータロープ	LEP04-0141-0
3	ツメ（ドライブ）	LEP04-0135-0
4	プレート（ドライブ）	LEP04-0138-0

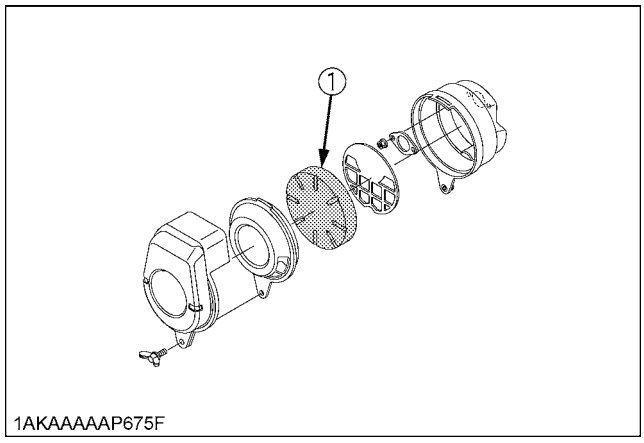
◆ 点火プラグ





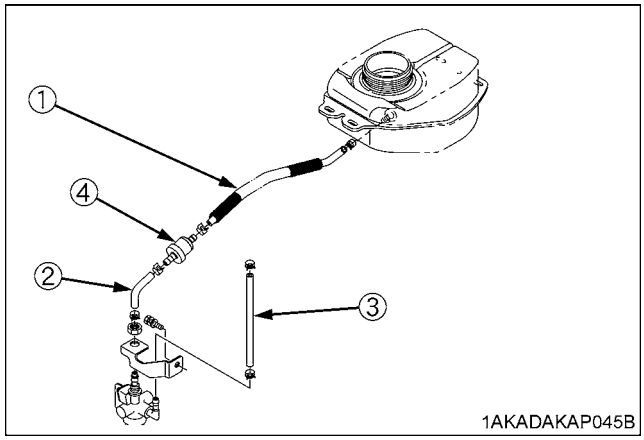
品　名	品　番	個数
プラグ（点火）	LEP04-0016-0	1

◆ エアクリーナエレメント



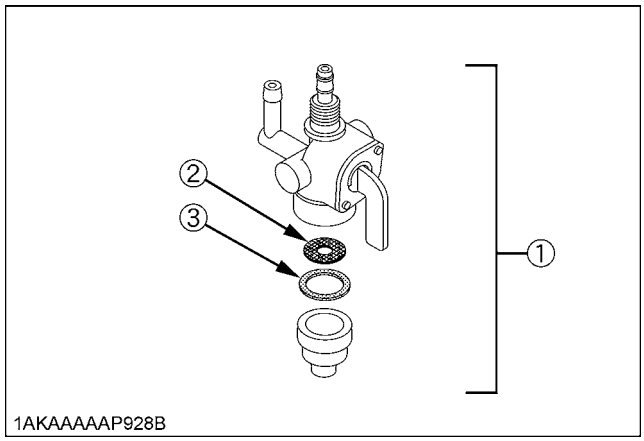
図番	品　名	品　番	個数
1	エレメント	LEP02-0157-0	1

◆ 燃料パイプ・フューエルフィルタ



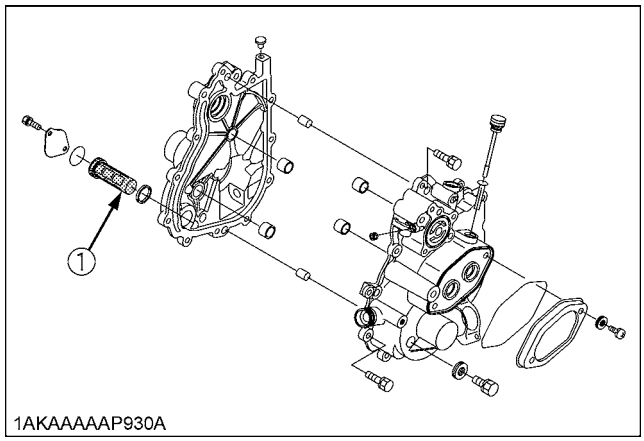
図番	品　名	品　番
1	フューエルチューブ	09664-50190
2	フューエルチューブ	09664-50030
3	フューエルチューブ	09664-50130
4	燃料フィルタ	PG201-8851-0

◆ 燃料フィルタポット・エレメント



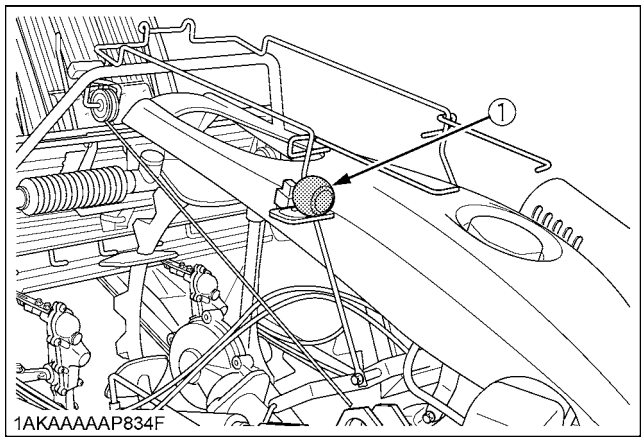
図番	品　名	品　番
1	コック，アッシ (フューエル)	PG201-8880-0
2	フィルタエレメント	PG201-8884-0
3	ガスケット	PG201-8883-0

◆ トランスミッションオイルフィルタ



図番	品　名	品　番
1	フィルタ（オイル）	PG201-1192-△

◆ ランプ



図番	品　名	品　番
1	ランプバルブ	PG201-8612-0

付表

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

- 保証書 1
- 取扱説明書 1
- ギヤ（13 オクリ 20） 1
- ギヤ（11 カブマ） 1
- ギヤ（18 カブマ） 1
- ギヤ（13 カブマ） 1
- ギヤ（17 カブマ） 1
- ギヤ（15 カブマ） 2
- 植付爪（RIS13） 4
- 苗すくい板 1
- ゲージ 1
- じょうご 1
- 工具 1
  （＋）（－）ドライバ 1
  8-10 スパナ 1
  10-12 スパナ 1
  12-14 スパナ 1
  14-17 スパナ 1
  プライヤ 1
  12 ソケットレンチ 1
  ボックススパナ 21 1
  工具袋 1

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は**まず，購入先へ** ご相談ください。

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　） ー

ご購入日	型式	車台番号

エンジン型式	機番	その他装着型式	機番

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

都道府県	お問合せ先	都道府県	お問合せ先
北海道	北海道営業技術推進部	滋賀、京都、大阪、和歌山、奈良、兵庫	大阪営業技術推進部
青森、秋田、山形（庄内地区）	秋田営業技術推進部	岡山、広島	中国営業技術推進部
岩手、宮城、福島、山形（庄内地区以外）	仙台営業技術推進部	島根、鳥取	中国営業技術推進部（米子事務所）
栃木、群馬、茨城、千葉、埼玉、東京、神奈川、静岡	東京営業技術推進部	香川、徳島、高知、愛媛	株式会社四国クボタ 営業技術課
新潟、長野、山梨	新潟営業技術推進部	山口、福岡、佐賀、長崎、沖縄	福岡営業技術推進部
富山、石川、福井	金沢営業技術推進部	大分、宮崎、熊本、鹿児島	熊本営業技術推進部
愛知、三重、岐阜	名古屋営業技術推進部		

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)376-4434　〒061-1274　北海道北広島市大曲工業団地3丁目1番地
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162　〒981-1221　宮城県名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部：電(048)862-1588　〒338-0832　さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1261　〒950-0992　新潟市中央区上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121　〒924-0038　石川県白山市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111　〒491-0031　愛知県一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860　〒661-8567　兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号
中国営業技術推進部：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市東区宍甘275番地
中国営業技術推進部（米子事務所）：電(0859)39-3181　〒689-3547　鳥取県米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500　〒769-0102　香川県高松市国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本市富合町廻江846-1
本社営業技術部：電(072)241-7247　〒590-0823　大阪府堺市堺区石津北町64番地

株式会社クボタ

機械東日本事務所：電(048)862-1121　〒338-0832　さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970　〒661-8567　兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号

SPW-28C
AQ．C．4-4．-．AK

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

このラベルは「(社)日本陸用内燃機関
協会排出ガス自主規制適合エンジン」
であることを示しています。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

品番　PG231-9151-2